

開 港 5 都 市
景 観 ま ち づ くり 会 議

長 崎 大 会

開 催 記 録

開港都市の遺伝子を伝える
～長崎から21世紀に発信する都市文化の創造～



日時●平成12年10月6日(金)～8日(日)

目次

1—— 大会あいさつ

2—— 全体プログラム

2—— 参加団体名簿

全体会議 **1**

3—— 第1部.総会

3—— 主催者あいさつ 大会実行委員会会長 橋田 克男

4—— 来賓あいさつ 長崎市長 伊藤 一長

5—— 開港5都市参加団体紹介及び活動状況報告

9—— 第2部.記念講演

9—— 「長崎と煉瓦」
～日本の煉瓦のルーツは長崎～ 喜田 信代

ウェルカムパーティ

21—— プログラム

22—— 参加者名簿

地域分科会

23—— Aコース

24—— Aコース トークイン①講演

35—— Aコース トークイン②質疑応答

40—— Bコース

44—— Cコース

46—— Cコース パネルディスカッション

各都市代表者会議

59—— 参加者名簿・議題1

60—— 議題2・議題3

全体会議 **2**

61—— 地域分科会報告

65—— 代表者会議報告

66—— 開港5都市景観まちづくり会議規約

67—— 開港5都市景観まちづくり会議長崎大会実行委員会規約

68—— 大会アピール

69—— 会長謝辞・次回開催地会長あいさつ

70—— 掲載新聞

71—— 終了報告

72—— 次回開催のお知らせ

開港5都市景観まちづくり会議 長崎大会

この秋、私達のまち長崎市において「開港5都市景観まちづくり会議長崎大会」を開催させていただくことになりました。この会議は、安政の修好通商条約により開港した5都市（函館・新潟・横浜・神戸・長崎）の市民団体が、それぞれのまちにおいて、開港都市としての歴史や文化を尊重し、身近なまちなみの形成やまちづくりに取り組む活動を互いに確認しあい、交流を図るため、平成5年秋に神戸市において始まりました。

その後、毎年各都市において順に会議が開催され、その成果は、それぞれの活動に活かされつつあるほか、市民団体相互の交流も盛んに行われるようになりました。

今回の「開港5都市景観まちづくり会議長崎大会」につきましては、私達、長崎のまちづくり活動に取り組む市民団体が中心となって実行委員会を組織し、大会運営を成功させるべく準備を進めてきました。

今年は、折しも「日蘭交流400周年記念」の年に当たり、様々なイベントが開催されており、この記念の年に「開港5都市景観まちづくり会議長崎大会」を開催できましたことは、誠に意味深いことと感じております。

**【大会テーマ】 開港都市の遺伝子を伝える
～長崎から21世紀に発信する都市文化の創造～**

【開催日程】 平成12年10月6日(金)～8日(日)(会議プログラム参照)

長崎大会実行委員会

【主催】 開港5都市景観まちづくり会議長崎大会実行委員会

長崎市、山手地区景観まちづくり協議会、
平和公園地域まちづくり協議会、十善寺地区まちづくり協議会、大浦居留地商店街、
東山手地区町並み保存会、南山手地区町並み保存会、長崎南山手地区観光推進協議会、
長崎ネットワーク市民の会

【後援】 NHK長崎放送、NIB長崎国際テレビ、NCC長崎文化放送、NBC長崎放送、KTNテレビ長崎、
長崎ケーブルメディア、長崎新聞社、エフエム長崎、ザ・なざさき、ながさきプレス

【協賛】 アティーエックス(株)、荒木窯業(株)、(株)大坪敏秀商店、九州電力(株)、九州ポラコン(株)、
(株)建友社建築設計、(株)サイト、(株)酒の吉田屋、(株)産研九州長崎支店、(社)十善会、
新地中華街商店街振興組合、長興産業(株)、長崎蒲鉾(有)、(株)寺田電気商会、
2000年ロードレース実行委員会、ホクショウ(株)、(株)星野組、三菱重工業(株)長崎造船所、
(株)ヤマウ、ペプシコーラ長崎販売(株) (順不同)

全体プログラム

開催日時		プログラム	
10月6日 (金)	14:00~17:00	全体会議1	会場/長崎原爆資料館ホール
		受付(13:00~)	
		開会セッション	開会式(総会) 記念講演 各都市活動状況報告 講師 喜田 信代氏「日本れんが紀行」著者 テーマ 「長崎と煉瓦~日本の煉瓦のルーツは長崎から~」
	18:30~20:30	ウェルカムパーティー	会場/グラバー園内オルト邸前庭
10月7日 (土)	9:30~16:30	地域分科会	会場/各地域分科会会場
		A 旧長崎居留地の秘話 ~ここに眠る人々の暮らしと業績~ タウンウォッチングとトーク・イン 会場/野口彌太郎記念美術館集合・ 旧香港上海銀行長崎支店記念館ほか (東山手・南山手地区周辺)	B もうひとつの長崎との出会い ~長崎・唐人屋敷~ タウンウォッチングとトーク・イン 会場/湊公園集合・ 福建会館天后堂ほか (新地・館内地区周辺)
		C 煉瓦で語る平和のまちづくり タウンウォッチングと パネルディスカッション 会場/原爆落下中心地公園集合・ 三菱重工業(株) 長崎造船所展示館ほか (平和公園地区周辺ほか)	
	17:30~19:30	各都市代表者会議	会場/花月(県指定史跡)
	17:00~21:00	オプションツアー	長崎くんち観覧(諏訪神社)
	20:00~22:00	会場/各会場	ライトスケープ(中島川周辺~ロープウェイにて稲佐山へ)
10月8日 (日)	10:00~12:00	全体会議2	会場/旧香港上海銀行長崎支店記念館
		閉会セッション	各分科会報告まとめ 閉会式(総会)

【参加団体】

【函館市】 函館市都市建設部都市デザイン課	【神戸市】 美しい街岡本協議会
【新潟市】 サンプロム商店街	武庫川女子大学
にいがた花絵プロジェクト	北野・山本地区をまもり、育てる会
光のページェント	【長崎市】 山手地区景観まちづくり協議会
新潟あきんど塾	十善寺地区まちづくり協議会
新潟市建築指導課都市景観室	平和公園地域まちづくり協議会
【横浜市】 横浜市都市計画局都市デザイン室	長崎南山手地区観光推進協議会
山手234番館運営委員会	東山手地区町並み保存会
山手地区景観まちづくり協議会	南山手地区町並み保存会
赤レンガネットワークの会	大浦居留地商店街
【神戸市】 (株)地域問題研究所	深堀地区まちづくり推進協議会
栄町通周辺まちづくり懇談会	三ツ山町犬継自治会
旧居留地連絡協議会	記憶の中の長崎案内塾(長崎伝習所)
魚崎郷まちなみ委員会	【事務局】 長崎市都市計画部都市景観課
新長田駅北地東部いえなみ委員会	長崎市都市建設部まちづくり課
神戸市都市計画局アーバンデザイン室	長崎市観光部観光宣伝課
神戸南京町景観形成協議会	

全体会議 1

【日時】
平成12年10月6日(金) 14:00~17:00

【場所】
長崎原爆資料館ホール

【参加人数】
220人

第1部. 総会(14:00~15:00)

主催者挨拶 開港5都市景観まちづくり会議長崎大会
大会実行委員会会長 橋田 克男

来賓挨拶 長崎市長 伊藤 一長

開港5都市参加団体紹介および活動状況報告

(休憩) 15:00~15:15

第2部. 記念講演(15:15~17:00)

講師 喜田 信代 氏(「日本れんが紀行」著者)

テーマ 「長崎と煉瓦」

~日本の煉瓦のルーツは長崎~



開港5都市景観まちづくり会議長崎大会実行委員長 橋田 克男

開会にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

本日は、このように多数の方のご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

この会議は、皆様ご承知のとおり、安政の修好通商条約により開港した函館、新潟、横浜、神戸、そして長崎の5都市において、それぞれ開港都市としての歴史や文化を尊重し、身近なまちなみの形成やまちづくりに取り組んでいる私ども市民団体が、情報交換を密にし、交流を深める場として、平成5年秋に神戸市において始まりました。その後、毎年各都市において順に会議が開催されており、長崎で開催いたしますのは、平成6年以来、今回が2回目ということになります。

また、今年は、折しも「日蘭交流400周年記念」の年に当たり、長崎をはじめとして全国各地様々なイベントが開催されており、この記念の年に「開港5都市景観まちづくり会議長崎大会」を開催できますことは、誠に意味深いことと感じております。

さらに、今年は、良好な都市空間の創出と景観形成の促進を目的として、平成3年度より実施されてまいりました、「都市景観大賞」の最終年度にあたりますが、長崎市の「中島川・寺町地区」が『都市景観100選・建設大臣賞』の表彰を受けました。長崎市にとりましては、平成4年度に、同じく表彰されました「東山手地区・南山手地区」につづき、2ヶ所目でございます。

申し上げるまでもなく、この地区は、中島川と風頭山に囲まれた地域で、「眼鏡橋」や「興福寺」、「崇福寺」さらには、「亀山社中跡」などの史跡や観光名所が多く、海外交流による大陸文化と下町の文化が混在し、長崎を代表する風景を形作っております。

今回は、この長崎の心象風景を代表する場所であるということに加え、地域の自治会やまちづくり団体と行政が一体となって進めてきたまちづくりが、評価されての受賞になったものと思います。

本日は、長崎くんちを明日に控え、残念ながら、お膝元の中島川・寺町地区のご参加はございませんでしたが、今後の更なるご活躍を願っております。

さて、この記念すべき年の、「開港5都市景観まちづくり会議長崎大会」につきましては、海外との交流の中で培われた歴史や文化を振り返り、新しい世紀に引き継がなければならないものを考える大会と位置づけ、基本テーマとして「開港5都市の遺伝子を伝える」と定めて、それぞれの都市の個性を考え、未来に伝える機会にすべく準備を進めてまいりました。

これから3日間という限られた時間ではありますが、有意義な大会になりますよう、皆様方の活発な論議と楽しい意見交換をして頂きたいと考えておりますので、よろしくご協力をお願い申し上げます。

なお、明日は、私どもがまちづくりに取り組んでおります地区をご覧いただくことにいたしておりますので、素直なご意見をお聞かせくださいますようお願いいたします。さらに、長崎の伝統的なまつりである「長崎くんち」などもご覧いただくよう準備しておりますので、お楽しみいただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、この会議の開催に際し、各方面の団体、企業の皆様のご支援を頂いております。この場をお借りしまして、心から厚く御礼申し上げます。

それでは、この会議の成果が、今後の皆様方の活動に活かされますとともに、ご臨席の皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、はなはだ簡単措辞ではございますが、私のごあいさつとさせていただきます。



【函館市】函館市都市デザイン室 さいとう ちかみ 齋藤 庶民

今日の開港5都市景観まちづくり会議長崎大会に向けて、函館市の各市民団体である『元町倶楽部』とか、『函館の歴史・風土を愛する会』、『函館市伝統的建造物保存会』などにそれぞれ呼びかけをしたんですが、お体の調子が悪い方とか、仕事の都合で行けないという方がおられまして、結局、私ひとりで参加することになりました。

函館では今年になりまして、一つ大きな問題が起こっておりました。全国的なテレビ番組の「東京マガジン」「うわさのチャンネル」でも取り上げられましたが、函館市の都市景観条例で指定しています都市景観形成区域があります。この区域は、伝統的建造物保存群を含めまして、約120haあります。その地域に8階建の高層住宅を建てて、これを20年間市が市営住宅として借り上げるということを計画しました。それに対しまして、その住宅のちょうど裏側に住んでいる人（その方は伝統的建造物を2件所有しています）が、「建物をもう少し低くしてくれないか」と建設に反対しました。要するに港が見えなくなるので、少しでも下げてもらえないだろうかというお話でした。市役所に来ていただいて、その方と随分話をしていたのですが、結局、それらのことが、各市民団体に伝わりまして、先程も紹介しました、『元町倶楽部・函館の歴史的風土を守る会・西部地区の構造建築を考える会・西部街並み倶楽部・伝統的建造物保存会一同』ということで、5団体から反対運動が起こりまして、テレビ番組にも取り上げられたという経緯でございます。

そういうことがありまして、今回誰も来なかったという訳ではございません。それだけは、強く申しておきます。(笑)

市長ともいろいろ話をしまして、結局その住宅は、一部6階建てに下げました。一応、今、建設しておりますし、市民団体5団体のうち4つの団体までは、やむを得ないだろうということになりました。ただ一つ、その伝統的建造物を保存し、住宅の裏に住んでいらっしゃる人を含めた『有志の会一同』が、伝統的建造物の指定返上を申し出ております。まだ、取り下げているんですけど、そういう状況です。

この場所は景観形成地域なんですけど、ゾーンが3つに分かれていまして、函館山のふもとに近い方、そこは住居地域ということで、高さ規制が13mの『住宅地景観ゾーン』になっています。海側の方が、高さ20mで『港湾地景観ゾーン』、今問題の建物を建てている場所が、『住所を含むゾーン』で、高さ25mの規制のかかるゾーンです。そこに、約24m(23.65m)の建物を建てようという事に反対がありました。

今の函館市の都市景観条例、その前の西部地区歴史的景観条例（今の条例になる前の条例）を作るときから、各市民団体の方にも入って頂いて、条例案を作成したという経過もありまして、今回何故このような事態になったのかという反省を踏まえまして、条例を見直すことを議会にも報告しています。それで、今、都市景観審議会の中に、条例検証の専門部会を設けまして、これから始めようとしていますし、また、地域の住民の方々や、まちづくりの市民団体の関係の方々を入れまして『西部地区まちづくり懇話会』を新設しました。地域の要望なり、地域で考えていることを条例にどう反映させるかを話し合います。その第1回目の会議が今日地元で開催されています。現在そういう状況です。これが、函館市の昨年からの市民団体を含めての活動状況です。簡単ですが、報告とさせていただきます。

【新潟市】にいがた花絵プロジェクト おやなぎ ゆきひろ 小柳 行弘

素晴らしい景観会議だなと思って、とても緊張しています。今回の会議を楽しみにしてまして、新潟からは、13名の参加で来ました。これは、最高の参加人数かなと思っていたら、やはり神戸



皆さん、こんにちは。長崎市長の伊藤一長でございます。

今、長崎大会の実行委員長長の橋田会長様からお話がありましたとおり、360年続いています「長崎くんち」がいよいよ明日から本番でございます。このくんちの出し物は、毎年毎年同じものではなくて、一回見ましたら、次は7年後しか見られないという、そういう歴史等も含めて、贅沢な祭りでございますが、日蘭交流400周年の年、ミレニアムの年だからではないんでしょうけれども、いろいろ重なりまして、今年は相当ボリュームのある出し物のようでございます。楽しみにしていただければありがたいと思います。

5都市の皆様方、ようこそ長崎においでくださいました。長崎の関係の方々、かねてより斜面の多い長崎のまちづくりにつきまして、大変ご尽力、ご努力いただいております。厚く御礼申し上げます。本当に有り難うございます。

さて、長崎市には、同時通訳ができるブースを持った、いわゆる長崎国際会議ができる会議場が2つあります。一つは、茂里町の長崎ブリックホールにある国際会議場で約500人収容できます。もう一つが、ここ原爆資料館のホールで、約350人収容になっています。

今日ここに来まして、「何でこの正面に、日の丸の国旗と長崎市旗を飾っておかなかったの？」と担当に言いました。日の丸国旗は法案で通りましたから、きちっとしとかなないといけないんですが、開港5都市の会議をするのに、何故、長崎市旗を飾らなかったのかと思います。

もうお気づきの方もいらっしゃると思いますが、私が今胸にしております、これが長崎市の「き章」でございます。実はこの中に市が5つあります。「市」という字が星型の中に5つ入っているのです。この5つの市とは、神戸市さん、横浜市さん、新潟市さん、函館市さん、そして長崎市。開港5都市をそのまま市の「き章」にしているのです。おそらく、大変失礼ですけども、他の4都市は、まだそこまで思いを込めてはいないのではないかと思います。(笑)

この「き章」が出来て101年になります。もちろん、日本で一番古い市の「き章」でございます。港が開けたことによって栄えてきた長崎の街ですと、いわゆる日本の開港5都市ですよ、というそういう熱い思いが、その時代から、脈々と今日まで引き継いできていますし、これからもやはり、その歴史性とか今日までの歩みとか、先人の努力とか、そういうものを、私たちは引き継ぎながら、まちづくりに取り組んでいかなければならないと思っています。

正直言います、長崎のまちづくりは斜面ばかりなので大変難しゅうございます。また平地が少ないので、明治時代からずっと埋め立てを行いまして、出島の周りまで埋め立ててしまっています。それで、出島は昔のような形じゃなくて、どこにあるのか解らない状態になってしまいました。

確か今日までの日程で、全国の史跡整備協議会全国大会が文化庁の方や、議員連盟の先生方とかたくさんの方々がお見えになって開かれています。そういう皆様方のお力添えをいただきまして、埋め立てた場所をもう1回用地買収しまして、また新しく、あの扇型を復元しようじゃないかと、本物の場所の本物の出島を復元しようじゃないかと考えています。

これはもう世界遺産に匹敵する一大事業であります。中身もそれだけボリュームがあります。そういうことも含めて、斜面を抱えたまちづくりというのは非常に問題が多いです。

今日ここに、5都市という御縁でお集まりいただき、しかも日本の近代化の大きな足跡を果たしてきた5都市という誇り、歴史性そういうものを含めて、皆様方のご努力をたたえながら、お互いに情報交換とか、連携を密にして、これからもまちづくりをしっかりと頑張らなくてはいけないと考えているところでございます。

限られた日程でございますけれども、この実りの秋にふさわしいように、たくさん成果を持って帰っていただきまして、今後とも私ども長崎に対するご指導等をいただきながら、共に連携をして少子化、高齢化社会に入りました21世紀を、たくましい素晴らしいものにするために、共々に頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

以上を持ちまして地元市長としての歓迎のご挨拶、そして御礼の言葉とさせていただきます。



市さんにはかいませんでした。その近くに『磐梯島』という小さな島があるんですが、その開発が進められています。これらに関しての景観など、今新潟市は、いろいろな景観が変わろうとしています。

今回は、「新潟市都市景観形成市民団体連絡協議会構成団体」から参加させていただきました。この会は、9団体と一個人の10グループで構成されています。プラス新潟市建築指導課都市景観室と一緒に新潟の景観を考えている会です。そんな中で、市民として新潟の景観をどうやって創っていかうかという事を、この団体でいろいろ考えています。新潟市民の景観に対する考えとか、思いを出しあい、皆で景観を学ぼうということで、今年春、2月、3月、4月に『新潟の景観講座』を開設しました。3回の講座で、参加者が、こちらが予定していた人数よりも多くて、各回100名位の参加者がいました。新潟の景観というものを皆さん考えているんだと痛切に感じました。この講座の詳しい内容については、お手持ちの資料の中の『景観ネットワーク』に掲載しておりますので、後でご覧になってください。

新潟の状況を申し上げますと、現在は、とても大きなプロジェクトが立ち上がっています。例えば、『富山潟』という潟があるのですが、そこに今、サッカー場が造られています。また、『信濃川』という大きな川が流れていますが、その下に現在、橋を造っています。また、こんな活動を今、新潟の市民団体は続けております。この講座が結構好評で、10月から、また第2期ということで始めたいと考えています。今年1年の活動としては、これが一番大きなものでした。各団体ともあちらこちらで活動されていますが、それもだんだん大きくなってきていて、各市民団体が非常に頑張っているという感じをもっています。

また、今年は、私の個人的な団体ですけど(花絵プロジェクト)チューリップを通じまして、今回、横浜市の方々とコミュニケーションすることが出来まして、今日のこの会議が素晴らしい会なんだと、そういう交流をこの会議でやっていければいいなと考えております。

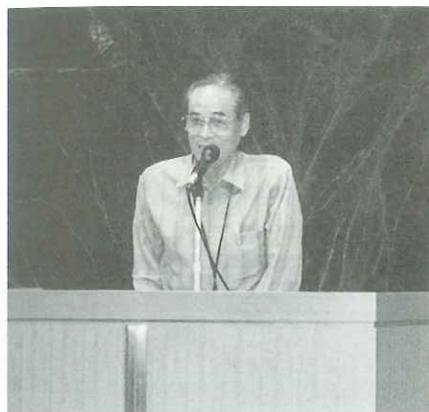
新潟としては、これからいろいろなことが起こりうると考えています。それも、大きな建造物とか建っていくわけですが、できれば、市民の声を聞きながら、一緒につくっていただければいいなと思います。自分たちのまちづくりを自分たちの力で行ないたいなと考えています。以上です。ありがとうございました。



【横浜市】山手まちづくり協議会 天川勝三郎

今回のこの長崎大会に参加できたことを、大変嬉しく感じております。長崎市の皆様には、開催にあたって、大変なご努力をなされたことと思ひまして、これにも感謝し、心からありがとうございます。それから、今日の参加者ですが、横浜からわずか4名と誠に申し訳ないんですが、実は地元の大きなイベントと重なりまして、『元町』、『馬車道』とかが、皆、そちらにとられまして、こちらまで来る余裕がないということで、欠席させていただいています。大変わずかな人数しか来ませんが、神戸さん、新潟さんには誠に申し訳ない次第で、お詫びしなきゃいけないんじゃないかと思ひます。

さて、現在の横浜の状況ですけれども、我々市民活動を進める者を取り巻く状況といたしまして、



この3月に『市民活動推進条例』が、制定されまして、この夏から施行されています。また、これに合わせまして、市民活動に対する支援の幅が広がったり、助成制度ができたりと少しずつですけれども、我々市民の自主的なまちづくり活動がしやすい環境整備が進んでいると感じています。

また、最近横浜では、公共施設を市民の手で運営しているものも多くなってきています。そしてこの各施設の運営を手がけている市民が集まりまして、『横浜市民運営施設フォーラム』という情報交換会などを開催しております。この場では、各施設の汗と笑いの奮戦記だとか、あるいは、

それぞれの施設が持っているノウハウ(情報)を交換しあひまして、そこで得たものを自分たちの施設の運営に繁栄させるように取り組みを進めております。

そこで、市民運営されている中の一つであり、私もその運営に関わっております『山手234番館』について、少しお話させていただきます。

『234番館』これは、「234番地に建った家」という意味で、もともと外国人向けのアパートとして使われていた昭和初期の歴史的建造物でございまして、横浜市が取得して改修工事を行いました。市民利用施設として整備した公共施設でございまして。昨年の7月にオープンしましたので、約1年2ヶ月が経過しています。この施設の会館準備を進めるにあたりましては、どのような施設にしていくかなど、企画当初より市民と行政で協力して進めました。『パートナーシップ推進モデル事業』という事で、行なわれました。その中では、市民自身が準備委員会を設けて、様々な検討を重ねたり、中でも52時間だけ、実験的にオープンをしてみ、事前に課題を探し出して、正式オープンまでにそれらの課題について解決を図る方法について更なる検討を進めたという状況がございまして。そして現在、実際の施設運営にあたりましては、『地域の町内会の関係者』、私もその1人になるわけです。『市民ボランティア団体の代表者』、『一般公募により選出された有志の市民』、そのようないろいろな市民代表によりまして構成される『運営委員会』、『企画委員会』、この2つの委員会がございまして、そこで議論しながら多くのボランティアの協力を得て運営しております。ボランティアの数もかなりの人数が集まっておりまして、施設の情報誌を作る仕事、それから、庭の手入れをしてくれる人、インターネットを使ったホームページ作りをする人、講演会や演奏会などのイベントを企画する人等、それぞれ専門的なことに分かれまして活動しています。延べ80人位になるかと思ひます。これが、円滑な運営が図れている原因だと思ひます。

この『山手234番館』役割としましては、大きく分けて2つの役割があります。一つは多くの歴史的建造物が残っている山手地区であるという特性から、「歴史的建造物や、それを取り巻く周辺環境の保全活用、これに向けた普及啓発活動を行なうこと」。もう一つは、「山手のまちづくり情報を発信し、市民同士の交流の拠点的な場所とすること」です。この2つを柱に今、運営を続けているということになります。

山手地区というのは変わった街でして、幼稚園から大学まで学校が10校あります。公立もありますし、私立、ミッション系、あるいは中華系もございまして。それほど相互に交流が活発ではなかったんですね。ところが、この234番館の自由企画の一つとして『ユースギャラリー』というものを計画しまして、各学校の生徒さんが制作した絵画などの美術作品を共同展覧会として開催しました。この企画が非常に好評を得まして、現在では定期的に開催しております。各学校の先生方も234番館の活動に賛同してございまして、今後も引き続き、学校間の交流や、地域住民との交流を深めていきたいということで、もっと発展的な事業ができるのではないかと考えている次第でございまして。

この4月には(ゴールデンウィークの直前だったんですが)、開港5都市景観まちづくり会議をきっかけとして交流が生まれました、『いがた花絵プロジェクト』の皆さんと協力をさせていただきました。我々『山手234番館』でもチューリップの花絵を完成させることができました。新

潟の皆さんが作成する花絵には到底足元にも及ばない不出来な物でしたが、初めてなりに何とか形にすることができたと思います。来年もいい物を作っていきたいと思うと共に、この開港5都市景観まちづくり会議で交流ができた方々と、引き続き、更に密接な関係を築くことができればいいのではないかと考えています。今回の会議で更に5都市の交流を深めつつ、共に課題や夢を語り合ひまして、3日間を有意義なものにしたいと考えています。

【神戸市】 旧居留地連絡協議会 田中三郎

神戸の報告をいたしますが、その前に一言皆様方に御礼を申し上げねばなりません。それは、今年の神戸大会では、皆さんから非常なご支援とご援助を頂いたこととさせていただきます。こういう席上で御礼を申し上げるのは甚だ失礼だとは存知しますが、是非申し上げたくて、この場をお借りしまして、厚く感謝を申し上げます。

神戸の報告でございますが、昨年より景観に関わる団体が4団体から8団体に倍増しています。それぞれの団体は、それぞれの個性ある景観形成をその土地の特性に合わせて実施しています。しかし、8団体ともなれば、共通のテーマを選んでやってもいいのではないかとということで、今年から講師を招いて勉強会を開催しています。

第1回は、歴史の勉強でした。歴史をどうして選んだかということ、講師が他にいなかったから、歴史の先生を呼んで来て勉強したというわけです。(笑) 歴史は、景観とはあまり結びつきがないように思われますけれども、いろいろ勉強してみますと非常に参考になることがございます。長崎で例にとれば、グラバー邸になります。ここに立ちますと、長崎の歴史が頭にじっと浮かんでくるわけです。景観を見て歴史を連想するという箇所は大変少ない訳でございます。神戸は、源平の合戦の主戦場となりましたし、史跡には事欠きません。しかし、グラバー邸のような所はないんです。我々は、目で見る景観以外に歴史から受ける印象と申しますか、感動を受けて、その景色を素晴らしいなあと思うわけでございます。神戸には、グラバー邸は無いのだろうかという疑問に感じます。あるんだろうけれど、気が付いてないだけなのかも知れません。そういう意味では、神戸の景観形成の活動は、「神戸のグラバー邸発見」ということになるのでしょうか。

さて、神戸は、被災から5年を経過いたしました。全国からの暖かい支援を頂いて元気付けられました。そして、復興に努力してまいりました。未だ、復興の途上ではございますけれども、区切りはつけなければなりません。お世話いただいた皆様方に来ていただいて、御礼を申し上げたいと思います。それから、神戸の復興の状態も見ていただきたいと思っております。そういう事で、来年の1月17日、これは震災記念日にあたりますが、この日から、9月30日まで、『人、街、未来と神戸2001』という題をつけまして、イベントを開催いたします。非常に長期間にわたるイベントでございます。市民と、行政、或いは企業が一体となって企画したイベントでもございます。今日私は、皆様方にこの冊子をお届けしております。この冊子を見ていただいたら解りますように、『花』



とか『光、彩り、夢プラン』という、それぞれいろいろなテーマを選んで、この時期、神戸の各所でイベントが開催されます。是非、大勢の方に来ていただきたいと思ひまして、誠に前広のPRでございますけれども、このことを申し上げて、私の神戸からの報告とさせていただきます。

演題 「長崎と煉瓦」
～日本の煉瓦のルーツは長崎～

皆様こんにちは。喜田信代です。今日は、「開港5都市景観まちづくり会議長崎大会」にお招きいただきましてありがとうございます。これから「長崎と煉瓦～日本の煉瓦のルーツは長崎～」ということで、お話を進めて参ります。

私は長崎市で生れ育ちました。結婚して夫の仕事の都合で何回か引越しをし、今は札幌市に住んでおります。子供も社会人になりまして時間のゆとりもできました。長崎を離れてからの時間の方が長くなりましたが、札幌の暮らしでの季節感よりも、子供の頃から身についた季節の感覚が先に働いていることがあります。

札幌では10月の終わりが11月の始め頃、1度雪が降ります。初雪も、薄っすらと化粧をするのではなくて、大変気前がいいのですが、そんな北海道の住まい方の常識を勉強しようと、カルチャーセンター感覚で放送大学に入り、「住まいと環境」という講座を受講しました。1992年のことです。

札幌に住んでもう10年以上過ぎましたが、住み始めた頃から気になる小さな煉瓦の建物があります。住宅でもない、倉庫でもなさそうな建物で、通りに沿って何棟かの煉瓦の建物やサイロが残されています。最初に気になった煉瓦の建物は「りんご倉庫」だとわかりました。札幌は開拓以来りんごの栽培が盛んで、最盛期にはウラジオストックなど、海外にも輸出したことがあったそうです。私は長崎の親しい友人や家族に、「りんご園とりんご倉庫」を通して、現在私が住んでいる町を紹介したいと思ひました。そこで写真を撮り始めました。

倉庫はほとんど個人の所有で敷地の中にありますから、所有者の方に「写真を撮らせてください」とお断りしながら写しました。私は煉瓦のりんご倉庫が珍しくて、写真を撮っていましたが、元農家のおじさん、おばさん達は自分がりんご農家として働いていた頃の事を走馬灯のように思い出されたようで、休み無く1年間、雪の季節から仕事をしなければならなかったりんご農家のことや、70代、80代、90代の方にもお話を伺いましたが、この方々からのお話は本当に開拓につながるようなお話でした。立ち話で、いろいろな話を聞きました。煉瓦のりんご倉庫やサイロの写真は3ヶ月ほどで50件を超えました。農家では、「住宅の写真撮ることはあっても、倉庫の写真撮ることはないからね」と言われました。

私が知りたかったのは「りんご園の歴史」でしたから図書館などに出かけて調べましたが、資料がありません。結局は「あなたの持っているそれが一番の資料だから、コピーを下さい」と資料館で言われました。そうしたことから北海道新聞の取材を受け、それが掲載されたんですが、先程お話しましたように、私は放送大学に在籍しておりました。初めから卒業などを目指していた訳ではありませんでしたが、「やる気があるんだったら論文にまとめてみませんか」と先生に指導を受けることになり、また別の友達からは出版社を紹介されたりしながら、今年の2月15日に『日本れんが紀行・れんが組の面白さに魅せられて』を刊行することができました。

ここまで煉瓦に拘りつづけてきたのは、「長崎が日本の煉瓦の発祥の地である」ということにあります。しかも、短い間でしたが、私の勤めた三菱重工業長崎造船所にそのゆかりがあったことにもあります。また、札幌の煉瓦の積み方を見て、「何か違う」と感じたのも、長崎の煉瓦の風景が原風景としてインプットされていたのではないかと考えています。

今日は、私にこのような機会を頂いたことを感謝いたします。お話しましたように、主婦が趣味感覚で始めた勉強ですから、都市計画のご専門の皆様の前でお話することはおこがましいのですが、素人の視点で、煉瓦に拘り、建築やその町の歴史などを勉強して楽しかったということで、お話を聞いていただけたらと思います。

本は、『日本れんが紀行』というタイトルになりましたが、全国をくまなく歩いたわけではありません。1年に2度ほど、2泊3日位の旅を4年ほど繰り返しまして、このような形になりました。



私のような立場で、旅を楽しむなどということも、夢のようなことでした。もっとも、慣れない土地で、朝から晩まで1日中、煉瓦を追いかけていたわけですから、優雅な旅というのとは少し違うのですが、大変面白い、貴重な経験をしました。

今日は、開港5都市の代表の皆様がお集まりで、先程のご紹介では、新潟市からは13人の方が、お見えになっているということで、嬉しく思っております。しかし、その方々には大変恐縮ですが、私は、新潟にはまだ行った事はありません。このあとスライドで、「北海道の煉瓦」、「長崎の煉瓦」、そして私が見てきた各地の煉瓦の紹介も致しますが、そのような訳で、新潟のスライドの用意がありませんが、どうぞお赦しいただきたいと思っております。

これから、スライドを観ながら進めて行きたいと思っております。

最初に私が住んでいる札幌市の紹介から始めます。

【スライド】札幌市豊平区にある、気になった「りんご倉庫」の1つです。壁は小端空間積みで、出入り口上部にはアーチの飾り積みがあります。軒にも蛇腹積みがあり、後部にはアーチの室があります。この倉庫が建てられたのは戦後で、まだ土室や、木造の倉庫が一般的な時代でした。

現代の札幌の住宅は高断熱・高気密ですが、当時は隙間風の吹き込むのが当たり前の家でした。農家では家一軒建てるよりお金をかけて煉瓦のりんご倉庫を建てています。

【スライド】こちらは現在、喫茶店になっています。後ろの左側、L型の一部は増築したものです。りんご倉庫は室の機能をもっていますので、床は2mほど掘り下げられていましたが、現在は危険なのでほとんど埋め戻されています。札幌は、りんごの他に玉葱の栽培も盛んでした。市内には「玉葱御殿」というのもありまして、その建物は、やはり煉瓦で造られている立派なものです。

【スライド】牛舎とサイロです。現在は敷地の一面に残されているのですが、規模の大きい、大変きれいな建物だと思います。

煉瓦の積み方には、イギリス積み、フランス積み、オランダ積みなどがありますが、小端空間積みという独特の積み方が、札幌とその周辺では見られます。りんご倉庫のほとんどは、この積み方で積まれています。

【スライド】小端空間積みの壁の中は、このようになっています。2枚の煉瓦の間に空間がありますが、断熱材がまだ充分発達していなかった時代に、この空間が断熱効果に有効だということで、農家のりんご倉庫や玉葱倉庫、サイロなどに使われました。空間のある分、煉瓦の枚数は少なくても済みますし、煉瓦の枚数が少ないことは、工期の短縮にもなります。もちろん材料費も安く済むこととなります。

【スライド】白い煉瓦のりんご倉庫です。これは「鉍滓煉瓦」・「水滓煉瓦」といわれているもので、スラグを使った煉瓦です。室蘭の製綱所では溶鉍炉からスラグが発生します。八幡から伝えられたというスラグ煉瓦は、大正5年(1916)、室蘭で試作第1号ができました。それがこの煉瓦で、当時は現在の北海道庁赤煉瓦庁舎の向かい側に北海道庁長官官舎というものがありまして、その塀に使われていました。その建物が取り壊される時に、この塀も含めた建物一式が「八紘学園」という農業専門学校に払い下げられまして、白い煉瓦はりんご倉庫に生まれ変わりました。現役のりんご倉庫はこれだけです。

窯業では「白煉瓦」というと「耐火煉瓦」のことを言いますが、この地域では「鉍滓煉瓦」のことを「白い煉瓦」というふうに呼んでいます。

【スライド】これは、北海道庁赤煉瓦庁舎です。北海道のシンボルであり、道民の誇りにもなっています。札幌とその隣町の江別市には煉瓦を生産した歴史がありますが、赤煉瓦庁舎の他にも、「札幌ビール園」や「札幌ファクトリー」は現在の明治の建物が町の歴史を伝え、観光のシンボルになり、市民の憩いの場所になっています。これは、明治21年(1888)の建築ですが、100年以上経った今も、周りの建物から比べても見劣りすることがありません。ちなみにこの建物は、周りに建物が無いから、ぐるりとどこから見ても美しいものです。ほとんどの建物は隣に建物が建てられていますから、四方から煉瓦造りの美しさを眺められる建物という意味でも貴重な建物です。

【スライド】これはドームの部分のアップなんですけれども、煙突のように出ているのは、喚起口

です。その下に飾りの積みがありますけれども、この煉瓦には、「鳩胸煉瓦」というようなものが使われています。この「鳩胸煉瓦」は、普通の赤煉瓦では無くって大きさは、あれを2個位重ねたような直方体で1つの面を鳩の胸のようにカーブをつけて焼いてあります。それを軒の蛇腹飾りに用いております。

【スライド】これは、サッポロビール園です。旧札幌製糖工場の建物ですが、現在は、サッポロビールの工場になっています。ここは建物が赤煉瓦ですから「赤煉瓦博物館」という言い方もしていますが、ビールの製造工程を見学し、できたてのビールを試飲することもできますし、赤煉瓦のレストランで食事を楽しむこともできます。

【スライド】これは、サッポロファクトリーです。開拓使のビール工場が、そのまま商業施設に生まれ変わりました。北側の通りの中央の壁は、60cm程曳き壁とされています。これは、都市計画で道路にかかって、この建物だけ60cm程飛び出していたんですけれども、サッポロファクトリーに生まれ変わる時に、上部のこの部分の煉瓦を積める職人さんが、現在はもういないということで曳き壁をされたものです。この施設には、コの字型に煉瓦の工場や建物がありましたけれども、ここにアトリウムを増設して憩いの広場になっております。

【スライド】これは、この広場の中庭にある窯場の跡なんですけど、この上の煙突がシンボルで、「煙突広場」ということで皆に親しまれています。

函館にいけます。

北海道では明治7年(1874)開拓使によって、上磯郡茂辺地で煉瓦の製造が始められています。茂辺地は松前の近くですが、煉瓦製造所の跡からは、100年以上経った4年程前に、明治7年と刻印のはいった煉瓦を、私は見つけました。

函館は蝦夷地第一の重要港として栄え、開港以来、長く北海道第一の都市として栄えた町です。函館に残されている煉瓦の建物は、函館の歴史そのものを伝えていきます。

【スライド】ベイエリアは観光のスポットにもなっていて、金森倉庫やBEY函館の倉庫群は皆様もよくご存知だと思います。

【スライド】元町公園には旧開拓使函館支庁書庫があり、この壁には「明治7年」「箱館製造」などという刻印がたくさん見られます。

【スライド】現在、函館市立郷土資料館になっている建物で、修復の工事が終わったばかりですが、茂辺地の煉瓦が使われています。しばらく前までは、塗り壁が剥がれた所から、「明治7年」とか、「箱館製造」などの刻印を見ることができたんですけれども、今はどうなっているのでしょうか。明治44年の通信省の建物も、ユニオンスクエアという商業施設になっています。

【スライド】これは、函館水道管理事務所、この水のマーク、これも煉瓦で造られています。

【スライド】太刀川家住宅です。

【スライド】旧ロシア領事館

【スライド】中華会館も有りまして

【スライド】函館ハリスト正教会も煉瓦造りで、「ガンガン寺」という愛称で親しまれている音のある景観です。

【スライド】トラピスト修道院は、男の方は、事前に予約すれば見学することができますし、

【スライド】湯の川にあるトラピスチヌ修道院も煉瓦で建てられています。修道院というのも外から見ると何か西洋のお城のようにも見えます。

【スライド】函館は、貿易港として歴史を持っています。

幌内鉄道が開通すると手宮はその基点となりました。

運河の周辺には「札幌軟石」という独特の石造りの倉庫に混じって、煉瓦造の倉庫がたくさん残されています。最近では、観光用の施設に生まれ変わったものが目立ちます。

【スライド】函館倉庫事務所は、煉瓦造2階建ての寄棟の屋根に瓦が載せられ、シャチが踊っています。積雪地帯の屋根に瓦屋根というのは適当ではないのですが、明治の建築では、本州と同じよ

うに瓦屋根を用いています。最近、この瓦の屋根の補修ができる人が少なくなったということから、目に見えて、トタンに葺き替えられています。

【スライド】小樽オルゴール堂です。こちら木骨煉瓦造の倉庫が改造されて、大変賑わっています。

【スライド】この斜め向かいに銀の鈴という商業施設がありますが、この建物は、裏から見たもので、この表側にある建物と内部でつなげて、大変賑わいのある商業施設になっています。北一ガラスの一角です。

【スライド】海猫屋です。これも3階建ての倉庫なんですが、今は喫茶店になっています。内部は倉庫の様子をそのままに残しておりますから、階段も狭いし、急なんですけれども、若い人達はむしろ、その不便さを楽しんでいるようにも思います。

【スライド】手宮の機関庫です。鉄道の起点は交通公園になっています。

【スライド】こちらもそうですが、フランス積みの煉瓦の壁が、煉瓦が手造りの頃の特徴を伝えています。

【スライド】札幌の東側隣の江別市に移ります。

江別市は、現在も煉瓦の生産をつづけている煉瓦の町ですが、これは、農家の住宅でした。何度か増改築を繰り返しております、形も大変複雑になっているんですけども、そのままの形で曳き家をされております。現在はガラス工芸館になっています。

【スライド】酪農学園大学にある精農寮です。学生寮でした。左側の部分には、木造の建物がありましたが、3年ほど前に壊されました。右側には円形のテラスもあって、大変綺麗な建物で、ブリックワークも、とても丁寧だと思います。

【スライド】旭川の駅の側には上川倉庫という集荷場がありました。現在は、「蔵囲夢」という施設になっております。

【スライド】アーチ積みの出入り口などもそのまま利用いたしまして、

【スライド】内部は木骨の煉瓦造です。こちらが、多目的ホールに利用されたり、貸しホール、スタジオとしても大変人気のある施設になっております。他の建物では、レストランになったり、ギャラリーになったりしています。

【スライド】北海道には炭鉱の歴史もあります。北端では独自に煉瓦の窯を持っていました。夕張では天竜坑口が石炭の歴史村に残されています。

【スライド】開拓使の進めた雪にも寒さにも耐える煉瓦や石の建物は、すぐに一般に普及することはありませんでしたが、粘土の取れるところに煉瓦の窯が築かれ、帯広や月形、網走、根室と広く普及することになりますし、札幌では、商家の蔵や農家の倉庫など、小さな建物で、特徴のある綺麗な建物が、多く残されています。

長崎と煉瓦の話に入ります。

【スライド】こちらは、明治31年(1898)建築で、現在は三菱重工長崎造船所資料館になっている建物です。長崎に煉瓦が伝えられたのは、安政4年(1857)です。現在は三菱重工業長崎造船所になっている飽の浦に、長崎溶鉄所が建設されていますが、それは日本で最初の様式工場、煉瓦で建てられていました。

【スライド】煉瓦を伝えたのはオランダ人のハルデスです。ハルデスは、オランダで海軍の機関廻りの検査業務に従事していたということですが、日本に来て長崎で煉瓦の土取り場を選定し、煉瓦を焼くことを教えて、積み重ねて工場を造り、



溶鉄所の機会を運び入れ据付ける、全ての指導をしているのです。岩瀬道といわれるこの場所は、現在の三菱病院の一角といわれています。

また、この資料館に向かい合う形で、少し煉瓦の建物が残されています。

煉瓦は日本に伝えられて、初めは、瓦焼きの技術で焼かれてきました。現在の煉瓦よりは厚みの薄いもので、形は瓦に似た大きなものもあります。ハルデスが指導をして焼かせた煉瓦は、ハルデス煉瓦といえます。

【スライド】明治42年(1909)総合事務所と三菱倶楽部の写真なんですけれども、明治の終わりに煉瓦の工場が立ち並んでいます。グラバーが蝶々さんと眺めた対岸の風景は、現在とは違って、西洋風の赤煉瓦の工場群だったのではないのでしょうか。

【スライド】ハルデス煉瓦に続いて、九州では広い地域で、「こんにやく煉瓦」といわれる、厚さが4cm前後の、色も瓦のような黒っぽいものやみかん色の煉瓦が焼かれました。

【スライド】この建物は、明治元年(1868)の建築でソロバンドックです。グラバーが輸入に関わったという船の巻き上げ機が格納されており、これが重要文化財に指定されていますが、煉瓦に視点をあてますと、こんにやく煉瓦の建築では最古のものです。

【スライド】フランス積みの壁には、煉瓦の小口面に船の舵をデザインしたような刻印が見えるんですけど、ちょっとこの写真では、見ることはできませんね。

【スライド】こちらは、国際海底電線小ヶ倉陸揚げ庫です。明治の初めに外国と居留地を結ぶのに、長崎-上海、長崎-ウラジオストック間に海底電線を引いて、陸揚げをした建物です。埋立地のために建物は何度か移設されておりますが、こんにやく煉瓦と、その刻印の宝庫です。建物の平面で半分は石造り、半分は煉瓦造りというのも大変珍しいものです。

【スライド】こんにやく煉瓦の軒蛇腹です。この他にも金毘羅山の頂きには、明治7年(1874)金星を観測した観測台がこんにやく煉瓦で積まれています。

【スライド】ここにある刻印の1つが下から2番目のまん中に見えますね。「一」と書いてあるようなものなんですけど、この小端面に、17、8種類のいろんなデザインの刻印を見ることができます。

【スライド】長崎の煉瓦という一番に思い出されるのは浦上天主堂か、旧英国領事館(現在の野口彌太郎記念館)ではないのでしょうか。これは、明治40年(1907)の建築ですが、焼きすぎの煉瓦の色と、異形煉瓦をふんだんに使った建物です。アーチや丸窓をデザインした建物なんですけど、

【スライド】内部のマントルピースにも煉瓦が使われていますけれども、この煉瓦には刻印があります。私はこの写真を撮った時、急いで撮ったので気が付かなかったんですけど、写真にしてみた時にこの黒い部分に何か刻印があることが解ります。この建物の裏手には、マンホールがありまして、その蓋にも「SHANGHAI(上海)」とローマ字で刻印が打たれています。まだ資料で確認はできていませんけれども、煉瓦も「SHANGHAI」と刻印のはいったマンホールの蓋も「どこから運ばれて来たのではないかしら？」と思っています。

【スライド】こちらは、グラバー邸なんですけど、グラバー邸にも煉瓦が使われています。

【スライド】厨房の床にこんにやく煉瓦が小端立てに敷かれています。この煉瓦は、色合いが大変面白い色をしています。

【スライド】マリア園です。マリア園は明治31年建築の煉瓦造です。

【スライド】海に面して教会堂があります。この飾りの中が教会になっているんですけど、

【スライド】この建物は、建築以来、人がずっと生活しているという意味で、大変貴重な建物です。今も養護施設になっていて、その子供たちが一緒に生活しているんですけども、この夏の厳しい長崎で、しかも梅雨の湿度の高い長崎で、湿度が高いということより、暑いということより、古いという事のほうが、ここで生活している方には気になるようです。

暑さを忘れるという事では、扇風機を使うのを忘れてることが多いということからも煉瓦造の特徴が表れているのではないかと思います。

【スライド】元居留地のこの一角には、旧香港上海銀行長崎支店や、旧運上所があります。

【スライド】煉瓦の構造を石や上塗り化粧をした煉瓦造です。大浦天主堂にもこんにやく煉瓦が確

認されています。

【スライド】赤煉瓦をむき出しにしたのは、神学校です。

天主堂ではこの他に、旧羅伝神学校がこんにやく煉瓦で積まれています。

【スライド】浦上天主堂は原爆の時には被爆の中心地でした。

【スライド】これは、「原爆の記録」から転載したのですが、被爆直後に天主堂の煉瓦の壁だけが残されています。

【スライド】この被爆煉瓦をモニュメントにして、浦上天主堂と

【スライド】松山公園には残してあります。

【スライド】長い鎖国の時代に長崎は唯一、外国に開かれていました。街には、オランダ、ポルトガルの西洋の人々と共に、お隣の中国からもたくさんの人が入り込んできていました。唐人屋敷には、中華風の建物も煉瓦造で建てられていました。火災に遭って再建されたものもありますが、福建会館、

【スライド】観音堂、

【スライド】土人堂や天后堂などがあります。

【スライド】これと共に、それぞれの建物には惜字亭というものが備えられています。これは、子供の背丈ぐらいの高さで、ここには漆喰が塗ってありますけれども、この他の今ご紹介した建物には、赤煉瓦で積まれています。この漆喰が塗られているのは、正福寺というお寺にある惜字亭です。この漆喰が、海水で剥がれて、中の煉瓦が剥がれ落ちた時に、こんにやく煉瓦が積まれているという事が初めて解ったと、お寺のご住職に聞きました。

こちらのこんにやく煉瓦には、大きな煉瓦のまん中ほどに突起があって、積み重ねた時に重ねやすいようになっていたということです。

惜字亭というのは、紙を燃やす焼却炉です。これは、中国では、「文字や紙も粗末に扱わない」と言う事で、今も文字や紙を燃やす時には、このような特別な焼却炉を使って、燃やすのだそうです。こういうのも中国の文化を伝えていると思います。

中国からは、もっと古くに、石橋を造る技術も長崎に伝えられています。「眼鏡橋」など、たくさんの橋が中島川にかかっています、これが長崎の名物の1つなんですけれども、この石橋を造る時には石を刻み込んで長崎に持ち込んだものもあると言います。今でも中国の農村地帯に行くと、泥を固めて煉瓦を造り、家を造ると聞きます。中国の文化と一緒に煉瓦は伝えられなかったのかな？それは、ハルデスとどちらが先だったのかしら？と思っています。

【スライド】居留地の一画には、このような坂道にも煉瓦の塀もあります。「坂の長崎」と、坂道は歌にもうたわれていますけれども、

【スライド】階段の途中にも煉瓦が積まれています。この階段の段差の部分は、煉瓦の角を上手に三角に切りそろえまして、積み重ねてありますが、ここは、居留地の一画です。歴史もかなりあるのではないかと思います、壊れている部分は、あまり見えないと思います。

【スライド】海星学園という学校の塀は、ながあくこのような煉瓦がつながっています。たいへん趣のある煉瓦の色をしています。

【スライド】こちらは、長崎重工三菱造船所の塀を構内から撮ったものです。「明治・大正・昭和の各時代に積んだ煉瓦の塀も、地震や台風などで被害が出るのは、新しい部分なんですよ」と管理の方に伺いました。

【スライド】赤煉瓦と鈹滓煉瓦を重ねた塀もあります。

【スライド】鈹滓煉瓦だけの塀もあります。



長崎県内にも特徴のある煉瓦造があります。

【スライド】佐世保市では、「佐世保の近代化遺産マップ」として佐世保市役所の自主研究グループの方が煉瓦造の調査をし、一枚のマップにまとめられました。米軍の基地がある町ですから、全てをいつでも市民が見学することはできませんが、煉瓦を意識して見直すきっかけになると思います。

これは、諫早市にある旧長崎刑務所の門の部分です。明治40年(1907)建築のこの刑務所は、西洋近代建築です。

【スライド】鎖国が終わり、外国から人が入ってくると、刑務所の施設も必要になるというのは困ったものですが、それまでの日本の牢屋が、大変不衛生でお粗末だったということで、衛生的な設備の刑務所が必要になり、日本各地に近代的な刑務所建築が建てられています。(正面塔の部分)

私は、諫早刑務所の中には入ったことはありませんけれども、地元の方で許可を得て写真を撮られた方がおられると聞いています。これも壊されるのではなく、地域の施設として、活用されることになったと聞いています。

【スライド】周りには厚くて高い、このような煉瓦の塀があります。この塀が、娑婆とあちらを隔ててくれるわけですが、父親の仕事の関係で、子供の頃、床屋に行く時には刑務所に行った、と言う友達もいます。刑務所の印象も人様々だと思います。

【スライド】長崎には、キリシタンの歴史もあります。教会の建築で煉瓦の特徴を伝えているものが多くあります。

彼杵群外海の出津はド・ロ神父が伝導をした地域で有名です。(出津カトリック教会)

ド・ロ神父は、慶応4年プチジャン神父と共に来日し、キリスト教とその文化を伝えています。神父の伝えた文化はたくさんありますが、建築文化もその1つです。長崎の「こんにやく煉瓦」のことを「ローマ煉瓦」と呼び、壁塗りの技術についても「ド・ロ壁」という独特の塗り壁を教えています。これは、鯛網工場の後ろの部分で、こんにやく煉瓦とド・ロ壁が、漆喰が剥がれ落ちて見えるんですけど

【スライド】大野教会というのも、森に隠れるような建物です。ド・ロ壁の仕上げで、アーチ部分のキーストーンも積まれています。

また、シスターは、「煉瓦磨きをしたことがあります」と話してくださいました。「煉瓦磨き」とは、煉瓦を一枚一枚はつって、再利用するために、モルタルを剥がす仕事です。現在の出津で、再利用の煉瓦が使われた例は、まだ見ていませんが、磨いた煉瓦を使った、何かの建物があったのだと興味をもっています。

五島列島は、隠れキリシタンの島で知られていますが、島影に隠れるように集落ごとの教会があり、煉瓦の教会もたくさん残されています。

【スライド】こちらは、福江市にある堂崎天主堂です。この三角をつなげた蛇腹飾りには漆喰が積まれていますね。白い飾りが積まれています。

【スライド】建物の正面と並行するようにアーケードがありますけれども、こちらの尖塔アーチは、同じ漆喰目地剤でもセメント質の物が使われておりまして、見せる部分とそうでない部分を使い分けたのではないかと思います。

【スライド】私がこの教会を訪れたのは、夏のことでした。「五島の海がたいへん綺麗で、周りで見えた観光客の話や、裏山から降りてきた人たちが蜀台を抱えていたり、今も宗教に結びついたような雰囲気がある町の中であふれていて、とてもいい印象でした」と五島の話で東京の知り合いにしました。その方は、冬に、お正月にこの教会を訪ねられたんですけど、「まるで倉庫のようだった」とおっしゃったんです。この中は、キリシタン資料館になっていて、殉教の歴史や血塗られたキリシタンの遺物などが展示されているんですけど、このお話を聞いたときに同じ建物が倉庫にもなるし、生きて、皆の心に残る建物にもなるんだなということを感じました。

【スライド】上五島にある青砂カトリック教会堂です。全体として見たときにははっきりわかりませんが、

【スライド】この左側の部分は、このようになっています。控壁には焼き過ぎ煉瓦（多分この煉瓦が焼かれた時に火が強かった時の煉瓦）を使って、このように十字を浮き彫りにしています。これは、煉瓦を積んだ職人さんの思い付きだったのでしょうか。丁寧な仕事で、教会は大変美しい物です。教会建築は、信者の方々も協力されて建てられています。教会を見た時に、そのようなお話を聞いて、大変気持ちのいいものだなと思いました。

【スライド】こちらは、北松浦郡田平町にある**田平教会**です。平戸に渡る手前の方なんですけど大正7年（1918年）建築の教会で、鉄川与助という方の設計です。この場所は、今でも本当に便利ではない場所なんですけど、大変立派な教会が、地元の人々で維持されています。

【スライド】この教会には、このように煉瓦の**薔薇窓**があります。煉瓦も普通煉瓦ではなくて特別な形に焼いて薔薇窓を造っているのですが、

【スライド】焼き過ぎ煉瓦で、壁には、**ボーダーの縞**も入れてあります。

【スライド】長崎地方では、セメントや漆喰の代わりにアマカワという独特の物を使っていますが、この教会を建設する時には、家庭で食べた**貝殻**も、全部ここに集めて、幾晩も幾晩も燃やして、貝殻から石灰を採ったということです。

【スライド】ここは、**ハウステンボス（ホテルヨーロッパ）**です。

東京の大学生230人に「煉瓦」についてのアンケートをお願いしました。この学校は全国から学生が集まってくる大学で、文系の学部で、建築やデザインの専門ではありませんが、「あなたが知っている煉瓦の建物はなんですか？」という問いかけで、一番多かったのは東京駅です。二番目のランクには、それぞれの地域でのいろいろな建物が多く出てきましたけれども、その二番手に表れたのは、「ハウステンボス」で、私は少し驚きました。というのは、このハウステンボスは、平成の建物です。オランダの町並みをオランダの煉瓦を使って再現するという開発ですが

【スライド】町並みはこのように（**オランダの家並**）**ダッチスタイル**の屋根なども作られておりますが、このようなこだわりの建築というか、「物語性のある町」というのを若い人達は楽しんでいるんだなと思いますし、歴史はこういうふうにして作られていくんだなと思いました。

それでは、各地の特徴のある煉瓦を紹介します。

【スライド】これは、**福岡市立歴史資料館**で、元は日本生命保険会社の建物でした。辰野金吾の設計ですが、貸しホールにも使われていて、大変人気があるようです。

【スライド】内部は、特別に大きいということはないんですけど、（**ペチカの写真2枚**）

【スライド】綺麗な建物です。

【スライド】太刀洗には、**今村カトリック教会**があります。田んぼの中に、この2本の塔が聳える教会があります。この教会には、煉瓦の**薔薇窓**があり、

【スライド】また塔は、このように大変綺麗な飾り積みがしてあります。薔薇窓のデザインも1つだけではなくて、

【スライド】いろいろに工夫がされています。（**薔薇窓写真2枚**）上に乗っている石は、イオニア式のような形をしていますね。

煉瓦建築が一番多く残されているのは、東京都です。明治以来の近代化で西洋近代建築が短い期間にたくさん建てられました。対象12年（1923）には、関東大震災があり、煉瓦造は、地震国には向かないという烙印を押されて、以後、煉瓦の大きな建物が建てられることは極端に控えられますけれども、

【スライド】東京駅は創建時、3階建てだったそうです。これが被害を受けたのは、第2次世界大戦の戦災ということです。今、東京駅丸の内側は、石原新都知事の方針で、新しい街づくりのプランが進められておまして、東京駅も創建の時の3階建てで、ドームがある建物に復元されるということですから、大変楽しみにしています。

【スライド】東京駅には、**ステーションホテル**も併設されています。ホテルの入り口です。

【スライド】中は、ギャラリーもありまして、ギャラリーの一面には、このように喫茶店も赤煉瓦むき出しになっています。

【スライド】東京では、建築ばかりではなく、**JR山手線のガード下の煉瓦積み**もあります。赤煉瓦と黒煉瓦を組み合わせた飾り積みもあり、石との組み合わせも大変興味の深い、面白いものです。これは、長い間の汚水とか地下水で汚れていますが、煉瓦は水洗いで綺麗な色が戻ります。山手線の下には、3分の1か、4分の1位はこのようなガードの下の飾り積みがまだ残されている部分がありますし、新橋のホームなどは煉瓦造がまだ見えますけれども、誰か山手線の「煉瓦クリーンナップ大作戦」なんか展開してくださる方は、いらっしゃらないかなと思っています。

【スライド】こちらも刑務所の門です。東京都の中野区にあります。**旧豊多摩監獄の玄関の部分**が、後藤慶二の設計で、堂々とした立派な近代建築です。後ろの部分の塀や刑務所の施設はもう取り壊されまして、公園になったり、下水処理場や住宅街に生まれ変わっています。今の旧豊多摩監獄の妻飾りの部分なんですけれども、関東地方の地域には、このような形の飾り積みが多く見られます。

【スライド】皇居の側にある**法務省の赤煉瓦**です。法務省は、外壁を保存して、内部は21世紀のオフィスビルとして残すということで改造されました。外観はレトロで、仕事はインテリジェントビルでということです。この建物は、一部、法務資料室というのがありまして、中は煉瓦の壁が創建時のまま、観察できるようになっております。事前に法務省に申込みをして行きますと見学をすることができます。法務資料の展示をしてありますけれども法務関係の資料の見学よりも、煉瓦の魅力を見に来る人が多いと聞きました。

【スライド】**ニコライ堂**は、神田の御茶ノ水にありますが、修復が終わったばかりです。構造が煉瓦の建物は、一般に開放はしていませんが、毎日の祈りの時間には、市民も中に入ることができます。

【スライド】旧近衛師団司令部は、**近代美術工芸館**になっている重要文化財です。軍関係の建物は、仕事も大変丁寧ですから、建物も大変美しいですね。煉瓦も一つ一つ厳選された物が使われたということを知っています。

【スライド】上野の**東京藝術大学赤煉瓦1号館**は、学生談話室になっています。戦時中に赤煉瓦が目立つから、外壁にセメントを塗ったり、黒くペンキを塗るという話は何箇所かで聞きましたけれども、この建物は、セメントのモルタルが、はつられています。

【スライド】この建物を壊すという話もあったそうなんですけれども、このように、壊すよりも煉瓦を積み上げるよりも手間をかけて、**赤煉瓦の建物**が1つ残されています。

また、これと同じようにモルタルをはつたものが千葉の刑務所の門と塀にあります。この刑務所の門と塀のセメントがはつられたのは、最近の事だと思います。というのは、新しい写真で、セメントが塗った物があるんですけど、私が見に行った時には、ここを（赤煉瓦1号館のスライドを指して）縦横にノミの跡が走っていますが、千葉の方は、本当に丁寧に煉瓦にノミがあてられていて、目地も綺麗にたてられているんです。このような仕事を誰がしたのかしら？と思いますけれども、千葉の刑務所は、現役の刑務所ということで、塀の写真も、門の写真も撮らせてもらえませんでした。

【スライド】横浜市では、現在、**新港埠頭の煉瓦倉庫**が「赤煉瓦パーク」として整備中です。明治44年（1911）の建築というこの倉庫は、妻木頼名黄の設計ですが、規模の大きな綺麗な建築です。

【スライド】私は、整備中のフェンスの外から、やっとこれだけ写真を撮ったんですけども、事前をお願いをして行くと見せていただけたかも知れないんですが、この建物の妻部分というか、上を見ながら、まるで、人間の目から上の部分に表情があるように、建物も上の部分（**桁行**）にいい表情があるな



あと이었습니다。早くお化粧が終わって、姿を現しているのを見たいなと思っています。

【スライド】 こちらは、煉瓦ではありませんが、ドッグヤードガーデンです。船のドッグの石を一度全部積みなおして、このドッグが残されました。「安らぎの空間」に生まれ変わっています。

【スライド】 開港記念館は「ジャックの塔」の愛称で親しまれています。

【スライド】 これが、桁行の部分なんです。

【スライド】 神奈川県庁は、煉瓦タイルなんです、「クイーン」の塔」という愛称で呼ばれています。

【スライド】 横浜開港資料館からは、居留地の煉瓦の下水管が見られます。これは、卵形管という卵の形を逆にしたような形に煉瓦を積み重ねて、居留地に下水道を造ったんですね。居留地で衛生的な設備を造るという時にも煉瓦が使われています。

こちらの卵形管はもう今は使われていませんが、東京の神田には、人が立てるくらいの大きな形の卵形管があり、それは今でも使われています。

横浜は、まちを歩くと歴史のある街並みと、気持ちのいい景観のよさを見れる街だと思います。

【スライド】 こちらは、舞鶴市の赤煉瓦博物館です。煉瓦の街づくりを実践している舞鶴なんですけれども、この建物は、旧海軍の建物でした。

【スライド】 この赤煉瓦博物館には、ホフマン窯があります。これが博物館の全景です。

【スライド】 内部のホフマン窯です。舞鶴市の市の職員が、横浜市の煉瓦倉庫を見た時に、「これならうちにもある」と思ったんだそうです。

【スライド】 舞鶴は海軍の町で、今も海上自衛隊があります。旧海軍の建物は煉瓦造で建てられている事が多いんですけども、このように何棟もまとまった形で残されています。海岸線に沿って、煉瓦の倉庫がまとまってあり、煉瓦のよさを堪能できる街です。（煉瓦倉庫軍）「古い海軍の遺構としての倉庫」だと思えば、何か心にかかるものがあるかもしれませんが、「遺構が遺産」というふうに皆が認識すると綺麗にお化粧をして、市政資料館になったり、

【スライド】 多目的ホールになったり、喫茶店になったり、人気の施設になります。舞鶴には今も海上自衛隊の基地があります。日立造船の敷地内には、24棟もの煉瓦造があるというのですが、官営の施設も企業も、「煉瓦」をキーワードにして全体を考えると、新しい宝が生まれるかも知れないまちです。

【スライド】 神崎にあるホフマン窯は、10本の煙突がシンボルです。ホフマンという窯は、煉瓦を大量に生産する窯で、ホフマンという人が考え出した窯なんですけれども、この窯が、現在日本に4基ありますが、その1つが、舞鶴市の神崎にあります。

【スライド】 ドーナツ型の窯の内部には、このように窯の内部はなっていて、この上のちょっと変わった四角のところは、

【スライド】 このような形で（投炭口）、この上から、石炭の粉などの燃料を落とし入れます。「窯炊」と呼ばれる職人さんが、ドーナツの周りを歩きながら燃料をくべていき、休みなく煉瓦を生産していくんですけども、

【スライド】 これは、窯の煉瓦を出し入れする所の出入り口です。

【スライド】 同じようなホフマン窯で、こちらは、埼玉県深谷市にある日本煉瓦です。重要文化財になりまして、窯炊の人が歩く部分は木造で出来ていて、その上の部分は、作ったばかりの生の煉瓦を乾燥するたてやになっていたんですが、木造の部分が壊されて、今、煉瓦の窯のトンネルの部分だけが、このようにトタンで覆われていますが、重要文化財になっています。

【スライド】 敷地の中には、旧発電所の建物が同じように重要文化財になっています。深谷市というのは、渋沢栄一の出身地ですが、渋沢栄一が創業した日本煉瓦が東京の近代建築に煉瓦を供給したということを、街づくりの柱にして煉瓦の、街づくりを目指しています。

【スライド】 深谷駅は平成9年に出来上がったんですが、東京駅を真似たスタイルで生まれ変わりました。これは、最近の建物ですから、構造は、煉瓦造ではありませんが、煉瓦タイルのような物を張ってあります。

【スライド】 栃木県にもシモレンのホフマン窯があります。こちらは楕円形ではなくて、ほとんど

円形に近いホフマン窯です。こちらの1階の部分から石炭を出し入れしまして、階段を上って、2階の部分にたくさん穴があいていて、そこから燃料を落とし入れて、煉瓦を焼くようになっています。

【スライド】 形の面白いもので、同じように徳利窯といわれるもので、これは、セメントを焼生した窯です。ボトルキルンという窯は、ヨーロッパにもたくさん見られます。

【スライド】 愛知県犬山市の明治村は、明治の暮らしや文化を体験できる博物館で、各地から煉瓦の建物や土木が移築されています。旧制第八高等学校の赤煉瓦の門が、明治村の門になっておりまして、

【スライド】 旧帝国ホテルの中央玄関部分も煉瓦造でここに移築されています。

【スライド】 こちらは、聖ヨハネ教会が京都から移築されたものです。

【スライド】 品川からは、品川灯台が移築されていて、これも煉瓦造です。手前の建物は、菅島灯台官舎、灯台守の住まいだったんですね。こちらもミカン色の大変綺麗な建物でした。

【スライド】 灯台では、霧がかかった時に、霧砲というのを打つんだそうですね。この霧砲の台が煉瓦で積まれていたんですけども、この煉瓦には、

【スライド】 このように刻印が打たれています。「傘に銃」というのは、菅島の竹内仙太郎という人の印だそうです。瓦屋さんの印です。

【スライド】 金沢監獄からは、正門が移築されています。

【スライド】 先程、日本列島の東の方で、一番煉瓦が多いのは東京都ですと申しましたが西の方で一番煉瓦が残されているのは、京都府なんです。京都市内にもたくさんの煉瓦造があります。こちらは、旧日銀京都支店が京都府京都文化博物館になっております。

【スライド】 通信省の建物は、外壁保存してまして、中京郵便局になっていて、

【スライド】 この建物は、第一勧業銀行京都支店だったんですけども取り壊されました。何でも古いものを残すことが良いとは思いませんけれども、街の角に立っているこの建物が、完全に姿を消してしまったということがわかった時には、何だか少し残念な気がしました。

【スライド】 京都御所の側には、聖アグネス教会もあります。

【スライド】 土木の建築で、琵琶湖から京都まで水を引いた水路閣です。

【スライド】 これも煉瓦造で建てていますが、この煉瓦にもこのような飾り組みが心配りで見られます。

【スライド】 アーチも中々美しいものですね。

【スライド】 神戸は、震災で大きな被害を受けましたけれども、開港以来、国際港として栄えた歴史のある街です。特徴のある煉瓦もたくさんありますが、これは、神戸地方裁判所です。明治37年（1904）建築の旧庁舎は、2階建てで、敷地も制約があり大変狭くなって不便な建物になりました。取り壊すという話もあったそうですが、結局は外観を残して、内部は完全に建て替えられて、上部にガラスウォールでこのように高く伸ばされています、同じ手法は東京の丸の内にあります。東京銀行協会の建物にも見られます。

【スライド】 居留地には、煉瓦の下水管が各地にありますけれども、このように神戸市でも下水管を展示しています。

【スライド】 小寺家の厩舎です。馬小屋が居留地では、こんなにハイカラな建物だったんだとこれを見て驚きました。サイロの形は階段室になっています。

【スライド】 平成7年（1995）の阪神淡路の震災では大きな被害がありましたが、風見鶏の館はステンレスの糸で煉瓦の一枚一枚をつないで、今は修復されています。

【スライド】 三宮では、煉瓦にメッセージを焼き付けて、アーケードに敷いてあります。人がたくさん歩く部分のアーケードでは、アーケードのまん中では、このメッセージが磨耗してしまうということで、中小路の方に敷かれているんですけども、本当に一日も早い復興を願っています。

【スライド】 長崎と同じ原爆の歴史を持つ広島では、原爆ドームも煉瓦造で、世界遺産に登録されています。

【スライド】爆心地に近いところには、世界平和記念聖堂が建てられています。村野藤吾の設計で、煉瓦はコンクリート煉瓦です。

【スライド】コンクリート煉瓦の陰影が独特の表情を豊かにしています。

【スライド】小野田でもセメントは、煉瓦状に固めて使われたそうで、住宅や塀もたくさん残されていますから、中国地方では、珍しくないのかもしれませんが。

【スライド】最後に呉の海軍にある第1術科学校です。イギリス人のダイアックの設計ですが、煉瓦の色合いが大変綺麗です。

【スライド】中庭に面して、このようなアーチが重なってしまっていて、2層に重なっています。

【スライド】煉瓦の壁は、水洗いをして、最近綺麗な赤がよみがえったと聞きました。

皆さん、いかがでしたか？建物をたくさん見てきて、1つでも多く皆さんに見ていただきたいと思ったものですから、枚数が多くなってしまいました。

札幌の豊平区では今年の「りんご祭り」にりんご倉庫がパネルとして展示されることになりました。

幕末に長崎から日本の各地に広められた煉瓦は、文明開化・近代化のシンボルです。重要文化財や歴史的建造物のたくさんある長崎に、煉瓦の建物は数多く残されている訳ではありません。また、東京や京都や他の地域のように、規模の大きな立派な物が残されているという訳ではありませんが、日本の煉瓦のルーツは、長崎にあります。三菱重工長崎造船所の資料館ではハルデス煉瓦も保管され、展示されています。居留地には西洋ばかりではなく、中国からのゆかりの建物もあります。教会建築も長崎に独自の物がたくさんあります。建物は、人がどのように関わるかで、生かされることも、廃屋になることもあります。小菅のソロバンドックや国際海底電線陸揚げ庫などは小さな建物ですが、まずは、その歴史を知って、暖かく眺めてみてください。

煉瓦の人気は、その質感の持つ肌触りと暖かい色合いにあります。西暦2000年の今年、日蘭交流400周年の年です。「長崎ぶらぶら歩き」で、ハルデス煉瓦やこんにゃく煉瓦を見つけて、煉瓦の歴史と建物を21世紀に語り伝えていただきたいと願っております。

ウェルカムパーティ

【日時】

平成12年10月6日(金) 18:30~20:30

【場所】

グラバー園内オルト邸前庭

【参加人数】

100人

□プログラム□

〈司会〉原田 宏子(長崎市・都市景観課)

18:30~18:40 主催者あいさつ(橋田 克男 会長)

18:40~18:45 オペラ(マダム・バタフライ)

……歌手:荒木 孝子、ピアノ:吉村 由紀

18:45~ 乾杯(下釜 憲一 長崎市・都市計画部理事)

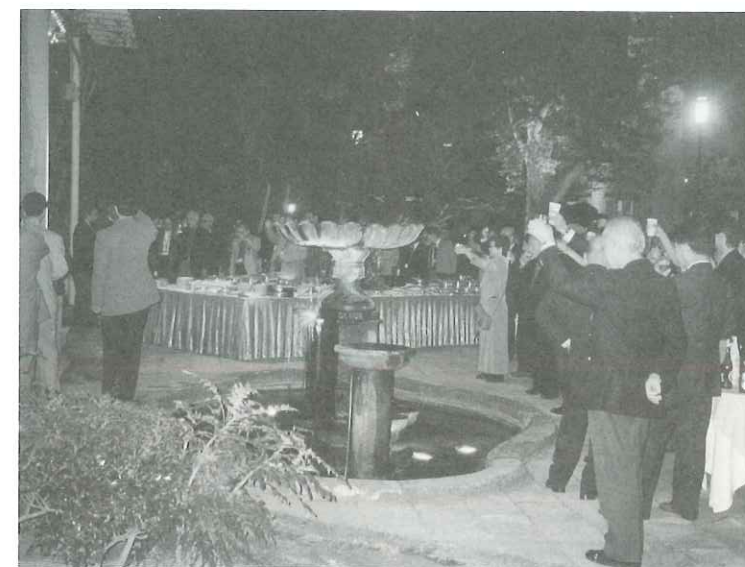
—— 歓談 ——

19:00~19:25 各都市の参加者紹介・あいさつ(各都市5分程度)

—— 歓談 ——

(19:40~20:10)オペラ

20:30 閉会のあいさつ(中島 昭雄 副会長)



乾杯



開催都市あいさつ



開催都市あいさつ



オペラ



各地市あいさつ



会食風景

【参加者名簿】

都市名	団体名	名前
函館市	都市建設部都市デザイン課	齋藤 庶民
新潟市	新潟あきんど塾	本間 龍夫
新潟市	光のページェント	山口 浩二
新潟市	サンクプロム商店街	笠原 一夫
新潟市	サンクプロム商店街	柳澤 茂
新潟市	サンクプロム商店街	栗間 道雄
新潟市	にいがた花絵プロジェクト	中村 脩
新潟市	にいがた花絵プロジェクト	伊藤 真由美
新潟市	にいがた花絵プロジェクト	丹羽 章子
新潟市	にいがた花絵プロジェクト	景山 しのぶ
新潟市	にいがた花絵プロジェクト	杉田 きみ
新潟市	にいがた花絵プロジェクト	小柳 行弘
新潟市	新潟市建築指導課都市景観室	阿部 保夫
新潟市	新潟市建築指導課都市景観室	工藤 勇一
横浜市	山手234番館運営委員会	菅 孝能
横浜市	山手地区景観まちづくり協議会	天川 勝三郎
横浜市	山手地区景観まちづくり協議会	八木 敏子
横浜市	横浜市都市計画局都市デザイン室	足立原 淳
神戸市	北野・山本地区をまもり、育てる会	北 時治
神戸市	北野・山本地区をまもり、育てる会	河合 利一
神戸市	旧居留地連絡協議会	橋本 庄造

都市名	団体名	名前
神戸市	旧居留地連絡協議会	佐久間 泰夫
神戸市	旧居留地連絡協議会	竹内 利行
神戸市	美しい街岡本協議会	田中 三郎
神戸市	美しい街岡本協議会	柏木 良一
神戸市	美しい街岡本協議会	橋谷 惟子
神戸市	神戸南京町景観形成協議会	曹 英生
神戸市	神戸南京町景観形成協議会	呉 信就
神戸市	神戸南京町景観形成協議会	角本 稔
神戸市	栄町通周辺まちづくり懇談会	河西 重雄
神戸市	栄町通周辺まちづくり懇談会	岩田 照彦
神戸市	新長田駅北地区東部いえなみ委員会	横山 祥一
神戸市	新長田駅北地区東部いえなみ委員会	野村 勝
神戸市	魚崎郷まちなみ委員会	松本 禎郎
神戸市	魚崎郷まちなみ委員会	松本 弘子
神戸市	武庫川女子大学	たつみ 都志
神戸市	神戸市都市計画局アーバンデザイン室	倉橋 正己
神戸市	神戸市都市計画局アーバンデザイン室	諏訪 久志
神戸市	(株)地域問題研究所	山本 俊貞
	講師	喜田 信代
	講師	浦口 醇二
	講師	立花 恒平

地域分科会

【日時】

平成12年10月7日(土)9:30~16:00

【Aコース】 テーマ：旧長崎居留地の秘話

～ここに眠る人々の暮らしと業績～

場 所：東山手・南山手地区一帯

コーディネーター：ブライアン・パークガフニ氏

(長崎市国際アドバイザー)

【Bコース】 テーマ：もうひとつの長崎との出会い

～長崎 唐人屋敷～

場 所：新地・館内地区一帯

コーディネーター：浦口 醇二氏

((株)かいアソシエイツ代表)

【Cコース】 テーマ：煉瓦で語る平和のまちづくり

場 所：平和公園地区一帯

コーディネーター：原田 博二氏

(長崎市立博物館長)

1 タウンウォッチング

- (1) 時間 9:30~13:00
(2) 場所 野口彌太郎記念美術館～オランダ坂～東山手12番館～東山手洋風住宅群～大浦国際墓地～大浦天主堂・妙行寺～四海楼前～(コミュニティーバス)～大波止～長崎港遊覧船(昼食)～大波止～旧香港上海銀行長崎支店記念館
(3) 参加者 52名
(4) 概要 東山手・南山手の旧長崎居留地に眠る人々にスポットを当てて、この地に残る洋館及び洋風住宅を中心にタウンウォッチングを行った。他都市からの参加19人を含む総勢52名の参加で、ブライアン・パークガフニ氏の今までとは違った切り口での説明に、参加者もうなずいていた。まちを歩いた後、バスで大波止へ。長崎港を遊覧しながらの船上での昼食は、コミュニケーションの場となっていた。

2 トークイン

- (1) 時間 13:00~15:30
(2) 場所 旧香港上海銀行長崎支店記念館(松が枝町)
(3) 参加者 55名
(4) 概要

① 講演

「旧居留地の秘話～ここに眠る人々の暮らしと業績～」

ブライアン・パークガフニ氏

あまり知られてはいないが、長崎に暮らし、業績を残した外国人の人々がたくさんいる。その一部にスポットを当て、スライドを観ながら人々の生き様を知り、そして、それを知った上で、どのようにまちづくりに活かしていけばいいのか。洋館の活用法や、観光のあり方等、各地が抱える問題を提起する内容だった。

② 質疑応答(抜粋)

- ・色々な知識を得る為の資料集めはどうすればいいか。
 - －興味を持つことである。
- ・観光か生活かその共存が難しい。
 - －重要なポイントである。生活感のある古いものを保存するという、法律にも関わってくるような問題にも発展する。
- ・間違っていることは認める日本人の意識を変える必要がある。
 - －感情論ではうまくいかないので、平和に論議して、まちづくりを進める必要がある。

－まとめ－

まちの文化や歴史、とりわけそこに暮っていた人々にもスポットを当て、それを踏まえて、活かす事のできるまちづくりの方法を探ることも大切である。まちづくりは、そこにすむ人々の生き様だともいえる。観光地なのか、生活の場所なのか、保存すべきものなのか、新しくすべきものなのか、どう活用すればいいのか、まだまだ、問題はたくさんあるが、一つひとつ検討しながら、官民一緒になって、その町の発展を考えていかねばならない。

旧居留地の秘話
～ここに眠る人々の暮らしと業績～

ブライアン・パークガフ二氏



野口彌太郎記念美術館



オランダ坂

長崎の方の足腰を強くしている坂を何箇所も体験することが出来ました。今、私たちが集まっているこの建物は『旧香港上海銀行長崎支店』です。このあたり一帯が『大浦海岸通り』で、明治時代は、道を挟んですぐに港でした。今は埋め立てて、港が少し遠い存在になってしまっています。この『大浦海岸通り』が、まさに長崎の顔でした。船で入って来る時に、この建物、そして隣に『長崎ホテル』がありました。のちほどスライドで見たいと思いますが、海岸通りの建物が長崎に入ってくる人を迎えるような形に建っていました。この『香港上海銀行長崎支店』は、明治中期ぐらいから長崎にあります。建物が造られたのが1902年ですから、ちょうど日清戦争と日露戦争の間で、長崎が一番貿易港として賑わった頃です。昭和初期までは、銀行でしたが、後に閉鎖されて、警察署になったと聞いております。そして、戦後になって民族資料館になり、市民に親しまれ、そして現在、こうして元の銀行の形に戻して、資料館兼市民の憩いの場として再開した



のが数年前のことです。

資料をお配りしておりますが、今日は、居留地にスポットを当てたいと思います。長崎の居留地には、特筆すべきところがあると思います。一つは、長崎の居留地の人々の中で、日本の近代化に貢献をした人が非常に多い事です。そしてもう一つは、安政開港（幕末に開港）した時、長崎はもうすでに出島、唐人屋敷で数百年の国際交流のキャリアがあったという事です。長崎のこの特徴というのも居留地を語る上で重要なポイントではないかと思えます。横浜・神戸・函館・新潟は、全く新しく国際交流の時代を迎えたのですが、長崎だけは、引き続き今までの貿易を形を変えて継続するという事になったと思えます。

そこで今日は、あまり知られていない長崎の居留地の姿、そしてこの居留地に住んだ人々の暮らしと業績をご紹介します。とても大きなテーマで、ほんとにその中で数人だけですが、皆様に見ていただいて、ご参考になることがあれば幸いです。午前中、タウンウォッチングをしながら、何回も説明させていただきましたが、まちづくりというのは、ただ建物や設備を整備する、つまり、ハード面だけ整備するのがまちづくりではないと思えます。やはり、原点にあるのが『人の心』で、その中にある歴史や文化を掘り起こして大切にすること。何よりもその町に住む人が、どのくらいその町に対して誇りを持っているか、愛情を持っているのが、重要なポイントだと思います。そこに住んでいる人に愛される町であれば、訪れる人にも自然に愛される町になるということが言えると思えます。

それでは、簡単な居留地の年表を資料にも入れておりますので参考にしながらお聞きください。ご存知のようにペリーが黒船に乗って日本にやって来て、開国を迫ったのが1853年、その後、幕府との交渉で5ヶ所の町で居留地をつくることを約束しました。これはいわば、日本政府にとっては、仕方がない事でした。本当に日本政府から進んで、開国をしたいとか、外国人の居留地を設けたいとか全く思っていなかったのです。一種の外圧から始まった歴史です。長崎は、そこで重要な役割があったのです。何故なら、中国ではもうすでに、香港・上海で西洋人たちが街をつくっていたのですから、同じように条約港 (Treaty Port) が開港していましたので、上海から日本に来る時にまず、長崎に入るのがルートだったのです。ですから、初期のころ、政府の代表の人達、外交官、最初の商人達が皆、長崎経由で来日し、まず、長崎に落ち着いて、それから横浜などに行くというパターンがほとんどでした。今も長崎に『日本発』という看板を度々見ます。この事から、幕末・明治期に、産業革命の新しい情報や技術が長崎経由ではいつてきたのが事実として分かります。先ほど、新潟の美味しいお酒を頂いたにも関わらず、ロレッツがうまくまわっていません。(笑) 回り方が良くなると新潟の方に約束していただいたんですけど。(笑)

この長崎が、そういう意味で入り口でした。長崎の町の人々も外国人との接触・交流に慣れていたものですから、外国人にとってこの町は、非常に住みやすく、活動しやすい町でした。先ほど歩きながら、オランダの事を話したんですが、『開港』は、オランダ人からかなり抵抗があったようです。開港することで、出島が独り占めしていた貿易を、他の外国人と分かち合わなければならない。今まで全く競争がなかった中に、イギリス人だとかフランス人が入ってきて、いよいよ競争の時代になってきた訳ですから、オランダ人にとっては目の上のたんこぶなわけです。とにかく、長崎にとって新しい時代を迎えました。

これからスライドを観ていただきながら、いろんなエピソードや人物像を紹介させていただきますと思えます。

【スライド】これが、大浦の埋め立てする前の姿、つまり、居留地をつくる前の大浦の姿です。1853年にペリーと幕府の交渉があって、その後数年間、各国、イギリスそして、アメリカとの交渉の中で長崎は開港となりました。もともとは大村班の土地を新しい居留地に割り当てるということで、これは、イギリスの資料の中にあつた写真です。これからつくる居留地の場所を調査していたのです。この坂の上に一本の大きな松の木が見えますが、この場所は南山手です。まさにここにグラバー邸がつけられました。お寺の姿が見えますが、妙行寺です。先ほど歩いた時に前を通りま

した。ここにも松の木が集まっていますが、このあたりが『下り松』という地名です。松が下がっている事からきていると思いますが、外国人の間でもそう呼ばれていました。この川は、大浦川という小さい浅瀬川で、ずっと中まで入っていました。それを全部埋め立てて、護岸工事をして大浦川の両側に居留地をつくったのです。資料の3ページを見てください。これは、居留地が一応完成した時点での地図です。各区域番号、何番地…何番地…と書いてあります。外国の資料にあったもので、英語で書いてあります。梅香崎がMEGASAKIになっています。SAGARIMATSU（下り松）、OURA（大浦）、KOZONE（小曾根）、NAMINOHIRA（浪の平）など記載してあるのが分かります。このまん中にあるのが大浦川です。そして、左側が東山手、右側が南山手です。これは神戸、横浜、函館もそうですし、上海も香港もそうですが、海岸通りのことを『バンド』という言葉で表現しています。英語で、『Bund』と綴ります。この『バンド』という言葉は、どんな意味かといいますと、インドの言葉からきていて、まさに海岸通りです。ボンベイに『アパロウ・バンド』というのがあります。ボンベイが原型で、その後、カルカッタとか、香港、上海などで同じようなまちづくりをする時に、西洋風の街並みをこちらに移植します。その時、海岸通りのことをバンドと呼んでいたのです。元々は、インドのボンベイからきた言葉です。梅香崎から浪の平までずっと海岸通りが続いていました。その海に面している土地が一番高級で、家賃も一番高い所でした。そして、後ろの方の建物は二等地の所で、山手が住宅に使っていたのです。しかし、この時点では、まだまだ建物が造られておらず、大村藩の小さな村にすぎない時代です。当時の地名は戸町です。

【スライド】これが同じ場所を反対の角度から見たものです。

妙行寺というお寺がここにありますが、歩きながら申し上げたのですが、この寺は、日本で最初の英国領事館です。安政条約が成立して、正式に安政6年の7月1日に、日本の港の5ヶ所が開港することに先立って、6月頃にイギリスの外交官たちが船に乗って、長崎に入港しました。モリソンという領事を長崎において、その後廻る順は、横浜、江戸まで行きました。その時にモリソンが上陸したものの、もちろんまだ居留地の街並みも何も出来ていないし、出島はありましたがオランダ人たちが占領していて、絶対よそ者は入れないという状況で、まず彼に与えられた場所はお寺でした。これは、横浜とか江戸もそうだったのですが、有名な東禅寺の事件（幕末にはイギリス仮公使館が置かれ、水戸浪士などによる襲撃事件があった）がありましたけれど、外国人にとりあえずお寺を与えました。何故、神社ではなくてお寺なのかと疑問に思いますけど、やはり、1400年、1500年経っても、お寺というものは異国のもの、仏教は外来のものだという意識があったのかなとも思います。見にくいですが、これが竿ですね、ユニオンジャックをここで挙げていたと思います。

イギリスのロンドンに古文書保管の大きな施設がありますが、実は、この長崎英国領事館の記録というものが、全てそこに保管されています。最初のメモからずっと第2次世界大戦までの電報や手紙が全部あります。イギリスに行く機会がありましたので、それをちょっと調査しました。モリソンは、まだ正式に開国する前の6月のうちに、最初の報告を出しました。その内容は、「テーブルと椅子をよこしてほしい」というものでした。ということは、妙行寺の本堂の畳の上で、最初の領事の仕事をしていたという事になります。ごらんのように長崎の町はこちらにあります。周りのどかな日本の風景です。お寺にユニオンジャックを挙げていたというのはとても異様な光景だったと思います。

【スライド】同じくらの角度から写した写真です。これもまだ幕末ですが、わずか5、6年で、こうして立派な洋館がたくさん出来て、埋め立ても進んで、海岸通りがこうして出来てきているのが分かります。こちらに出島の姿が見えます。もうすでに山手に大きなミッションスクールとかも出来ています。わずか5、6年で長崎の居留地というのがフル廻転していたという事です。このように、幕末のうちは、横浜・神戸よりも長崎の方が重要な役割を果たしていました。

【スライド】しかし、外国人たちは非常に肩身の狭い思いをしていたのです。居留地の外には特別な許可が無いと出てはいけないという、不自由な思いをしていました。居留地は治外法権で特別な権利を与えられていたという一面もありました。しかし、裏を返せば、非常に制限された、自由の

無い生活です。先ほど、船で通って行きましたけど『ねずみ島』という小さな島があります。『神の島』の近くです。その島が、特別に許可をとってピクニック（昼に遊びに行く）の場所に与えられていたわずかな場所でした。これがそのねずみ島で写した写真で、皆、結構集まっています。ここにも結構著名な人がいます。ここでちょっと横着な格好で座っているのがトーマス・グラバーです。足に帽子をひっかけています。その後ろに座っているのがウィリアム・オルトで、初期の三菱に大きく協力した人です。その他にボードウィン兄弟がいます。この兄弟はオランダ人で、初期の日本の医療に貢献して、長崎大学医学部の前身を設立しました。先ほど、私がちょっと冗談言いましたが、マイナーな人、そして、メジャーな人、この中に何処か居るはずなんですけど、残念ながら顔が分かりません。こういう人物の特定というのも、私は、研究の一つのテーマにしています。

【スライド】日本で長崎が第1号というのはたくさんありますが、新聞もその一つです。鎖国時代の日本は、情報の公開を厳しく制限していましたから、情報を公開するものである『新聞』は、存在していなかったのです。1861年、イギリス人によって、長崎で、新聞が作られました。開港から2、3年目の事です。名前を『The Nagasaki Shipping-list and advertiser』といいました。よく間違われるんですけど、『The Nagasaki Shopping-』ではありません。（笑）この新聞が、日本で最初の新聞です。もちろん、英字新聞です。当時、まだ日本語の新聞は誕生していませんので。この新聞を作ったイギリス人が、『A・W・ハンサード』という人で、半年位これを作って、横浜に移って、『Japan Herald』という新聞を作りました。それが、『Japan Times』の前身で、その後の日本の英字新聞の基になったものです。

【スライド】これが同じページのアップであります。ここに、国際ボーリング場という記事があります。『ギブソン』という人が経営していました。日付を見ますと、1861年6月22日長崎となっており、「お酒が飲める」とか色々書いてあります。これが、日本で最初のボーリング場で、梅香崎にありました。実は今、日本で、6月22日が、『日本ボーリングの日』になっています。この由来は、この新聞の第1報が6月22日発刊だった事から来ています。

ここで、見ていただきたいのがこの一面です。全部広告ですが、ご覧のように上海、上海、上海……。紙面の半分くらいは上海の広告です。つまり、当時はまだ日本の居留地というのは、かろうじて運営されていたのです。まだ攘夷運動があつて、外国人達はいつ殺されるか解らないという、不安定で孤独な生活を送っていました。この外国人達も上海から一時的に来ているというケースが多かったのです。これが、上海の広告ばかりが並んでいる理由です。

とにかく皆が上海とのつながりを強く持ちながら、仕事をしていた事が解ります。居留地での生活の中で、どうやってその寂しさを癒していたかという、この広告が物語っています。よく見れば、お酒の広告ばかりがいっぱい並んでいるのが分かります。お酒にかなり頼っていたようです。

もう一人『ジェームズ・ミッチェル』という人をご紹介します。この人は居留地の中で、小さな造船所を作って日本で最初のヨットを造った人でもあります。

【スライド】これが、先ほど訪れた大浦国際墓地にあるジェームズ・ミッチェル兄弟のお墓です。実は彼は、その後、波乱万丈の人生を送りました。韓国の竹島で、木材を伐採するために特別許可を受けて事業を起し、『竹島の王様』といわれるくらいに成功しました。その後、神戸に移住して、神戸の洋館造りにも貢献しました。現在、神戸の外国人墓地に埋葬されています。

【スライド】造船所を造ったジェームズ・ミッチェルですが、日本で最初のドックを造る時にも彼は大きな役割を果たしたと思われる。トーマス・グラバーが薩摩藩と協力してスコットランドのアバディーンからエンジンとか、レールとか、ドックに必要なものを長崎に輸入して、明治元年に小菅修船場を完成させました。日本の近代造船業の始まりがここにあるといっても過言ではありません。日本で最初の洋式ドックで、国指定の史跡です。明治天皇も明治5年に日本を廻る時、立ち寄ったそうです。当時のエンジンとかボイラーが、今でも昔の形で残っています。

【スライド】このジェームズ・ミッチェルという人はまさに忘れられた存在です。これが今朝見た大浦国際墓地です。長崎の典型的な坂の町がここにあつて、こういうふうに墓地が並んでいるんで

すが、この大浦国際墓地に300人ほどの人が埋葬されています。一人ひとりの経歴を見ますと、日本の近代化に貢献した人も数多くいます。

【スライド】別の形で名を残す人もいます。これは、墓碑銘が見にくいですが、二人のイギリス人水兵のお墓です。私達が訪れた所の少し先にあります。この2人は、実は今歴史に残っている、『慶応事変』の当事者です。『イカラス』という船に乗って、長崎に入港したのが1867年のことです。二人は、長崎の町に遊びに行って友達とお酒を飲んで、飲みすぎて、泥酔状態になって歩けなくなったので、友達が寄合町の遊郭街に、後で迎えに行くからと寝かせていました。しかし、戻ってみるとそこは、血の海でした。明らかに侍に刀で殺されていたのです。この事実を知ったイギリス側は、開港してからもう8年も経ち、居留地が整備されていたにもかかわらず、まだこうして外国人達の安全は確保されていないと怒って、長崎領事を通じて、幕府にクレームをつけて、早く犯人を見つけろと言いました。それが、なかなかまくいかず、1年掛かってやっと筑前藩の武士が、事件の直後に切腹していたということが判明したのです。それで、一応その事件は解決したのですが、実は筑前藩の領主が、イギリスの遺族に賠償金を与えるという事で落ち着いたというのが結末です。

この事件は、あまり知られていませんが、明治維新に大変大きな影響を与えました。何故ならば、それまでイギリスは、どちらかというとも幕府を支持していました。しかし、この事件を解決する事の出来ない幕府、そして、長州・薩摩など諸藩が全く協力しない姿を見て、もう幕府の時代は終わったというイギリスの判断がありました。この事件後、幕府に失望したということです。

この水兵二人は、美味しい新潟のお酒を一杯でも飲んで、まさかこんな事になるとは思わなかったでしょうね。(笑)

こういう物語も長崎の国際墓地の中に埋葬されています。

【スライド】これが寄合町、今話した遊郭街です。この写真はアメリカ海軍の資料の中にありました。当時の長崎は、石畳とかランプとか開港直後でも非常にモダンだったという事が分かります。女の子達が2階からカメラの方を見えています。この写真は水兵達がこういうところに遊びに行くので、海軍関係者が調査して、資料として撮ったものです。

【スライド】蝶々婦人の物語にあるような、一時的な滞在で、そして、その女性が捨てられて、愛情も何も無いというような物語もありますが、あまり語り伝わっていない恋愛物語もあります。

『グースタフ・ウィルレーキンス』というアメリカ人の商人が、1869年(明治2年)1月28日に37歳で、長崎で亡くなりました。彼の事は、『ニクル商会』という商会に勤めていたということ以外何もわかっていませんし、英字新聞の死亡記事もありません。ただ一つ、ここに日本語で、津の国屋内玉菊という日本人女性の名前があります。『津の国屋』というのは、寄合町の遊郭の名前です。そこに勤めていた遊女か芸者か、これは、はっきりしませんが、とにかく名前を『玉菊』といい、二人が恋人で、そして彼が亡くなった時、彼女がお金を出して彼のために墓碑を建てたという事が分かります。ですから、蝶々婦人にあるような、一時的な薄情な関係ではなかったということ、この小さな墓碑が証明しています。

【スライド】やはり、長崎の居留地を語るときにこの人を避けて通ることは出来ません。トーマス・グラバーです。トーマス・グラバーといえば、晩年のイメージというのが非常に強いですが、これは、『蘇る幕末』という本の中で紹介されている若い頃の写真です。彼は、スコットランド出身で開港と同時に長崎にやって来て、最初は『ジャディン・マセリン商会』というスコットランド系の会社の従業員だったのですが、その2年後に独立して、『グラバー商会』を設立しました。その後は非常に有名ですが、色々な船とか武器とか、様々な技術を導入して、日本の近代化に大きく貢献した人です。

【スライド】この姿のグラバーが有名だと思いますが、外国人として初めてを日本政府から勲二等旭日章を授与されていた時のものです。

【スライド】グラバー邸も長崎の名所で、長崎のシンボルみたいなものです。

【スライド】これは、最近発見した写真で、非常に珍しいアングルでグラバー邸を捕らえています。

最初の写真でお見せしました大きな松の木ですが、その木を囲むようにグラバー邸を造ったのが分かります。この写真には、グラバーの姿は写ってなくて、奥に座っているのはオルトの奥さんのようです。トーマス・グラバーがグラバー邸のことを『イッポンマツ』というあだ名で呼んで、その後ずっと居留地の中で最も有名な建物で、居留地の人々から『一本松』という日本語の名前で知られる事になります。



大浦国際墓地

【スライド】グラバー邸の前から撮った写真です。こういうふうに石庭を作って、そこを浪人たちが歩いているのですが、横にはなんと大砲があります。これは飾りと決まっています。しかし、この大砲がトーマス・グラバーがいかにすごい財力を持っていたかを物語っています。当時はだいたい山手に家を建てること自体が、タブーだったと思います。いくら居留地といっても、大砲を設置することは、大変異例の事でしょう。もしかしたら長崎でしか許されない事ではないかなとも思います。なぜなら、長崎は天領で、海外との交流があって、出島にも大砲があり、多くのオランダ船にも取り付けられていました。この意味で、異質のものを認め合って平和に共存する姿が、前から長崎にあって、この大砲が、そういうような理由で許されたのではないかと思います。外国人がここでくつろいでいて、侍(浪人)が散歩していて、当時のさりげない国際交流をこの写真の中に見る事が出来ます。

その後、三菱の造船所が、グラバー邸から丸見えというあたりに出来ました。この事は、後にグラバー邸と長崎の関係を断絶するきっかけとなったのです。

【スライド】トーマス・グラバーの貢献の一つがこの船です。これは、ジョウショウ丸という名前で、アバディーンで造って、そして肥前藩(熊本)に売った船ですが、当時長崎に持ってくる時に、なんと1,500トンもある、日本で最初の軍艦です。長崎にある汽船は当時大体200トンから300トンでしたので、大きさが全く違います。明治天皇が、明治5年に日本を廻ったと申し上げましたが、その時にこの船を使いました。しかし、この出費がとてつもないもので、肥前藩がそれを払えない、そして、ポンドと円の相場が変わって、グラバーが大きな借金を抱えることになってしまったのです。結局、『グラバー商会』はこの船1隻で、倒産してしまいました。

しかし、グラバーが、献身的に西日本の諸藩のために協力したということで、仲間に助けられて、三菱の顧問となりました。先ほどお話ししましたように、日本政府からの勲章をもらって、まさに明治時代の日本の英雄だったのです。この船が日本海軍の最初の中心的な軍艦となって、『龍驤』と改名されました。この船の事もあまり知られていないと思います。

【スライド】これは、最近発見した手紙で、『My Dear Glover』(親愛なるグラバーさん)で始まる『アーネス・サトー』という有名なイギリス人外交官が書いたものです。ここに『E・Satow・Tokyo・1896.3.12』とあります。手紙に書かれているのは、「スペンサー伯爵という、イギリスの元海軍大臣が、日本に来るから、長崎に興味があるので、その時に長崎を案内してほしい」というお願いの文章です。この手紙をアーネス・サトーがグラバーに宛てて出したものです。これは、ある三菱関係の方の家から、最近出てきたものです。この手紙からも、グラバーは、物を売ったり、買ったりするだけの商人では無く、日本の軍事の事にまで関わる重要人物だったということが分かります。

【スライド】これは、非常に達筆というか、汚いというか(笑)、スペンサー伯爵がグラバーに宛てた礼状です。「大変お世話になりました。佐世保の海軍の施設まで見せていただきありがとうございました。」と、色々書いてあります。実はこのスペンサー伯爵というのは、英国の海軍大臣だったのですが、もう一つは、事故で亡くなったダイアナ妃の先祖でもありました。

ダイアナ妃の旧姓は、ダイアナ・スペンサーで、同じスペンサーです。この後、これが96年ですから、日清戦争直後、日本海軍がイギリスで本格的な大きな軍艦を造って、日露戦争に備えました。その時も、日本政府の代表がイギリスに行ったのですが、進水の時にこのスペンサー伯が出てきて、とても日本に協力的で親日家だったようです。表には出ないですが、その背景にトーマス・グラバーとの長崎での出会いがありました。

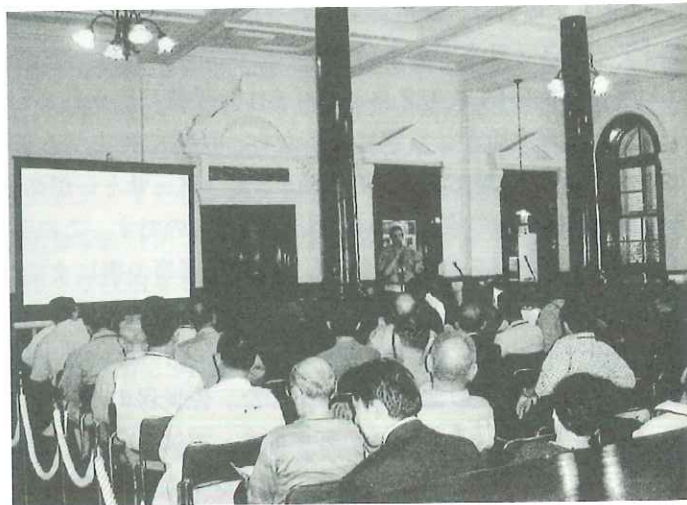
【スライド】これがグラバーの名刺です。『T・B・Glover・Tokyo』と非常に簡単な名刺です。そして、その下に長男の『倉場富三郎』と『T・A・Glover』という二つの名刺があります。

【スライド】トーマス・グラバーと息子の富三郎です。時間の都合で、詳しくは説明いたしません。息子は、明治3年に長崎で生まれて、その後、学習院を卒業して、ペンシルヴェニア大学に留学しました。長崎に戻って、『ホーム・リンガー商会』に勤めて、トロール船を輸入して、日本で初めてのトロール漁業をしたり、初めてアスファルトの道を作ったりと、今度は、息子の代になって、色々日本の近代化に貢献しました。しかし、第2次世界大戦の直前になると、やはり、外国関係ということで、スパイをする可能性がある、憲兵隊に非常に厳しく取調べを受け、グラバー邸から追い出されて下の方に住まざるを得ない状況になってしまいました。そして、戦争直後に自殺をしました。その日から、グラバー邸と長崎の関係は、完全に断絶してしまったのです。トーマス・グラバーが英雄とされ、日本人に大切にされて、勲章までもらったのに比べると、二代目も父と同じように本当にいろんな貢献をしたのに、時代に恵まれず、哀れな最後を遂げました。この二人の生涯の非常に対照的なところが印象的です。

【スライド】次の人を紹介。先ほども少し触れましたが、オルトです。『オルト邸』というのがグラバー園にもありますが、このオルト邸の元の主がウィリアム・オルトです。彼は結構スポーツマンで、長崎港で外国人によるボートレースがあった時、勝ったから、ここに写真があります。フレデリック・リンガーも端っこに写っています。

【スライド】これが、オルトの奥さんのエリザベスという人です。娘が長崎で生まれました。この子は、日本で生まれた西洋人の子供としては最初のひとりです。使用人と一緒に写った写真だと思いますが、日本人が手に雑巾を持っているのが分かります。そして、抱いているのは、たぶん乳母、つまり子供の面倒を見る人ですけれども、二人がオーストラリアで結婚したことから、この人はたぶん、オーストラリアの先住民ではないかと思えます。リンガー邸の家でも使っていた人ですから、オーストラリアから長崎に連れてきたのではないかと思えます。

【スライド】オルト邸というのは長崎の住宅の中で一番立派な建物であるといってもいいと思います。グラバー邸は大変有名ですが、建築学的に見れば、オルト邸が立派な造りです。石造りで非常に豪華な建物です。港も見下ろせて、家からの景色も素晴らしい。オルトは、このオルト邸に8年だけ住んでイギリスに帰ってしまったのです。このパターンは結構多かったのです。つまり、一攫千金を狙って来日して、成功したらイギリスに帰って悠悠自適の余生を送る。オルトの生き方は、まさにそうでした。凄い美術のコレクションを持ってイギリスに帰りました。その後、この建物は公社として使われていたり、アメリカ領事館になった時期もありました。それからリンガー一族の個人住宅になったりもしました。様々な経歴のある建物ですが、これが重要文化財の指定を受けて、今、グラバー園の中で公開されています。しかし、オルトの事はほとんど忘れられて、オルトとはどういう人で、どういうふうに長崎に貢



旧香港上海銀行長崎支店

献したのか意外と知られていません。一部の郷土史の中でしか取り上げられていないですが、彼の先祖の話には興味深いものもあります。

【スライド】『レベッカ』という小説が大変有名ですが、これが映画化されて、アルフレッド・ヒッチコックが、アメリカで最初にデビューした事がある、これが1940年のアカデミーの映画賞を受けた作品です。その小説を書いた人は『Daphne Du Maurier』という英国の女流作家ですが、彼女は、オルトの子孫です。今、グラバー園では、入園率が下がっていて、どういうふうにすればいいのか、洋館をどういうふうに貸せばいいのかと、長崎市もいろいろと悩み思案しています。私に一つのアイディアがあります。オルト邸を中心に『ヒッチコック映画祭』を開催するのは、いかがでしょうか。これは、単に例えのことですが、私が申し上げたいのは、歴史をたどってみれば、過去を掘り起こしてみればそういうつながりとか、面白い話があり、アイデアも浮かんでくるのではないかと思います。日本語でいう『故きを温ねて新しきを知る』、そういう古い記述もちゃんとつながりがあるから、グラバー園を中心に世界的にヒッチコックの映画祭を催す事が出来るのです。

そういう意味ではこの居留地は色々なデータを持っています。そのデータを活かして何か新しい事をしていくこと。これは、長崎、横浜、神戸、新潟、函館、どこにも言えることだと思います。ですから、その事実を眠ったままにせず、掘り起こして、もっと活用したいと思います。

【スライド】フレデリック・リンガーです。『リンガー・ハット』というちゃんぽん屋がありますが、全く関係ありません。(笑)

彼も、意外と知られていません。リンガー、オルト、グラバーの3人が長崎の中心的な商人達で、グラバー邸、オルト邸、リンガー邸が、グラバー園(元の場所)に今も残っています。リンガーは、非常に長く、長崎で活動して、『ホーム・リンガー商会』を経営していました。この会社は、最後まで(第2次世界大戦まで)残った商会でした。ですから、『グラバー商会』より貢献度ははるかに高いのですが、なぜか、外国にあまり知られていません。

リンガーの兄は英国の有名な医者で、『シドニー・リンガー』といって、点滴の時に使う液体を開発した人です。その液を『リンガー液』といいます。日本語で、『リンゲル液』がそうです。これは、今でも使われているものですから、ご存知の方もいらっしゃると思います。昔は、お年寄りが点滴そのものを、『リンゲル』と言っていたそうです。病院に行くと「ちょっとリンゲルして」というふうに……。

【スライド】ホーム・リンガー商会は、今話したように保険会社、海運会社の代理業をしたり、いろんな事を行っています。日本で初めての製粉工場を造ったり、ホテルの経営、新聞の経営、捕鯨を日本で初めて行ったのもこのホーム・リンガー商会です。昔ながらの捕鯨の方法ではなくて、近代的な捕鯨の方法は、リンガーが始めたものです。この『ホーム・リンガー商会』があった場所が、今朝集まった英国領事館横の現在バスの駐車場になっている所です。

【スライド】これが、歴史保存地区である東山手を空から見た航空写真です。英国領事館がここにあります。今朝、ここに集まり、ここから出て、オランダ坂を登って行きました。その隣に大浦の7番地にホーム・リンガー商会がありました。非常に広い敷地です。ずっとこの場所から長崎の近代化というか、新しい時代の色々な産業に大きな影響を与えたのですが、意外と知られていないというか、人々からリンガーの記憶が消えてしまっています。

【スライド】『ナガサキプレス』という最後の英字新聞もこのホーム・リンガー商会が出していました。先ほど最初の新聞をお見せしましたが、これが最後の新聞で、端に「今日が最後です。これ以上は発行しません。ナガサキプレス」と書いてあります。1928年の7月一杯で、廃刊になってしまいます。これが、長崎に於ける英字新聞の終わりです。しかし、そのナガサキプレスを止めた時に、それまでの新聞を全部集めていたのです。ナガサキプレスは日刊紙だったのですが、ナガサキプレスだけではなく、それまでの自分達の記録や、資料を全部捨てずにとっていたのです。それを長崎県立図書館に寄贈されましたので、今も資料として残っています。この資料が、私から見

ると本当に宝の山です。居留地を研究する上で大変重要な資料で、一生かけても全部整理する事が出来ないほどの素晴らしいものです。

その中で一つ紹介いたしますと、英字新聞の中に「社説」欄があって、よく日本の新聞に書いてあることについて批判をしています。「鎮西日報ではこんな事を言っている、冗談じゃない」日本の新聞には日本語で、英字新聞には英語で、それぞれ言葉の壁はどうしようもないですが、議論を交わしています。現在であれば、

もっとコミュニケーションを取りやすい時代なのでしょうが、言葉の壁が高かった明治時代においても、とにかく開港の関係で、色々な話しをしていた事が分かります。

【スライド】私達が今いるのがこの建物です。旧香港上海銀行の隣に長崎ホテルという非常に立派なホテルがあります。残念ながら、外に出られたらすぐ分かりますが、今はガソリンスタンドになっています。このホテルは、3階建ての立派な煉瓦造りの建物でした。設備の面からも、初めて電話が各部屋に設置されました。自家発電もありました。肉を保存するための初めての大型冷凍庫もありました。最新の技術を駆使して、最高の設備を備えたホテルでした。東洋一のホテルと当時自慢していましたように、まさに長崎の顔でした。残念ながら、日露戦争が過ぎて長崎に来る人が少なくなってしまい、衰退していきました。

上海に近くて便利という理由で繁栄した長崎に、日露戦争の時、戒厳令が施されたことが、衰退した一つの理由です。長崎・佐世保・対馬が戦場に近いということで、軍事的に考えて重要な場所ですから、戒厳令が施かれて、もういろんな船は長崎に来なくなりました。その後、日露戦争が終わっても、長崎は衰退の一途をたどりませんでした。繁栄は、門司・下関に移って、その後、神戸・横浜が中心になりました。この犠牲者の一つが長崎ホテルです。競売にかかった長崎ホテルを『ホーム・リンガー商会』が買収しました。しかし、それも長くは続かず、日本人が暫く経営していたんですけど、とうとう大正13年に完全に閉鎖してしまいました。その後、寮として利用されていましたが、もう傷んでしまって解体されてしまいました。長崎ホテルは最高級の物をイギリスから輸入していたのですが、大きな建物で、ダイニングもありましたので、100人分の最高級の皿、ナイフ、フォーク、そういうものを全部揃えました。ホテルが閉鎖になった時、それを全部売却しようとしたのです。しかし、皿やナイフ・フォークはなかなか売れませんでした。何故ならば、全部の食器に『N・H』という頭文字がついていたからです。長崎ホテルの『N・H』です。全てにそれが刻んであるものですから、なかなか買い手が着かなかったのです。しかし、買い手はつきました。買主は、『奈良ホテル』です。(笑)丁度1908年、長崎ホテルが倒産した時に奈良ホテルが出来ました。頭文字が同じ『N・H』なので、これを全て購入しました。現在も奈良ホテルはありますから、きっと保管していることだと思います。

【スライド】長崎が貿易港としては衰退してから、造船業が経済の柱となりました。やがて、軍艦も造るようになって、完全に明治の頃の気軽な国際交流は、無くなってしまいました。

【スライド】もう1人グラバー園に家がある人を紹介したいと思います。これが、ウォーカー邸です。ウォーカーも長崎に兄弟で来ていました。名前は、ウィルソン・ウォーカーとロバート・ウォーカーです。この家には、ロバート・ウォーカーが住んでいたということになります。

【スライド】こうして、ウォーカー邸のところを見ますと、説明版に「この『R・N・ウォーカー』という人が最初は三菱の船長で、その後、『日本郵船会社』の初期の船長として活躍して、そして



十二番館

長崎に来て、『R・N・ウォーカー商会』を設立して、日本の海運業に貢献しました。そしてこの家に住んでいました。」と書いてあります。しかし、これは、調べてみれば、違っているのです。その話の前に少しウォーカー自身のことについてお話しします。

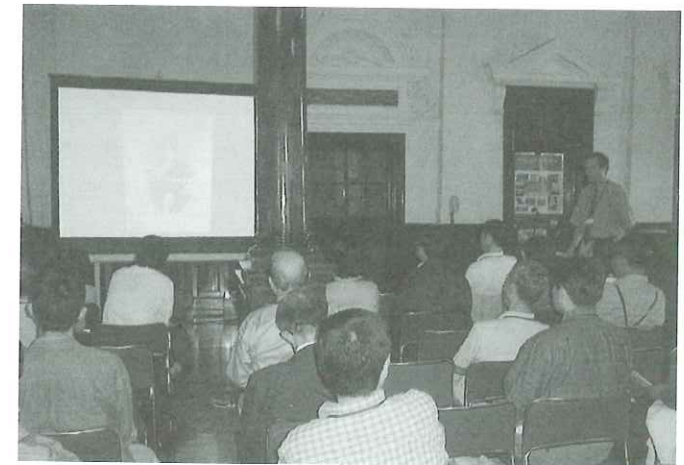
【スライド】これが、R・N・ウォーカーの若い時の写真です。最初、明治7年(1874年)に日本に来て、三菱商会の船長となりました。西南戦争の時も運搬に携わって貢献しました。その後、『兵庫丸』という大きな船の船長を経て、『高千穂丸』の船長になりました。この『高千穂丸』は、神戸ー長崎ー釜山ーウラジオストックの航路で活躍しました。しかし、対馬で事故を起こしてしまって、責任を問われて、結局6ヶ月間の免許停止になってしまったのです。日本郵船会社に行って色々調べたのですが、彼が、その事故でクビになったという記録は全くありませんでした。しかし、本人は恥をかいたと言う事で、サトという奥さんと、8人の子供と一緒にイギリスに帰ってしまいました。そして、イギリスで彼の父の造船業を手伝っていました。そこでもう1人子供が生まれて9人になりました。しかし、奥さんのサトは、日本を引き上げ、右も左も分からないイギリスで9人の子供の世話をし、度重なる苦勞からか、イギリスのメリーポートという、日本人は誰も行った事のないような小さな港町で、36歳の若さで心臓病のため亡くなりました。サトがイギリスで埋葬された日本人の第1号と言われています。愛妻を亡くしたR・N・ウォーカーは、9人の子供を連れて、再び日本に戻ってきます。

【スライド】これが、R・N・ウォーカーと9人の子供が写っている写真です。彼は、奥さんが亡くなった後、1人でその子供達を育て、生涯再婚することも無く、神戸で暫く仕事をした後、長崎に来て『R・N・ウォーカー商会』を設立し成功しました。その後、カナダに移住して、カナダで亡くなっております。次男だけが長崎に残って、『R・N・ウォーカー商会』の後継ぎになっています。名前を『ロバート・ウォーカー・Jr.』といい、まさに頭文字も『R・N』です。後の子供達は、それぞれ外国に行っています。

【スライド】これが、R・N・ウォーカーが4人の娘を連れて、カナダに移住する直前、ロバート・Jr.に別れを告げる時の写真です。長崎に市会議員をしていた子供もいたのですが、結局は、日本から皆いなくなってロバート・ウォーカー・Jr.だけが残りました。この写真の中に、一人どこから見ても美人だなあという人がいますが、この人は、後にハリウッドに行って女優になりました。ヴァイオレット・ウォーカーと言いますが、それほどメジャーではなく、やはりマイナーでした。(笑)

【スライド】これが、ロバート・ウォーカー・Jr.の晩年の写真です。一緒に写っているのが、シゲコ・メープル・マクミランという彼の奥さんです。彼女も彼と同じく、イギリス人の父と日本人の母を持っていて、彼が56歳の時に結婚しました。そして、二人の間に2人の息子が生まれました。この家族が住んでいたのが、今グラバー園にあるウォーカー邸です。

最近発見した領収書があります。居留地の中で色々な物件を売っていた、『S・D・レスナー』という、今でいう不動産業者が発行したもので、『浪の平ヒル』と書かれてあります。これは、つまり南山手の事で、『南山手28番地B』というのはまさにウォーカー邸のあった場所です。この領収書から、ロバート・ウォーカー・Jr.が、1915年にこの家を買った事がわかります。1915年というのは、お父さんが長崎を離れて、カナダに行ってしまう前から、7年も先の事です。ですから、あのグラバー園にある家は、お父さんとは関係のない事が事実として分かります。繰り返しますが、ウォーカー邸は、R・N・ウォーカーとは、全然関係ないのです。ロバート・ウォーカー・Jr.の家で



旧香港上海銀行長崎支店

す。私は、この事実を論文にも出して指摘していますが、残念ながら、ウォーカー邸には依然としてあの説明版があります。

私の指摘に対しまして、「『グラバー園』はテーマパークですから、日本郵船会社で貢献した、R・N・ウォーカーが住んでいたという方が絵になるし、そんな細かい事言わなくてもいいじゃないですか、やかましい！」とされていると思います。私は、そう感じています。しかし、私は、この事を非常に懸念いたします。新しく分かった事実に対して「あまりそんなにこだわらなくていいと思う、アバウトでいいから。」という考え方では、本当の意味で、建物を生かす事は出来ないし、長崎に遊びに来る観光客の方にも興味をもていただけないと思います。その事を見抜かれてしまいます。

【スライド】これは、すぐ近くの裏通りにある煉瓦の大きな倉庫です。一軒の洋館があります。R・N・ウォーカーが、最初に子供を連れて長崎に戻ってきた時、この建物に住んだということが分かりました。『R・N・ウォーカー商会』が、荷揚げ業をしていたので、この倉庫を造って、その荷物を置く場所に使っていたのです。

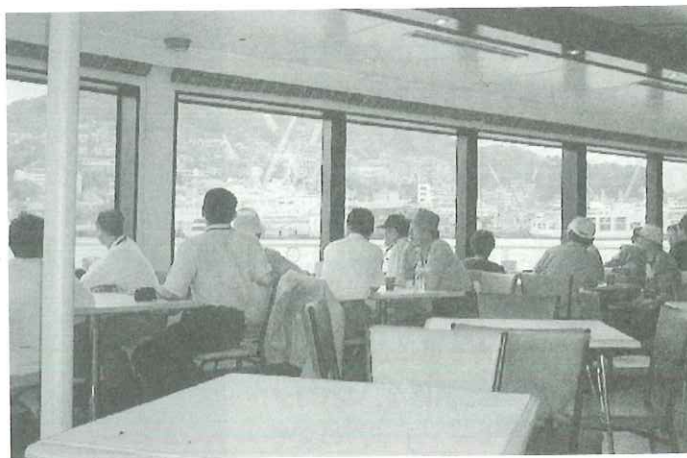
【スライド】今、この倉庫は、ロープ（縄）を作る会社がずっと前から使っていて、建物を大切にしています。隣の洋館は、長崎市が購入して洋館として復元して、現在、『版画展示館』になっています。

私は、『版画展示館』としての活用方法が悪いと言っている訳ではありません。しかし、ウォーカーが住んでいたということで、例えば、彼の生まれた町の紹介、或いは、亡くなってからのヴィクトリアの紹介、『R・N・ウォーカー商会』荷揚げ業者としての活動など、もっともっと、住んでいた人に直結した活用方法を考えてもいいのではないかと提案しているのです。つまり、歴史を重視して、それを出来るだけ忠実に紹介して活用することが出来ないだろうかと考えているのです。これが、私が今日の話しの中で一番伝えたかった事です。

【スライド】昭和初期に作られた面白い絵図です。長くて東京まで書いてあって、長崎の町では、出島の埋め立ても進んでいる事が分かります。居留地も、これが三菱の造船所ですから…。だんだん長崎の港が埋め立てられて、国際交流の拠点としての役割は、少しずつ衰退しては行ったもの、やはり、依然として大陸に一番近い港町です。海外との交流は長崎にとって、大事なテーマであることに変わりないと思います。

【スライド】『長崎ぶらぶら節』の映画でとても有名になりましたが、古賀十二郎先生です。郷土史家の神様のような存在で、有名な著書もたくさんあります。その中の言葉に、「港あり。異国の船を売り招きて、自由なる町を開き、歴史と市場の町長崎。世界の長崎。」とあります。私達長崎に住む人は、もっとこういう言葉を噛み締めて、長崎のこれからの発展を考えていきたいと思います。最後のスライドになります。

【スライド】こうして美しい長崎の港が変わらないように守っていかなければなりません。同じように、神戸、横浜、新潟、函館の港も景観上からも大変重要な存在です。世界へのライフラインという事もできると思います。いくら飛行機の時代と言いましても、船の重要性は昔も今もひとつも変わらないと思います。これからも変わらないだろうと思います。港を見ました。歴史を見ました。人の心を活かしたまちづくりをこれからも進めていきたいと思っています。今日は、ご静聴ありがとうございました。



遊覧船から長崎港を望む

(質問：横浜市) スライドの中で、資料がたくさん出て来ましたが、私達も、洋館の活用方法を考える時に、資料集めというのが非常に難しく、いろんな細かいエピソードを拾うためになかなかいい資料を見つける事が出来ません。資料を集めるコツのようなものが何かありますか？

(パークガフ二氏) 一言で言いますと『興味』ではないかと思います。誰かがそのテーマについて興味を持ちさえすれば、いろんな所でそれを掘り起こす事が出来ると思います。

それと、居留地の資料は特に海外に散らばっている場合が多いので、『語学力』もある程度必要だと思います。例えば、先ほど紹介した英国の資料館、日本語の正式名称があつて、『国立公文書保管所』といいます。ロンドンの郊外にある施設ですけど、1日だけ時間があつたのでたちよつたのですが、私は興奮してしまいました。長崎英国領事館の全ての資料がそこに揃っているのです。それを生で見ることが出来ます。神戸と横浜の資料もあります。私は今まで見たことがなかったし、それが活用されているとは思えません。その中で私が研究しているテーマに関連する分だけを、いくつかだけコピーして持って来たので、その資料を長崎でもっと活用しようと運動しているところです。とにかく、面白いと思う人がいれば、必ずそこで道が開かれると思います。

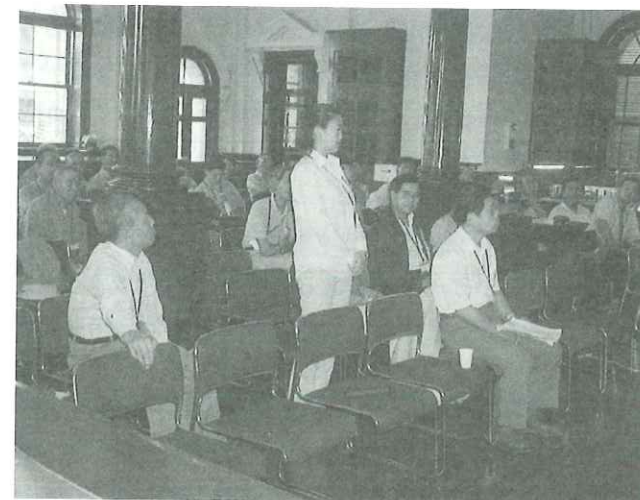
(質問：横浜市) この年表を見ますと、明治20年(1887年)位に外国貿易の主体が横浜、神戸に移って、どんどん移転していったと書いてありますが、英国領事館が1908年に建てられたり、旧香港上海銀行が1892年に建てられたりと、長崎の港が衰退している時にどうしてこれらの建物が建てられていったのか、聞いていて疑問に思ったのですが、その辺を教えてください。

(パークガフ二氏) おっしゃった通り、最初は長崎が発展して、幕末・明治初期になると、横浜と神戸がどんどん発展していき、貿易の拠点は長崎から横浜・神戸に移る場合が多かったんです。その貿易額を比較してみても、長崎は横浜の1/10くらいしかありませんし、外国人の人口もずっと少ないです。そういう意味で長崎が神戸と横浜に随分取られたというか、スランプの時期がありました。しかし、日清戦争(明治27年から29年)の勝利によって、台湾が日本の植民地になりましたし、海外との交流がとても盛んになりました。

同じ頃、今まで、イギリス・アメリカ・フランスが、どちらかと言うと中国の南の方に植民地をもっていたのが、北の方に進出するようになったんです。しかも、アメリカとスペインの戦争が明治31年に勃発して、フィリピンがアメリカの管轄下になりました。こういう様々な動きがあつて、中国の北の方における、そしてフィリピン等における諸外国の活動が非常に活発になってきました。その世界情勢のもと、長崎は日清戦争の後、とても賑わうようになりました。一度は衰退したものの日清戦争で盛り返し、それから10年間、日露戦争まで、外国の軍艦もたくさん入港して、もう停泊する場所がないくらいでした。

長崎の鉄道が初めて全国とつながつたのが、明治31年、ちょうどその年です。何よりも、たくさん入港する外国船の乗客がみな上陸しますから、夏の天気の良い日には一万人、一万五千人もの人が町に下りてきて、買い物や観光に廻ります。ですから、非常に町は潤いました。

盛り返したもう一つの要因に『雲仙』があります。雲仙は今も避暑地で、真夏の暑い時にも非常に涼しいところです。温泉があつて有名です。香港や上海に住んでいた外国人達がその暑さを逃れるために雲仙で夏を過ごしました。それはもちろん長崎経由です。『雲仙』の繁栄のおかげで、長崎が非常に賑わつた時期があつたんです。しかし、先ほど申しましたとおり、日露戦争を過ぎると、再び衰退期に入ることになります。旧香港上海銀行はその一番ピークの時に建てられま



した。いろんな有名な建築も大体その時期か直後、一種のバブルの時期に造った物です。英国領事館も完成したのが1907年で、工事を始めたのはその2年くらい前です。隣の長崎ホテルも明治31年で、日清戦争の真っ盛りの頃です。そして、日露戦争の後は長崎に寄る必要性もなくなり、大きな船も通過し、だんだん衰退していきました。この日清戦争から、日露戦争の間は、ひとつの特異な時期だったと言えます。なんと、皮肉なことに1899年に居留地が廃止されました。これに伴い、混住が認められて、そこで外国人の生活が難しくなるはずだったのですが、それがもう全く関係ないかのように一番経済的に発展している時期だったので、長崎においては居留地がなくなったことは、全く影響がありませんでした。

(質問：横浜市)話を聞いて大変感銘を受けたのは、小さな新しい情報というか、色々な事実が出てきますね。その時に、それが単なる情報収集ではなくて、確かな証拠に基づいたことでも、そんな細かいことはいわなくていいじゃないか、アバウトでいいというような風潮があるとおっしゃいました。これは、日本人の一つの悪いところだと思います。最初に発見した人が、それが違っていたというような事になると、その人の瑕瑾(家名・評判などについたキズ)になるのではないかという意識が日本人の中にあると思うんです。でも、それは、その時点で色々な資料が少なかったためにそうなった訳で、決してその探した人の瑕瑾ではないと思うんですけれども、そういうところが、日本人には少し心が狭いところがありまして、それが非常に残念な気がいたします。せっかくそういう色々な資料が出てきた時は、大きな声でおっしゃってもらって、これは長崎の方にもお願いいたしますが、それをサポートして頂けたら、私達が住む横浜でもそういうことが一つのきっかけになると思いますので、これは先生だけではなく、長崎の方々、是非よろしくお願いします。

(パークガフ二氏)おっしゃる通りです。批判するのではなく、研究の上に研究を重ねているという観点で、決して人に対する失礼とかそういうとらえ方はしないで、笑いながら、話しながら、まちづくりをやって、あまり感情的になると、うまくいくものもうまくいかないもので、長崎も平和の街ですから(笑)、まちづくりも平和に進めていかなければならないと思います。

(質問：横浜市)横浜では、歴史のある建物の観光化ということに対して、非常に警戒しております。観光を優先するより、そこに住んでいる人の生活を尊重しながら、文化なり地区の歴史を活かしていく。これが住民の方々を含めての基本的な考え方です。ただ、横浜の歴史というものに対して、とても興味を持っている方がたくさんいらっしゃって、その方達が定期的にレクリエーションをされています。こういう歴史的な遺産をどのように活かしていくかは大きな課題だと思います。長崎では観光と生活をどのように考えているかお聞かせください。

(パークガフ二氏)これが一番重要なポイントではないかと思えます。居留地はある意味、奇跡でできた街ということができると思えます。結局、歴史の中で、日本の鎖国時代が終わって外国人と交流をする。そして西洋の技術を取り入れて、日本の近代化が進んでいく。そして、外国人達に『治外法権』という特別な権利を与えて、ここで自分達だけのまちづくりをさせてという、いろんなその時の歴史的な条件がそろって、やがて居留地は50年も経たないうちに無くなってしまった。そして、そこに住んでいた外国人はいなくなってしまいました。私は、実は大正時代に造られた日本家屋に住んでいます。「似合いませんね」とよく人から言われますけれど、あまり異人館に住みたいとは思いません。昔は、西洋人たちは、それこそ日本の家に住みたくなかったから、物理的に住めないから洋館を造った。だから、そこでその建物の本来の目的がなくなってしまった。つまりそれは、西洋人達の生活の場としては必要ないといっていると思うんです。同じようなまちづくりは、例えば、ヨーロッパとかカナダにもあるんですが、その違う点と言うのは、例えばカナダでビクトリア時代の建物があるとしたら、その建物に少し中の設備を変えることができたら、今でも誰でも住むことができます。生活そのもの(ライフスタイル)がほとんど変わっていないですから。しかし、旧居留地の洋館というのは、非常に特異な特別な建物で、それをどう活かしていけばいいのか。先ほど、重要なことを言われましたが、観光にするのか、売り物にするのか、生活の場にするのか。やはりどこかで順位付けをすることが重要だと思います。長崎の経験から考えますと、とにかくその建物

を所有している人が、その建物が好きでその建物にふさわしい活用の仕方をしている。一方、市(行政)がもし、その建物を買うと、物理的な保存はできるんですけども、活用の道がほとんど開けません。結局、古写真の展示館になったり、ただ、物を置いていたりするだけになってしまいます。その悪い例がグラバー邸です。グラバー邸は重要文化財ですから、釘一本打てない。この建物も同じです。物も動かす事ができない。いちいち文化庁の許可が必要です。ですから、これは非常に大きなジレンマではあるんですが、要するにおっしゃったように、住民の生活環境としてどうそれを見るのか。そして、この建物が非常に重要なもので、大切なもので、ずっとこの街にあったもので、『大切にしたい』という気持ちさえあれば、それを活用する方法というのは自然にでてくると思います。今日歩いた所でも、私はまだ18年しか住んでいませんが、私の記憶にある古い洋館が幾つかなくなっています。今あれば、色々な使い方ができたのではないかと残念に思います。結局、時間の流れでなくなっていったのですが、建物というのは無くなって行くもので、そこに住む人たちの心は保っていききたい。

最後に、長崎にご存知のように『ハウステンボス』という街があります。これは、オランダの街のそっくりを作っているテーマパークです。私の知り合いの画家に梶川先生という人がいらっしゃいます。その方がハウステンボスに行かれて、印象をお聞きしました。非常に印象的だったのが、「絵を描く気持ちには全然ならない」「絵心が全くおこらない」という言葉です。要するに建物は、非常に立派でよく復元というか、本物そっくりに造られていますが、本物ではないのです。そこにカーテンがありますが、そのカーテンの後ろに、ただダンボール箱だけ積んである。そこに本当に人の生活とか、歴史とか、ドラマとか、人が死んだとか、生まれたとか、裏切られたとか、そこに生活の匂いというものがないんですよ。絵を描こうと思わない。この洋館も同じです。やはり、それが生きた建物でない魅力がないし、それを訪れる人も住んでいる人も同じではないかなあと思います。

(意見：新潟市)洋館の話がたくさん聞かせていただき、色々質問したいのですが、新潟で洋館といっても、さっとは思いつきません。一つ『県政記念館』というところが洋館としてあるんですけども、新潟はもともと外国との付き合いというのが、神戸・横浜・長崎に比べてそんなになかった所です。その一つある洋館にさえ、たぶん新潟の人でも一度も行った事がないという人も多いのではないかと思います。私は家が近くなのでしょっちゅうその前を通っていますが、観光客でさえ出入りしているのを見たことがありません。それくらい新潟では洋館というものが注目されていません。私は、昔一度入った事がありますが、何か展示物があっただけだったと記憶しています。ですから、建物自体は、観光施設としては素晴らしい建物だと思うんですけども、新潟もこういう機会にいろんな話を聞いたので、唯一あるその洋館の活用方法とか、あと探せば他にもあるかもしれないし、これからのまちづくりの参考にしたいと思えます。

(意見：神戸市)洋館のお話を聞いて、神戸市は山手の方に洋館はあるんですが、長崎と全然違うところがあります。まず経営形態の違いです。民間使用、いわゆる個人使用なんです。個人使用で、個人が管理して、あくまで観光の目玉として公開している。行政も若干の援助はしているんですけど、あくまでも生活しながら観光客を呼んでいるというのが実態です。今日見せていただいて感じた事は、長崎は、行政が一つずつ改修というか、手を加えて、今おっしゃったように、別に写真を貼らなくても、まだ違った活用法があるのではないかと思います。それとはまた全然違う神戸市の場合の洋館の使い方。あの震災でほとんどの建物が駄目になったんですけど、神戸市と持ち主とで、復元しています。今、私が住んでいます岡本地区は、神戸の一番端なんですが、ある意味で非常に観光化されています。今日来させていただいて一番共感したのは、「まちづくりは特許だよ、心だよ、歴史だよ。歴史も書く歴史ではなく、その人の生きている生き様から、まちづくりは、人の生き様を作っていくんだよ」というのが印象に残りました。神戸の洋館も私達から見たら、観光、観光に見えているんですけど、そうではなくて、今まで生きてきた人たちの歴史が感じられるような、神戸の洋館をそういうふうにご利用していただけたらなあと思えます。地元に戻りまして今

後の私達の小さな町のまちづくりとしてソフト面をつくっていききたいと思います。

(パークガフ二氏) 『観光』というのがご存知のように英語で、『tourism』といいます。『tourism』の『tour』は廻るという意味です。だから、「ぐるぐる廻って自分の家に帰る」。それが本来の意味です。それから日本語では、『光を観る』と書きます。しかも、ただ「見る」ではなくて「観」の字を使っているところが面白いのです。どんな光を見出すのか。これはやっぱり、外で「あー！なるほど」「えー！本当」と、そういうソフト面が重要だと思います。ですから、観光そのものを見直す必要があると思います。一つ感じますのは、『観光産業』というのは、観光資源といわれるものをダメにする傾向があります。つまり、例えば古い街並みがあるとすれば、それがさりげなく、別に特別注目されていなければ、それを取り上げて『発見』のように、「とても面白いなあ」とか感じる。また、例えば酒屋の古い建物があって、そこで一杯飲んだりすることなどから、その町の人と出合って、体験する。そういうことが、本当に光を観るという意味なのではないかと思えます。しかし、『観光地』にすれば、その施設なりをととても綺麗にして、しかも入場料を取って特別な物にしてしまう。そこで、かえって魅力が希薄になってしまいます。『観光産業』そのものをこれから見直す必要があると思います。観光は、長崎にとって、重要なサービス産業で、大きなウエイトを占めています。これを本当に考え直す時期にきていると思います。長崎が何を訪れる人に提供するのかという根本的な事を考えなければなりません。

(質問：神戸市) 私達は神戸市の旧居留地連絡協議会として参加させていただきました。

神戸の場合は、皆さん方の町の一番しんがりとして居留地ができました。そのできた理由が、「日本人と外国人と離してしまおう」という考えのもとでした。神戸の街の原点は、神戸駅の東と西、いわゆる平清盛の兵庫図がある場所です。ここから離れた、今、三宮の市街地のある場所に居留地をつくりました。しかし、恐れていた外国人との衝突「神戸事件」が起りました。居留地には、「日本人と犬・猫・入るべからず」とこういう文句が書いてあったということです。居留内には警察、消防、行政、金融等色々ありますが「居留地会議」という自営の組織で運営していたわけです。日本国からは全く離れて。これは、神戸外国人居留地の特徴のひとつだと思いますが、彼らは居留地返還まで、自治行政権をこうしさせました。

こういうことから考えてお聞きしたいのは、日本人は、居留地の人々と交流ができたかどうかということです。もう一つは、日本の居留地の中で6車線の歩道・ガス灯・下水道が付いた道ができたのは神戸なんです。その6車線の幅の道は、神戸の街では、今でもこの区画が使用されています。これは、大変すごい事だと思います。しかし、こういう事実はあるにしても、神戸の場合は、完全に拒否された訳ですので、長崎市においての外国人と日本人との接点についてお話を伺いたいと思います。

(パークガフ二氏) 私は理想的に物事を考える癖があって、歴史家としては失格だと思いますが、まず、居留地というのはどういう性質のものかと言いますと、先ほど、墓地でお話ししましたが、日本人の火葬に対して、外国人は土葬でないとダメですから、全く別の墓地を作ります。これは、ほんの一つの例で、生活習慣における全てにおいて「合わない、違うんだ」との感情を抱いていました。そして、日本人の警察に自分達の安全を任せるのはとんでもない。とにかく居留地の最初の頃はおっしゃったように拒否する事から始まっています。この「犬と猫と日本人は入るべからず」というのは、上海でも「中国人は入るべからず」とあったといわれていますが、歴史を調べてみますと、そういう事実は、実際は存在していません。一つの言い伝えなのでしょうが、人々の心の中には多かれ少なかれあったと思います。例えば『異人』と呼ばれる人たちが威張って、日本人を6頭身とからかったりする一面もきっとあったろうし、逆に外国人たちのやっている事がさっぱり分からないからと、なかなか日本社会に受け入れようとしなないというものもあったと思います。これは、居留地の歴史で、直視しなければならないことだと思います。しかし、先程紹介しましたように、英字新聞において結構激しいことを論説しあっています。辛辣な言葉で、批判し合っているものもありました。これは、注目すべきことではないかなと思います。壁を一つ越えて、お互いの

言葉を理解して建設的な論議を交わしています。

長崎の場合は（これも半分は長崎に対する私のこだわりですけど）、長崎は国際交流のスタートが違うんです。長崎が開港したのが1570年です。ポルトガル人が長崎に入港して、「素晴らしい港だ。この港を自分達の拠点にしたい」と考えた事から始まりました。その時もうすでに、平戸等にいっていたのですが、戦争に巻き込まれたり、流血事件も起ったり、なかなかうまくいきませんでした。この長崎の領主が大村純忠で、そのポルトガル人たちは彼と交渉して、長崎が開港しました。上海や香港のようにアヘン戦争があったり、横浜でも黒船で、「開国しなかったら爆撃するぞ!」というようなやり方でしたが、長崎では違いました。真摯な約束で、契約まで交わしているんです。16世紀から、国際交流の形が対等の関係でできていました。そのスタートの違いが一つの雰囲気として、常に長崎に残っていたのではないかと思います。もちろん、先ほどの水兵達が殺された事件を始め、いろんな事件もありました。その一面を直視しながらも、交流があったところも是非見たいと思います。対立して、軽蔑したとか、差別したとか、そういう話も掘り起こそうと思います。しかし、実際にそればかりでなく、協力し合おうという姿勢もありました。

(神戸市) それは、わかります。日本の国のボーリング、ゴルフ、あらゆるスポーツ関係は全て、居留地で発祥しています。居留地返還後は、日本人も当然入り込んで、お互いにスポーツを楽しんで、自分達の子供の頃は、小学校で必修科目であった程です。そういうふうにも入り込んでいて、今に至っています。居留地には商家を誘致しました。100坪単位で、126区画を販売しました。住居ではなく、貿易関係で稼いでいたと思います。まあ色々な問題はあったものの、経済的な問題は神戸を支えあってやってきたのだし、それは認めています。ただ、日本人が当時その土地を買えたかどうかもお聞きしたい。

(パークガフ二氏) 居留地は法的には、例えば土地は買えない。その居留地の中には住めない。そういう制約はどうしてもありました。その1899年を過ぎると、混住が認められて外国人も日本の街に住むようになって、日本人も少しずつこの土地を買って、ほとんど境界はなくなって、変わってきた。

ひとつははっきりいえる事は、日本政府にとって、そして多くの日本人にとって、居留地というのは早く無くしたいものだったということです。貿易とか技術とか常に様々な分野で、西洋指導によって、外国人に頼って行く事が嫌でした。できるだけ早く同じレベルに到達したかった。どの分野でも同じです。

先ほど船長をご紹介しましたが、最初、三菱商会には日本人の船長は一人もいませんでした。そしてそれがどんどん変わって行って、フランシスコという人が1921年（大正10年）に退職しましたが、それで最後です。その後はずっと日本人です。それは当然、自分達でできるのですから、自分達でやりたいという思いからきています。ですから、居留地そして外国人がそこで手伝うことも必要なくなりました。これは、悪意でそうなった訳ではなく、自然の出来事です。

どういう過程で、技術が外国人から伝わったのか。この後、外国人たちはどうなったのか。私は、非常に興味を持って調べてみようと思います。

(神戸市) 居留地のいいところを残して次の時代へつないでいかなければならない。古い価値があるものを残しながら、次の時代へつないでいこうという気持ちで頑張っています。

(パークガフ二氏) 環境問題は、これからのまちづくりでも重要視しなければならない問題です。日本の伝統建築も正直言って、とても犠牲になっている気がします。長崎で洋館の保存運動があったりします。しかし、少しずつ、少しずつ古い日本の街並みが消えていきます。私は、文化財というのは、異質の洋館だけではなくて、日本の伝統建築の素晴らしさ、この環境に対する優しさ、その建築学的な素晴らしさ。それにも注目しています。それを含めて、歴史・文化、足元にある光を大切にしていきたいと思っています。

1 タウンウォッチング

- (1) 時間 9:30~11:30
- (2) 場所 新地町(中華街)、館内町(唐人屋敷跡) 一帯
- (3) 参加者 42名
- (4) 概要 今まであまり知られていないもうひとつの長崎を知ってもらうため、新地町・館内町のタウンウォッチングを行った。他都市からの参加13名を含む総勢42名の参加で、午前9時30分に新地湊公園を出発し、唐人屋敷跡を中心に歴史遺構や町並みを観た後、天后堂前で龍踊り体験を行った。



2 トークイン

- (1) 時間 13:00~15:30
- (2) 場所 福建会館天后堂
- (3) 参加者 35名
- (4) 概要



①講演

- ・中国琵琶のミニコンサート 王 維
在日中国人の王維さんによる中国琵琶の演奏が行われた。
- ・「長崎の中に息づく中国について」(中国と長崎の歴史の解説) 陳 東華
唐人屋敷の歴史を中心に中国と長崎の交流の歴史の説明があった。
- ・「館内町の魅力について」(坂の町のライフスタイルの提案) 浦口 醇二
館内町の景観資源や歴史資源を生かしたまちづくりの提案があった。
- ・「市民のまちづくり活動について」(まちづくり協議会の活動紹介) 廣瀬 孝

②会議

各団体の活動が紹介され、館内町の印象を通じてのまちづくりが話し合われた。

a. 各団体の活動紹介

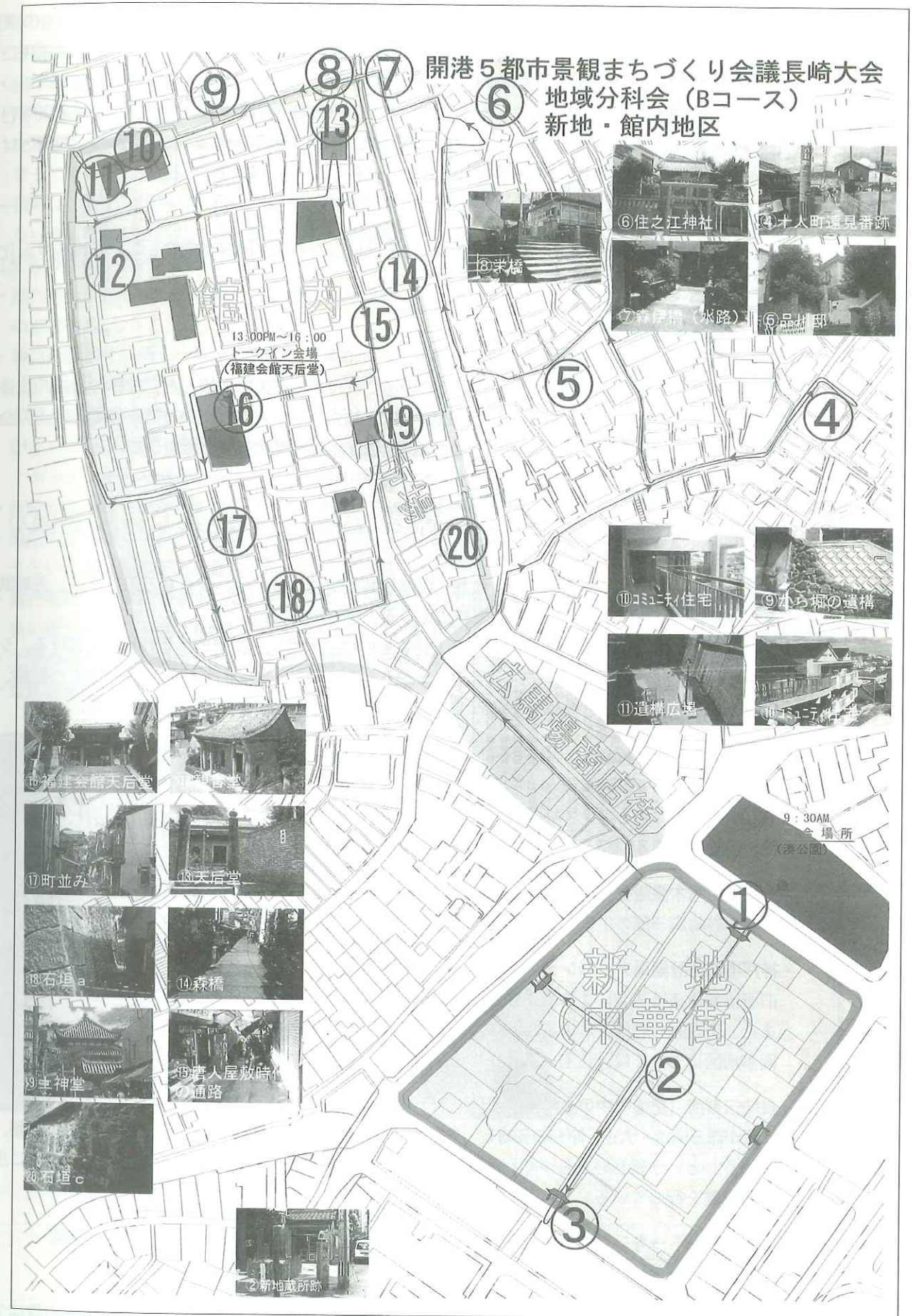
・にいがた花絵プロジェクト

(本プロジェクト)

8年前から新潟駅前ではチューリップの花絵づくりを行っている。球根栽培のため9千万本の花が切られている。花がかわいそうということではじめた。今年で8回目となる。チューリップを通じたコミュニケーションが狙いで、学校単位、地域単位でのひろがりを見せている。将来は、市内全域で、街角どこでも見られるのが、夢である。

(新プロジェクト)

新興住宅街でも花絵を昨年に行い、今年が2年目となった。
5×4.5mの大きさの3つチューリップの花絵を作った。
球根づくりで切ってしまう花を利用し、少し残った茎をボードの穴にさすという方法である。
1週間しかもたないものだが、小学生を中心にその家族、200世帯が参加した。



・新潟市建築指導課

歴史上は、1560年代に、上杉謙信の関連で新潟の地名がはじめて出てくる。1650年代に今の町の骨格ができた。1656年に信濃川の川の変化により、古新潟町から全面移転している。24カ寺が（現在23カ寺）が有名だが、建物そのものは明治以降のものである。長岡藩より召し上げ、1843年に天領となった。当時の奉行が、その後長崎の奉行に就いており、長崎とは縁がある。長崎は苦しい坂の上にすばらしい景色があることが印象的である。

・神戸南京町景観形成協議会

母体は商店街振興組合である。景観からの支援を受けるため、別団体を創設した。電柱スリム化等の事業を行った。今年は景観百選を受けた。館内は、将来いろんな展開できるのではないかと。

・栄町通周辺まちづくり懇談会

金融街であり、震災前はきれいな通りで町の中心だったが、震災で崩壊した。昨年、沿道の企業を含めてセットバックなどを取り決めた市民協定を結んだ。70%以上の賛同を得ている。入会率は5割程度である。今後は地下鉄を機に全員を巻き込むイベント等を企画している。

・新長田駅北地区東部いえなみ委員会

靴の製造工場が多く、80%の全国シェアである。震災で、13万人が9万人（8千人が外国人）に減った。家並み基準、屋根、セットバック、植栽、協調建替え補助（2/3、500万円以下）、表彰制度を計画している。11月19日に表彰式を行う予定である。震災でほとんど全壊したが、建築基準を上回るものに、大型、小型でそれぞれ基準を設ける。シースルーシャッター、コミュニティ道路、8メートル道路を13メートル道路（車道6m）へ拡幅、歩道にせせらぎ設置などの事業を進めているが、商住工の共存がテーマとなっている。

・魚崎郷まちなみ委員会

住宅地であるので、商業地とは違うまちづくりを目指している。また、造り酒屋の町でもあり、それを生かすことも考えている。活動は、自治会の連合組織で行っており、住吉川沿いに清流会館を建設した。

・美しい街岡本協議会（武庫川女子大）

岡本の谷崎潤一郎の生家復元をひとつの柱にしたまちづくりを行っている。

・神戸市都市計画局アーバンデザイン室

旧居留地連絡協議会により歴史性を大事にしたまちづくりを目指している。また、企業版の自治会による防災コミュニティの組織化を図っている。岡本地区については、住宅と商店の共存を図った明るい町並みづくりを目指している。

・長崎伝習所（記憶の中の長崎案内塾）

市民が語る明治・大正・昭和の長崎という講演会を柱として、市民の目から見た都市空間の再構築、「語り」という新しいまちづくり運動により20世紀の長崎の資産をこれからのまちづくりに生かす事業を行っている。

b. フリートーキング（館内町をテーマとした歴史を生かしたまちづくり）の主な意見

（館内町の現況）

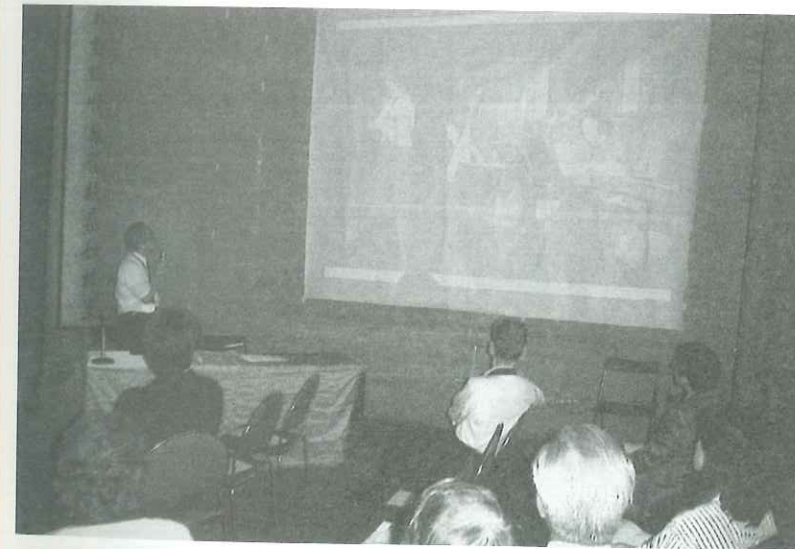
・館内町は歴史的な物など中国の雰囲気があり、華僑の方が多くイメージが強いが、実際数は少ない。また、観光客が来ない。

（町の色について）

- ・中華街とは、どういう物を持ってくればよいのか。
- ・赤や黄色が中国を表しているのか。
- ・南京町は、空襲により中華料理の店が2軒を残して焼失したが、区画整理で門を作った後、新たな店が集まってきた。難しく考えなくても、行政が誘導しなくても、道とハードを変えると、集まってくる。町の色は、赤、青（グリーン）、黄、金を基調としている。
- ・栄町は、原色系を協定で抑えている。中華街は日本人がイメージする中国的なものでよいのではないかと。中国は近代化され、逆に日本人が期待する中国的なものは減ってきている。

（まちづくりについて）

- ・館内町は、独特の廟があるので、他のまねでなく、若い人を入れた独自性のあるもので、よいものができる。
- ・神戸は震災で、新しい町をつくることになった。高齢化、歴史性、はっきりしたコンセプトを持ってないといけない。
- ・若者、外部からの集客、歴史性、何を狙うのか、地区内でもすみわけが必要となる。高齢者は金がないといった個々の状況を考慮して、状況にあった方法の考えることが必要である。コーディネーターからの館内町のまちづくりへの提案についても全部を実現することは無理である。
- ・行政がメニューを決めて事業を行うことで、町が無個性化している。
- ・地区のまちづくりの広がりを見せているのは、例えば、長年続けてきたものを無形文化財にしようという意気込みがある地区である。
- ・館内町は、子供たちが来訪者にあいさつし、子供たちの遊ぶ声が聞こえてくる。都会には無い、良い所である。子供たちが中国を好きになれば、町も変わる。
- ・文学の立ち上がる空間とまちづくりも通じる所がある。
- ・地区計画によって造られた町は、気持ちはいいが、歩いてもう一度戻る気になれない。



1 タウンウォッチング

- (1) 時間 9:30~11:30
 (2) 場所 原爆落下中心地公園(松山町)~浦上天主堂(本尾町)~如己堂・永井隆記念館(上野町)~平和祈念像公園(松山町)~長崎電気ビル(城山町)
 (3) 参加者 42名
 (4) 概要

原爆の壮絶さがどれほどのものだったのかを思い起こしながら、被爆から復興を遂げたまちなみをタウンウォッチングした。他都市からの参加者7名を含む42名で原爆落下中心地公園を出発し、各施設では地元参加者が原爆被爆当時の状況を説明し、最後は長崎電気ビルから復興した現在の平和公園地区の風景を一望した。

- ・原爆落下中心地公園 内田 伯
被爆体験と浦上天主堂の煉瓦の遺構について説明
- ・浦上天主堂 宮崎 勇
被爆体験と浦上天主堂建設の経緯について説明
- ・如己堂・永井隆記念館 木村 慶子
如己堂と永井博士について説明
- ・平和祈念像公園 内田 伯
刑務所跡の原爆遺構と平和公園地区の景観形成について説明
- ・長崎電気ビル 中島 昭雄
平和公園地区の復興と景観について説明

2 パネルディスカッション

- (1) 時間 13:45~16:30
 (2) 場所 三菱重工長崎造船所展示館
 (3) 参加者 50名
 (4) 概要

①三菱重工長崎造船所史料館の見学

パネルディスカッションに先立ち、ハルデス煉瓦をはじめとした長崎溶鉄所からの様々な資料を見学した。

②会議

a. パネリストによる発表

- ・「浦上天主堂の歴史」
平和公園地域まちづくり協議会 内田 伯
キリスト教徒の弾圧と浦上天主堂の仮聖堂建設から被爆・再建までの歴史を説明
- ・「煉瓦建築物の起こり」
(有)長崎テクノサービス 前田 久
長崎製鉄所建設から煉瓦製作までの経緯とハルデスの人間像について説明
- ・「『ハルデス煉瓦』の分析・調査」
三菱重工(株)長崎研究所 長谷崎 和洋
ハルデス煉瓦の科学的分析による材料と製作手法の調査結果を説明
- ・「長崎県の煉瓦建築物」
(株)鉄川工務店 鉄川 進
煉瓦積み建築物の構造の説明と建物保存・修復のための提案
- ・「煉瓦をキーワードにした地域の歴史と文化を生かした個性あるまちづくり」
赤煉瓦ネットワーク 立花 恒平
楽しい仕掛けでまちづくりを行っている都市の紹介

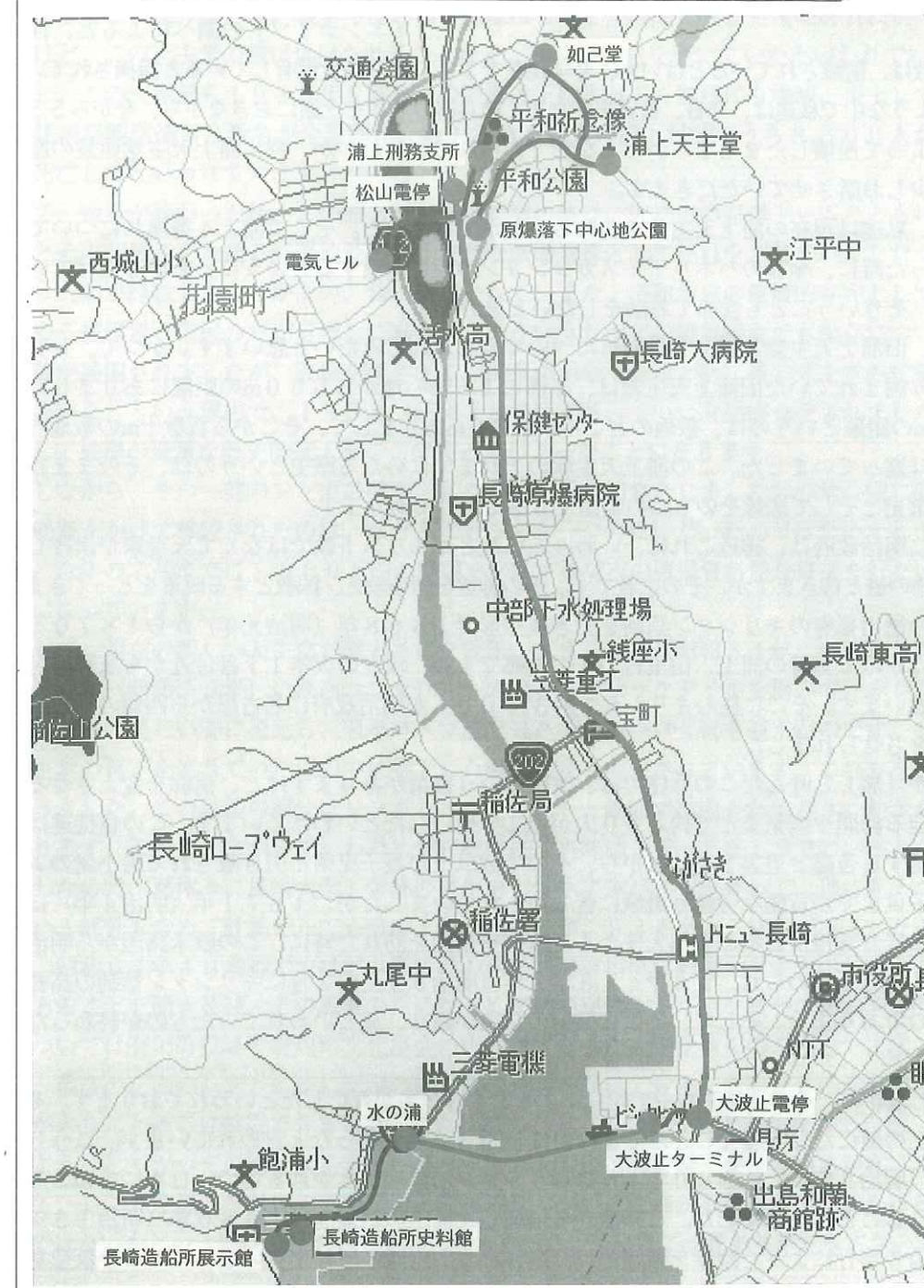
まとめ

各地区の様々な歴史の中で、赤煉瓦の建物が生まれ現在もまだ残っている。そして、長崎では原爆の遺構や教会が残っている。

今回、「赤煉瓦の日本のルーツ」を検証することにより、長崎で作られた「ハルデス煉瓦」の姿が再現された。このオランダから伝わった赤煉瓦は全国各地の広がり建物に使用され、そのまちのシンボルになり大切な景観の一つとしてみんなに愛されている。

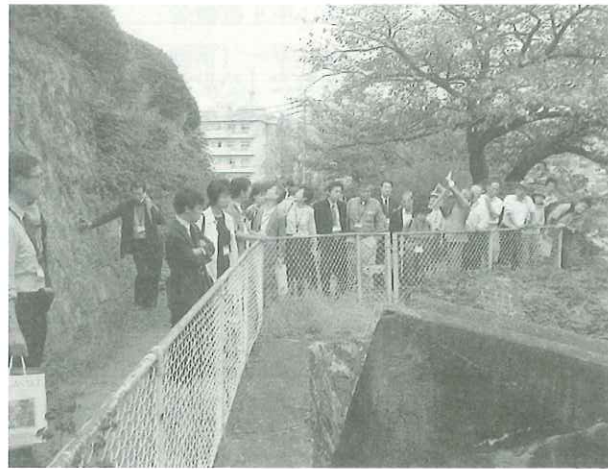
今回の地域分科会Cでは、今後、平和のまち「長崎」でも、親しみとぬくもりがある赤煉瓦の魅力を大切にし、地域のまちづくりに生かしていくことが必要ではないかと提案する。

地域分科会C タウンウォッチングコース



浦上天主堂の歴史

平和公園地域まちづくり協議会 内田 伯氏



まず、冒頭にお話したいことは、今年、ニューヨークの国連本部におけるNPT、これはご存知だと思うんですけど核拡散防止条約ですね。このなかで、究極的な廃絶から核保有国の核廃絶への明確な約束に踏み込んだ最終文書が採択をされたのでありますけれども、核保有国は最後までこれに抵抗したというのが舞台裏の本当の姿であったであろうと思います。

しかしながら、アメリカの月刊科学雑誌「ブレティン・オブ・ジ・アトミック・サイエンティツ」の調べによると、世界の核

弾頭の数は、削減されているとはいえ、今年現在で31,000発を保有していると指摘されています。

このような中で私達は、今日、世界をとりまく核兵器の現状を念頭におきながら、今から55年前、原爆によって崩壊したまちなみがどんな形で作られていったのか、特に浦上天主堂建設の歴史等について少しお話させていただきます。

今日、私達は現在の浦上天主堂を訪れることができました。そこで浦上4番崩れについてのご質問があった時に、今日のパネルディスカッションの時にお話するという事を申し上げていたんですけど、そういうことも含めてお話をしたいと思います。

まず、旧浦上天主堂と浦上5番崩れについて少しふれてみたいと思います。かつて、レンガによって取り囲まれていた旧浦上天主堂は、原爆による爆心地から500mの距離にありました。この500mの距離というのは、敷地のところが500mありまして、そこから百数十mの敷地内に浦上天主堂は建っていました。この浦上天主堂のそれまでにいたる歴史というのは、そのまま長崎のかつての栄光とそして悲惨そのものの物語でもあるわけでありまして。

さきに明治政府は、神道これは、いわゆる仏教とかキリスト教ではなくて天皇家が崇拝している神道、神の道と書きますが、その宗教です。その神道を国の教え、国教とする政策をとってきました。その前の徳川幕府のキリシタン禁制を引き継ぐ形で1868年（明治元年）から1870年（明治3年）にかけて当時の浦上、山里村の4つの郷ですね、現在の坂本1丁目付近から家野町付近にあたるといいます。そこに住むキリシタン約3,400人が明治政府に名古屋から西側の地域に強制的に移住をさせられました。

彼らが「旅」と呼んだこの移住では、改宗という言葉がありますが、信仰を変えさせるという改宗を迫る拷問や病気などで約600人がそこで死亡したといわれています。この信徒達は旅先で言語に絶する苦難と迫害を受けながら、その半数以上が親子兄弟と引き離されて馬小屋のような収容所で子供までが苛酷な労働と飢餓に苦しめられていましたが、1871年（明治4年）に、これも有名な岩倉具視が日本の全権大使として欧州や米国を訪れた時に、この欧米諸国から明治政府の信仰弾圧の非を責められ、ようやく1873年（明治6年）の2月にキリシタン禁制の高札が撤去されたのであります。そして、ここに信仰の自由が甦り、旅といわれていたものが終わったわけがあります。

しかしながら、その「旅」の中で記録によると662名が死亡したといわれております。そして、再び浦上の地にたどり着くことができたのは、1,930名であったといわれています。こうして1873年（明治6年）、約260年ぶりにキリシタンの禁制がとかれる中で、日本にそのころ徴兵令が布かれることとなりました。この旅から帰郷した浦上の信徒達は1880年（明治13年）にかつて長崎の奉行によって踏絵を強制された高谷家の旧庄屋の屋敷を買い取ってここを仮聖堂とした

のであります。

そして1880年（明治21年）、浦上小教区主任司祭として着任した、フランス人のフレノー神父は、老朽化した聖堂に代わりロマネスク風の大聖堂を設計しました。当時の司教や神父さんというのは建設の設計もできる、単なる宗教家ではなかったんですね。宗教を広めるためにそういう人を世界に送ったと思うんですけども、そういう方であるフレノー神父がこのロマネスクの大聖堂を設計したんですね。そして1895年（明治28年）に信徒達の献金活動と労働奉仕によって、レンガを1枚1枚積み上げることによって建設がはじまりました。

そして、1904～1905年（明治37～38年）の日露戦争の影響により一時中断されましたが、1911年（明治44年）同神父は過労で倒れて亡くなってしまいました。後任として赴任されたラゲ神父は正面双塔の整備を見送り、工事を急ぎました。1914年（大正3年）、信徒発見50周年の日に落成式を行い、着工から約20年の歳月を経て、床面積約1,160㎡、坪数にしますと約350坪を誇る東洋一のレンガ造の浦上天主堂が完成したわけでありまして。

また、正面の双塔は、その後、1925年5月に整備を済ませ、フランス製のアンゼラスの鐘が設置されることとなりました。戦争中はお寺の鐘はほとんど全国的に兵器生産の材料に供出されたのですが、この天主堂の鐘は供出されることなく、美しい音色を奏でていたといわれています。

しかし、この大聖堂も1945年8月9日の原爆投下によって、無残にも壊滅、炎上して、西田三郎主任司祭他信徒30数名が全員即死、約12,000人の浦上信徒のうち8,500人が被爆によって死亡したといわれています。

そして、戦争が終わった後、この浦上天主堂の廃墟の跡は、広島市の原爆ドームとともに、原爆の威力とその悲惨さを物語る被爆地長崎の代表的な原爆遺構として注目をされていましたが、核戦争という人類が経験したことがない、負の遺産として、また、平和希求の象徴的存在として永久保存を求める被爆者と市民の声が日増しに高まり、そういうなかで長崎市議会でも保存についての活発な議論が展開されましたが、破壊がすさまじく保存が困難であるとか、浦上天主堂の代替地が見つからないなどという理由で、1958（昭和33年）4月、ついに全面撤去をされました。長崎はこうして被爆の貴重な歴史的証人をここで失ってしまったこととなります。

しかしながら、その一部のレンガの壁が、私たちが今日の朝集合しました爆心地公園に約100万円の経費をかけて移設されたのは、私どもにとっても一つの救いだったのではないのでしょうか。現在は、今年の7月までに1,900万円の費用をかけて長崎市の原爆資料館が修復を行ない、きれいな姿になっています。

こうして、現在の新しい天主堂が撤去された翌年、1959年（昭和34年）に再建され、さらに1980年（昭和55年）に鉄筋コンクリートの建物にブリックタイルを用いて、赤レンガ風に改装し、戦前の美しい姿に復元し、翌年ローマ法王ヨハネ・パウロ2世を迎えたのです。しかし、浦上天主堂の真下を流れていた川の中に落下した鐘楼が現在も残されています。これも今日見ることができました。この鐘楼の部分はレンガとコンクリートと鉄筋で構成されており、約50tの重量があります。このことについて、わたしが在職中に、当時は30～70tまでのいろんな異説がありましたので、夏休みに長崎大学工学部の先生方と学生アルバイトを使って、目に見えない、埋まっている部分も含めて計算をしてもらいましたところが、53tという結果が出ましたので、説きて、昭和64年4月当時ですけど、長崎県の南松浦郡有川町に旧浦上天主堂のレンガを使った教会があることを聞き及び、その調査のため私どもが鯛の浦のカトリック教会に出向きましたが、それについては有川町役場や有川町文化協会の代表者であった大田稔さんのご協力で実現したのですが、教会の正面のレンガの壁に原爆の数千度の熱線を受けて変色したレンガの痕跡が残っていることがきちんとそこに確認できました。これは私にとってもひとつの大きな驚きでした。

このようにしてかつての浦上天主堂を中心とするレンガの遺構が無くなっている現在、次の問題点として、レンガを通して私達の平和問題を考えるきっかけをこれからも作っていかねばならないのではないかという思いで話をさせていただきました。今日のご清聴ありがとうございました。

煉瓦建築物の起こり

(有)長崎テクノサービス 前田 久 氏

昨日からハルデスというお名前、今日も史料館のほうで写真を見ていただくことができたと思うんですが、三菱重工長崎造船所・研究所は、幕府の長崎製鉄所がその起源になっております。今回、煉瓦というキーワードでこの長崎製鉄所を幕末に建設指導したハルデスにつきまして、その伝承された技術の一つに実は煉瓦があります。それが日本で初めて煉瓦の技術というのが伝えられ、それが実用化されたという観点から、長崎製鉄所と煉瓦を通してお話をさせていただきたいと思っております。

製鉄所を建設するということになりますと、当然のことながらいろんな技術が必要になってくわけですが、当時、日本にはまだ、近代機械技術というものはほとんど伝承されておられません。オランダの海軍機関将校であるハルデスが、日本人に対していろんな技術を指導し、この製鉄所を完成させたということに関して、いろんな研究があるんですけども、いくつかその中から行った技術をまとめて概観いたしますと、ここにかいておりますように、機械技術、土木、工業、それから幕府の長崎海軍伝習所における蒸気機関の教育、それから全国各藩のいろんな技術に対するアドバイザーも行っております。こういったいろんな伝承された技術の中の土木、建築、そこには煉瓦技術も含まれていたのです。

実際の作業におきまして、安政4年(1857年)の8月にオランダから長崎のほうに着任しております。同年の10月に起工したわけですけども、10月に起工したということは、当然、まず基礎工事、土木工事から始まったわけですけども、土木工事が完工しますと当然のことながら建物の建設にかかります。この際に煉瓦積みを初めて行ったわけですけども、そのために大工さんや加治屋さんといったいろんな技術者を幕命で募ったわけですけども、実際には煉瓦職人さんというのは現実にはいませんでした。国家プロジェクトですので、かなり周辺から技術者を募ったということですけども、煉瓦を焼く人あるいは積む人という技術者は得られなかったということで、現実には長崎にあるいはその周辺に在住していた瓦職人さんを募りまして、その方々に煉瓦の技術指導を行い、初めて煉瓦を作りました。

それが安政5年(1858年)の1月から煉瓦の焼成を開始したという記録がございますが、これは本格稼動が1月です。ということはそれ以前に、起工を行った10月から材料としての土、それから実際に焼く技術、そういったものを全て指導し、現実には試作品というのを1857年に何度も何度も失敗を繰り返しながら行われていたであろうということが十分想像できると思っております。

数も尋常な数ではありません。何万枚という数になりますので一箇所、二箇所の窯場ではとても焼ききれない。ということは当然のことながら長崎製鉄所周辺の長崎市内のあちこちで同時並行的に土の採取、それから焼きということを行っていったものと思われまます。安政5年の6月には、どんどんどんどん出来上がった煉瓦を積み上げる組積みを開始したという記録が残っております。

実際こういう形で、煉瓦が出来上がったわけですが、実は意外なことに、オランダからきた技術者の中に煉瓦専門の技術者というのは、記録に残っておりません。ほとんどが機械屋さんとかそれに関連する技術を持った方ばかりで実際に煉瓦の専門家というのはいませんでした。

資料の3番に書いてございますけれども、わずか半年の間で実際に煉瓦の組積みを始めたというところに、これは欧米から長崎にきたいろいろな人間の紀行文を見ますと、当初の頃、いろんな技術の伝承に非常に苦労したようです。ところが、それが1年後には欧米の旅行者の紀行文の中に日本の技術者の優秀性にびっくりしたというような記録がたくさん残っています。ということは、最初に何ら技術を持たない方々が瞬く間に技術を習得したということです。これはもちろんハルデスの技術を指導するという能力、それから忍耐、情熱、そういったものが背景にあったということがうかがえると思っております。

それで、ハルデスの人間像という1項目を設けましたのは、少し古いお話なりですけども、シーボルト、これは全国各地に皆さんご存知だと思います。それからポンペ、これも医学の世界では知らない方はいらっしゃるという方ですけども、ハルデスという名前は、ご存知の方はあまり多くないのではないかと思います、今回煉瓦の技術を日本に最初に伝えたというハルデスを少し検証する

必要があろうということで、ハルデスが行ったいろんな記録の中から、これはハルデス自身が自分で自叙伝を書いたり、紀行文を書いたりということは全くしておりません。ですから、ハルデスの周辺の方々がハルデスの卓越した人間像を記録として残しておられる部分からピックアップした項目です。

非常に忍耐強いということ、情熱があったということ、沈着冷静であったということ、そういう記録ばかりです。長所も誉めるけれども短所も厳しく指摘するというのが欧米人特有の表現なんですけども、少なくとも私が2~30件あつた文献の中には、ハルデスを非難する言葉というのは全くありませんでした。ということは非常に人格的にも優れた方であったのではないかとということが考えられます。

こうしたハルデスが長崎製鉄所建設にあたって日本に伝承してくれた煉瓦、この製鉄所で使われたものはハルデス煉瓦といい方をされますけども、その技術を学んだ長崎の技術者が、その後、これはコンニャク煉瓦という表現をされますけども、コンニャクの形のような煉瓦を実際に長崎市にあるいは九州一円に伝承していったということにおいてハルデスの偉業の中の一端として、このハルデス煉瓦が今日的に果たす役割というのがあるのではないかとことを考え、ハルデスが行ってくれた日本に対するいろんな貢献の中の一端としてハルデス煉瓦を取り上げたわけでございます。以上です。

「ハルデス煉瓦」の分析・調査 三菱重工(株)長崎研究所 長谷崎 和洋氏

今日は、どうしてハルデス煉瓦はこういう形をしたのかということ、研究所で科学的に分析・調査した結果について述べさせていただきます。

ハルデス煉瓦は、現在、市販されている煉瓦と比べて、非常に薄くなっています。普通ですと煉瓦というのは厚ければ積む数が少なくすみ、効率がよくなりますので、その方がいいんです。それなのに何で薄くしたのかというのが非常に疑問でしたので、そういう観点から調査をした結果を述べさせていただきます。

史料館で、ご覧になったと思いますが、ハルデス煉瓦は210×115×40mm位の薄い煉瓦です。非常に仕上げが丁寧といっていますけども、今の工業技術からしますと非常に粗くて、横を眺めてみると穴や亀裂がたくさんあります。これは手作りじゃないとなかなか作れないものだと思います。ここに煉瓦の大きさを書いておりますけれども、現在の煉瓦の規格というのは210×100×60mmです。ところがハルデス煉瓦にしますと厚みが薄くなっておりますので大量に作る必要があります。それで枚数がかさみますので、煉瓦積み非常に時間がかかる。でも、ハルデスが作った頃には、これしか作ることができなかった。それはどうしてかということを考えてみることにします。

エックス線解析で調べた結果によると、主成分としては、シリカとアルミナの化合物で、これはどこにでもある材料です。別に長崎にしかないというわけではなくて、どこでも、そこらへんの土を掘れば出てくるようなものです。ですから、これからすると、ハルデス煉瓦というのは、わざわざイギリスから取ってきたのではなく、長崎のある地域の伝承では、香焼島から取ったと言われていますが、多分、その通りではないかと考えられます。その当時を考えると、輸送手段として、車はありませんので、海上輸送の方が非常に効率よく大量に物を送れます。そう考えると、香焼島という話しは外れてないのではないかと考えております。

【スライド：ハルデス煉瓦の光学顕微鏡写真】

これが、ハルデス煉瓦の壊れた部分でサンプルを採取して光学顕微鏡で眺めた写真です。特徴的な部分が何点ありました。まず、結構粒子が角張っています。高い温度で焼くと、粒子は解けますので丸くなる傾向にありますが、このハルデス煉瓦の内部を見ると粒子が角張っていることから、焼くときの温度が通常の温度より非常に低かったということの意味しています。その当時の焼く釜の技術、温度というものが非常に低かったんだということを推測できます。

もう1点ですが、真中の部分なんですけども、非常に割れが大きくなっています。縦横無尽に割れが入っています。これは何を意味しているかという、これは乾燥時に発生するもので、水分量が非常に多かったということです。どういうイメージを持てばいいかという、ろくろで茶碗なりを作ったときに水が多すぎると乾燥する時に、ひびがパーッと入りますよね。土とかも水がたくさん入っていて、ジャブジャブ状態から乾燥すると亀甲割れみたいなものができます。そういうふうな障害がハルデス煉瓦に見うけられます。

以上のことをまとめますと、構成粒子が丸みを帯びていないことから低温で焼かれ、乾燥割れによると考えられる割れがたくさんあることから水分量が多かったと考えられます。ですから、現状の厚い煉瓦を作ろうとしたときには、ほとんどみんな焼く前に割れてしまう。そこで、技術者としてハルデスはどうか対策を打ったかというのが、このように、肉厚を薄くし、乾燥割れの防止と乾燥時間の圧縮を図ったということになります。ここで、ちょっとした計算式を作りますと、現在の煉瓦は乾かすための乾燥時間が大体一週間ぐらいかかっているんですけど、もし、ハルデス煉瓦の薄さにしますと、約半分の三日間で乾燥できるという結果がでました。

そういうことから、ハルデスは多分水が多かったんで、それをなんとかしないといけない、ところが、どっかで妥協しないといけないということで、厚みを薄くして、枚数を稼ぐということで、対策を打ったのだと考えます。そういうことからすると、この材料から見ても、後の煉瓦と比べると、非常に作りとしては甘いという感じはするんですけども、逆にいえば、だからこそ、これが日本で最初に量産化された国産初の煉瓦であるということ裏付けているのではないかという風に考えます。以上です。

長崎県の煉瓦建築物

(株)鉄川工務店 鉄川 進 氏

今日は、朝からこのイベントに参加させていただいて、一番感動致しましたのは、この資料館を先ほど見学させて頂いたんですが、いろいろと疑問がありまして、かなり細かくいろんなところをみる事ができて、非常に、今、幸せな気分浸っております。あそこは一体どういう風になっているのかと、ずっと色々考えていた部分もあったものですから。今回は、非常にいい勉強をさせてもらったなと感激しております。

今日、なんで、私がここで、こういうことをしゃべっているかといいますと、煉瓦を生かしたまちづくりというテーマでございしますが、たまたま私の家は代々建築をやっておりまして、私の祖父にあたります、先々代の鉄川義雄というのがおりまして、彼が教会を30棟ほど作りました。そのなかで、いくつか煉瓦を使った教会がございまして、そういったご縁がありましたので、今日呼んでもらえたのかなと思っております。

今ご覧になられたような煉瓦を使った建築物というのは、今のところは、いろいろ基準・規制等がございまして、作れませんので、私自身がそういった棟を新しく作るという経験はございません。

たまたま、今月、私の祖父が設計をした教会を建造するんですが、これはまあ、鉄骨を使用するので、ちょこちょことした煉瓦色のタイルは使うのですが、まあ、そういった経験がないもので、昔のものをしながら感じたことを少しお話しさせていただきたいというふうに思います。

先ほど30棟ほどと申し上げました、私の祖父が手がけた教会というのは、主に、長崎の西の方でございしますが、五島列島にあります。もともと五島列島というのは、先ほどお話しにもございましたけども、隠れキリシタンが住んでいた場所・島でございまして、禁教令が解けてからすぐに、普通の住宅を教会として使っておりましたけれども、大体明治の後期ぐらいから、続々と教会としての建物を作るようになりました。ちょうど私の祖父が建築に志した時期がその時期とぶつかっております、そういったご縁もありまして、そういう建築をたずさわることになったのではないかと思っております。

昔は建築をする中心的な人物というのは大工さんでございまして、今でいう大工と当時の大工と

は全く違っております。今のように建設会社が、全部の建物を一括して、責任を持って作るという制度になりましたのは、明治になってからでございます。特に地方では、建てたい人が直接、材料を買い、人を雇い、専門の技術者を雇って、作っていたみたいでございまして、まさに先に述べた教会建築というのは、そういった形で作られてきています。先ほど、内田会長からご説明がありましたけれども、何十年もかかったというのは、まさにその辺でございまして、逆に、例えば、一括して当初から計画を立てて作る形であれば、おそらくあれだけの教会はできない。少しお金が貯まれば、それで材料を買って、人に来てもらって、それを建てていく。そういう風な作り方をしていたからできた建築であるということもいえるかと思えます。先ほど30棟ぐらいと申し上げましたのは、まさにそれでございます、どこまでそのものに対して縁をもったかというのが、今のようにはっきりしていない。そういうふうな時代でございます。

そういうなかで、長崎市の方ではあまり数がないんですが、長崎県の各地で、教会建築をやっているわけですけど、そのなかで非常に大きな影響を与えたのは、やはり、先ほどご説明を頂きましたけれども、宣教師の方々でございまして、当然に、当時は非常に未開の国でありました日本に布教にいかれた方々は建築を含め、医学も含め、農業とかそういった専門教育をある程度受けられて、日本に来られて、教会を作るご指導をされたということになります。そういった方に影響を受けながら、長崎での、いわゆる辺境での教会建築ができていくというふうな歴史でございます。実は、先ほど感激したと申し上げました、史料館ですね、我々、建築を今やっている人間から見ても、この通りだなというふうな造り方をしていますが、宣教師の方の教えを受けながらというのはなかなかそう上手くいっていないようで、そのへんが実に面白いところです。おそらくは、絵を見て、こういったふうな方法でやれば、こんなものが建つのではないかと、そういう風な形から入っているのではないかと風な建築ばかりでございます。例えば、特徴的な屋根で、天井がですね、リブヴォールト天井、こもり天井というのがあるのですが、あれは元々、煉瓦造りとか石造りというのはドームや屋根まで、石や煉瓦で作る場合もかなり多くございますので、その場合は補強のための木骨を入れないといけないということがございます。その結果、アーチの形がああいった形になるんですが、おそらくその写真を見て、同じようなものを作るということですね、日本の在来の工法であります土壁の作り方でありまして、竹を編みまして、土を塗って、漆喰を塗るということで、非常に似たようなものを作っております。そういう形、まさに見よう見まねで、絵を見ながら作っていった。例えば、長崎市でも古い洋館で、ご存知のように、西洋の作り方というのは比較的壁が基本になって作っていく建物が多いんですけども、日本の場合は、それに対して、柱で作っていくんですね。それから、また違うんですけども、日本の作り方で建てた建物を洋館に近いものになるように、壁を塗り重ねていったというものもたくさんございまして、当時の日本の大工さんのところがよく分かるというものが長崎にもたくさん残っています。

そういったものを見ながら、私どもは、じゃあこれから何をするかということになるんですが、一つは保存・修復を如何にするかということでございます。現代ではもう作れない、今の法律では許されない構造もたくさんあるんですけども、しかし、それを守っていかなければいけないということがございます。先ほど申し上げましたけれども、保存・修復にも若干関わってきた事がございまして、20年ほど前に、五島で2つほどの教会の大修復をさせていただきました。その中で、非常に面白かったのが、先ほど、長崎の煉瓦を使った建築物という風に申し上げましたが、実は、煉瓦造の建築ではありません。要するに木造の建物に、煉瓦の壁をつけているという作り方でありまして。いまでも鉄骨の建物の外側に、木の壁を付けてそれを木造といわないみたいに、本来、主要構造からいうと木造の建物ということになります。木造というのは、メンテさえきちんとしていると何百年でも持つということがございまして、そういう部分をきちんとチェックさえかければ、安心に持ち越すことができるものです。さきほど史料館を見せていただきまして、あれはですね、今で言うと、鋼構造、柱までの軸力は、煉瓦の壁でもたせて、小屋風に重く作っていますが、ちょっとそのあたりの屋根と壁の取りあいのところがかなり痛んでおりまして、あれを修理するならどうするかということ、見ながらいろいろ考えてたんですけど、そういう点では、先ほどいった木

造煉瓦屋根というのは非常に補修がしやすいということがございます。

ただ、これに対しましても、今後一番大きな問題でございます台風とか地震にどう対応させるかというのが、大変大きな問題でございます。今日も話題にありました鳥取の沖で地震がございましたが、神戸の時は居留地の建物がかかり壊滅的なダメージを受けてございまして、基本的に煉瓦にしても、石にしても、水平力といいますけれども、横からの力に非常に弱いので、これをどういう風に補修していくかということが、非常にこれからの問題ではないかという風に思っております。これについては、一部、免震構造を取り入れたりと、いろいろな方策を考えておりますけれども、もともと、どうしても日本の場合は純粋な石造り・純粋な煉瓦造りの建物というのはございませんので、どうしても木造と煉瓦造りというのは著しく違いますから、それをどうするかというのが、非常にこれからの大きな課題ではないかと思っております。

ちなみに今日見て参りました浦上天堂のドームですけども、あれはドームの部分だけしか下におちていない、本当に煉瓦の部分スパッと切れて落ちていましたよね。あれは結局、積み上げた構造というのが横からの力に非常に弱いというのを、象徴的に表しているんじゃないかというふうに思います。例えば、これは鉄骨・鉄筋コンクリートでございますが、広島産業博物館、原爆ドーム、あれはご存知のように構造はそのまま残っておりまして、やはり、そういったものに対する感覚があったかどうかという風なことが大きな問題ではないかという風に思っております。

それともう一つ、あれを残すためにはもう一つ大きな問題があります。それは、ひとつは、それを残すことができる職人さんを確保することだと思っております。実は、その二つの教会を修復したときに、目地のところをですね、あれは昔で言う甘皮という、漆喰に土を混ぜたようなそういった材料でずっと詰めていくんですけども、その職人さんがなかなか厳しい、また材料もなかなかきびしい。似たようなものでいろいろやってみたんですけども、結果的にかなり流れているものもございまして、まあ、こちらはかなり保存を今からしていけないところがあるかとは思いますが、まさにそのあたり、出島の復元建物でそれができる職人さんが皆ご高齢でという話しをこの間ちょっと伺ったんですけども、これも全く同じところで、まちなみのために煉瓦造をきちんと保存していくのであれば、それを保存していく技術の伝承というのも真剣に考えていかなければならないんじゃないかなと思っております。今日は参加をさせていただきました。ありがとうございました。

煉瓦をキーワードにした歴史と文化を生かしたまちづくり

赤レンガネットワーク 立花 恒平氏

私、最近、講談というのを学び始めました。住宅都市整備公団ではありません。パソコンやワープロで「こうだん」と打つと必ずそっちの方が出てきちゃうんですが。

皆さん、日本の伝統文化を忘れてはいけません。講談というのは、講義の講ですね。だからといって眠くなってはいけないので、今日は、眠気覚ましに講談で使う紙扇というのを持ってきました。

私はですね、赤レンガネットワークの事務局長の立花恒平でございますが、一応公務員でございます。横浜市役所の職員で、赤レンガネットワークの事務局長の立花恒平というのは、さぞかし真面目な、きちんとした男であろうという風にみなさん思うんで、こういう立派な研究者のお集まりになった会合にも呼んでいただける。

そこは、一応そういうふうにしておきましてですね、実は来たらどういうことをするかという、素人講談3年、赤煉瓦亭琴魚という本性を現します。今日は赤煉瓦亭琴魚で勤めさせていただきたいと思っております。コーディネーターの方にも、事務局の方にも、内密にしておりましたので、失礼は重々承知でございますが、赤レンガネットワークのリアルな声が皆さんに届くよう、公務員生命を賭してやらなければなりませんので、こういう風にさせていただきます。

喜多さんもメンバーなんですけど、喜多さんはごく真面目な方でございまして、念のために申し上げます。先程、「あなたと同じといわれて困るわ。」といわれましたので、一応そういう風

に申し上げておきます。

私達は、赤レンガネットワークの「舞鶴・横浜物語」という本を作りましたが、今日、7冊持って来ております。1,800円ですので、消費税負けますから、1,800円ですので、サイン付きですね、これをどなたかお求めになって頂きたいと思っております。横浜まで持って帰るのも大変ですし、持って帰って事務局に戻そうものならですね、お前何で売ってこなかったということで、また、事務局内で問題になりますので、是非よろしくお願ひしたいと思っております。

それと、事務局の計画に大変に感謝しなければいけないことが一つあります。というのは、煉瓦というキーワードで私をお呼びいただいたのですが、実はもう一つ「煉瓦で語る平和のまちづくり」というところですね、私に大変関係深いことでして、これは私がどうこうしたという話ではございませんで、私の父親が大変に変わり者でございまして、私は同じ原爆の都市、広島県広島市の生まれでございます。広島市で生まれた可愛らしい男の子だったんですけど、その男の子にですね、恒久平和、フォーエバーピースでございますが、恒久平和から「恒平」という名前を取ったんですね。永久平和から名前を取って「永平」になっちゃうとバックingham宮殿でこうやって歩いている人みたいですよ。恒平とつけてもらって非常にありがたいと思っております。

前置きが長かったですけど、そろそろ本題に入りたいと思っております。

では、スライドを始めたいと思っております。歌が入ったりしますが、全然気にしないようにしてください。歌謡講談というのを最近新規開発をしておりますので、開発中のものをですね、皆さんに見て頂きたいと思っております。

【スライド】一枚目、ところは神奈川県横浜市でございます。明治の建築界の大立者、妻木頼黄という、幕末に旗本として生まれた人がおりましたが、この方の設計になる新港埠頭の赤煉瓦倉庫でございます。

【スライド】ここにある時、この男がやって参ります。あまり顔は出ない方がよろしいでしょうが、舞鶴市役所の馬場さんという方でございます。この馬場さんがですね、まちづくりの研究会を作ることになったんですが、「十年続いている横浜にお教えを請いたい」、「よーし、教えてやろうじゃないか」ということで、次でございます。

【スライド】さっきの赤煉瓦倉庫に連れて行きました。長さ150メートル、幅22メートル、高さ28メートルある、ちょっと間違ったかな？まあ、そのぐらいのものです。そういう煉瓦倉庫の前に立って、「どうぞすごいだらう。」といったらですね、馬場さんがいうにはですね、「立花さん、こんなものなんぼでもあります。」うちは二棟しかないんですよ。舞鶴はやたらにあるという訳でございます。

【スライド】こちらのライバル会社かもしれないんですけど、名前言っちゃいけないんですけど、日立造船というのがありますね。

【スライド】彼らはですね、自分のまちの赤煉瓦というのが、今まで汚れていて、タイルも傷んで、なんか暗い歴史をしょっていやなもんだな、早く壊して新しいもん建てたいと思っていたものですから、横浜では大事にしている、活用する、リフォームもする、ライトアップもする、という風なことを横浜に来て初めて聞いて、これは自分達のまちにもたくさんあるから、たくさんあるものってまちの特徴で、個性じゃないかと思出したんですね。とにかく土、日は全部返上いたしまして、舞鶴のまちの中を探し回しまして、70箇所になんなんとする赤煉瓦を探し出したのであります。それで、京都新聞がそれを取り上げてまして、PRを致しましたら、これは、東舞鶴駅という駅のところにある、中学生が描いた観光ポスターなんですけれども、その中に、近畿100景第一位、五老ヶ岳とならんでですね、歴史を見て来た赤煉瓦倉庫と、今まで誰も見なかったものが、3ヶ月彼らが活動しただけで出てきたのでございます。

それで、彼らはどうしたかという、舞鶴建築探偵団という8人の組織をつくったんです。市役所の職員で。市役所の職員のはみだしで。それで、東と西のまちがありますが、たまたまですけども、東のまちのお菓子屋の息子が一人居たんです。特に、次男でございましたから、お兄ちゃんが店を継いでた。お兄ちゃんに頼んで、「お兄ちゃん、これからは引き揚げのまちやないで。」ト



母はきまし〜た〜♪あれじゃないということで、
♪相合傘で三条通り〜 あなたにすがって歩
きます〜 ライトアップのレンガの壁に♪こ
れは私の作詞作曲でございますが、こうい
うことで、赤煉瓦が名物になるぞということで「お
兄ちゃん、お兄ちゃん、お菓子なんか作って」
とお菓子屋のお兄ちゃんに頼んだんです。そ
れでこんなお菓子ができました。

【スライド】次いきますとですね、赤煉瓦が流
行ってきたもんですから、真似しちゃって、

似たようなお菓子がいっぱい出ています。

【スライド】そうやって運動を広げていくうちに、市長も頑張りました、とうとう赤煉瓦がまちづ
くりの核なら、これからは赤煉瓦のまちづくりを核にしていこうと、今まで壊そうと思っていたの
に市長が宣言したんですね。それでできたのが赤煉瓦博物館でございます。世界初でございます。
是非、舞鶴へいらした方は、これをご覧になってください。これは、たまたま私達のところに来て、
私が赤煉瓦に案内して、ああ、これはまちの個性だと気がついたからこうなったんですね。

【スライド】なにせ1時間半ぐらい普通はやるやつをですね、10分か12分でやるっていうんで
大変ですね。これはですね、喜田さんもよく知ってるでしょ。江別市役所にある江別市の産品、こ
こに煉瓦をモデルにした商品がいっぱい並んでいます。

【スライド】煉瓦を積んだ江別市の小学校、本当に積んであるんです。

【スライド】市営住宅もあるんですね。

【スライド】セラミックアートセンター。

【スライド】もう一つ煉瓦の話で面白い話がございます。♪会津磐梯さんは〜宝の山よ〜と
いうあのちょっと隣の村ですが、福島県は喜多方市、この真ん中におおばさんは田中さんとお
っしゃって、ある時、私のところに電話をよこしました。「あ、喜多方の〜、だなかですけど〜」
とこういうふうに乗るんですよ。「あだしねえ、赤レンガネットワークに入りたいんです。」「あっ、
どうぞ。どういった活動やってらっしゃいます?」「喜多方女性フォーラムと言ってね、こないだ、
東京のなんとかっていうところに行ってね、喜多方ラーメン売りました。」とおっしゃるんですよ。
なんで喜多方ラーメン売ってる団体が赤煉瓦ネットワークに入らないといけなないだと思いましたが、
女性ばかりの団体と聞いたもんですから、嬉しいなと思って、「どうぞ入って下さい。」で、10
分後でございます。このおばあちゃんから、また、電話が掛かってきます。「あのねえ、私、さっき、
赤レンガネットワークに入るっていのね、理由を言うのを忘れました。私の父はね、田中又一
といって、明治の時代に東京の清水組に入って、煉瓦を数年間に渡って学んで、喜多方のトンネル
と煉瓦の蔵みーんな作りました。」えーっ!っていう人が現れたわけですね。この写真、見えなく
て恐縮なんですけど、田中又一記念煉瓦館というのを自分の敷地に自力で作っちゃたんですよ。エ
ンタシスの柱かなんかあって、煉瓦タイルが貼ってあるものすごい建物なんですけど、ちょっと念の
ために聞いてみたんです。「この記念館の設計はだれがやったんです?」「うん、うちの娘が一級
建築士なんですけど、それが設計しました〜。」親子3代の煉瓦記念館が喜多方にあります。

【スライド】これほんと暗くて申し訳ないんですが、真ん中にいらっしゃるの、もう種あかしを
しちゃうと、宇宙飛行士の毛利衛さんです。赤レンガネットワークは、毛利さんのところにも取材
に行ってるんです。なぜか?この庭には煉瓦が敷き詰めてあるの。奥さんの知り合いが、江別に居
てね、その人に聞いたらですね、「毛利さんち、煉瓦が敷き詰めてあるって。」「よーし、そい
じゃあ、聞きに行こう。」っていうんで行ったんです。奥さんもいい人でね、「取材って宇宙研でや
りますか?自宅ですか?」っていうんで「もちろん自宅です」って言って、毛利さんちで最初、煉
瓦を皆で見てたら、奥さんがここは煉瓦、こっちは砂でねって説明してくれたんですよ。そしたら、
毛利さん「今日は、煉瓦なんか1時間しか時間がないんだよ。研究所の時間がない。」とかいって

るんですよ。で、しょうがないから、記念写真を撮りましょうということで、庭で写真を撮りま
して、毛利さんに色紙を頂きました。

【スライド】それで、私達お願い致しまして、「毛利さん、プライベートな話して、赤レンガネッ
トワークのアドバイザーになって頂けませんか?」「うん」っていったからアドバイザーです。

【スライド】これはですね、愛知県の碧南市でございます。カブトビールという工場が昔ありまして、
これが取り壊されるという噂があったものですから、研究者の方が調べてきたんです。それで結局、
本を作ったんですが、その研究者がまた意地悪でね、私達にいうんです。「この報告書はね、この
建物が壊されたら、最後の研究報告書だ。赤レンガネットワークとしては、即刻壊されていいの?」
っていうんです。嫌な奴がいますね。仕方がないから、私達、全国に回議を回しまして、「愛知県
に知り合いはいないか。」っていったらですね、某、某としか言えないな、ある人が「弟がおります。」
というものですから、バーッと行ってみたら、市民の人で残したい人がいたり、文化財審議員が残
したいって言うんで、じゃあ、これを残そうということで頑張ろうというんで、いろいろ協議を重ねて、
公開のシンポジウムをやったりなんかして、とうとうこの建物は残りました。

【スライド】これがですね、愛知県の煉瓦を作っている窯業組合の青年部会が作った煉瓦のテレホ
ンボックス。こういう新しいものをですね、作っていこうという風に頑張っている人もいます。

【スライド】これはですね、富山県入善町なんですが、水力発電所の跡を美術館にしております。
町長さんが洒落て、アートスペースという命名もしたんです。でもね、地元の人はその呼ばないん
ですね。なんというと思います?発電所美術館というんです。そのほうがずっと似合っていると思
いませんか。それで帰りに振り返って見たらね、もう発電所美術館という看板が架かっているん
ですよ。

【スライド】これはですね、佐世保市でございます。佐世保の米軍基地の中でございまして、佐世
保の都市環境デザイン研究会がですね、この佐世保市を普及しようということで頑張っています。

【スライド】これはですね、宮崎県は日南市油津でございます。銅板葺の和風の3階建て、建築士
会が聞いたら泣いて喜ぶといった建物のすぐ脇に赤煉瓦の倉庫がございます。

【スライド】合名会社という看板が架かっている。この建物が競売されそうになったらですね、市
民31人が立ち上がって、会社を作ったんです。合名会社というのは、資本金は要らないし、運良
くこの31人がですね7年間に渡って、毎月15,000円ずつ払って行って、それを担保に銀行か
ら金借りて買ったんです。利子も返した。活用はこれから考えるということでやっております。こ
れは大変なものですね、市民がとうとう買い取っちゃった。総額2,500万円ぐらいする買い物です。
立派なものだと思います。こういう有り方もこれからはやっていかなければいけないと思います。

【スライド】これ見てすぐわかった人がいるんですけど、長崎のどこだと思います?石橋という電
車の停留所のちょっと上の東山手洋館下のところにあるタバコ屋さんでございます。ここが、一箇
所で3つも煉瓦の積み方が見れます。ちょっと歩けばですけども、右の壁がイギリス積み、左のタ
バコ屋さんのちょっと向こう側の壁がフランス積み、奥がアメリカ積みという積み方になっています。

【スライド】もうお馴染みですよ。これはその女性の方にお聞きしたいと思うんですけど、これ
は何積みでしょうか?

(会場:「イギリス。」)

イギリス積み、合ってますね。「トントントントン」、短てがずっと並ぶ「ツーツーツー」、
いいですか、これがイギリス積みの煉瓦の覚え方。

【スライド】フランス積みは、長て、短て、長て、短て、「ツートンツートンツー」でもいいです
けどね。フランス積みがだいたい日本に入ってきたのは早いんですから、明治20年代ぐらいまでと
いわれていますけれども、とにかくフランス積みを見たら、古いと思ってください。

イギリス積みは明治30年代以降から非常に盛んになって参りまして、ほとんどイギリス積みで
ございます。もし、間違いがありましたら、喜多さんに訂正していただくと、これは本当に私はし
ゃべりやすく、大変よろしいんですが、そういうことでございます。まちづくりはひと
づくりというテーマでもう一つちょっとした小話があるんですがございますが、それは時間があまし

たら後ほどお伝えするというので、規定の時間よりだいぶオーバーいたしましたので、これにて一件落着。失礼いたしました。

各都市でのまちづくりの取り組み

コーディネーター：各都市でのまちづくりの取り組みについて、ご参加の方々に簡単にお話していただきたいと思います。特に煉瓦を使ったまちづくりについて、地域の歴史や特徴を生かしたまちづくり、そんなことについて、函館市の斎藤さん、いかがでしょうか。

函館市 斎藤氏：函館は昨日の喜多さんのスライドにもありましたように、結構赤煉瓦の建物があります。そのなかで、今現在、観光スポットとなっております、金森倉庫。あれは、昔貸し倉庫だったんですけども、今、海運業もあまり流行らなくなったので、その倉庫を改装して函館ビールのビアホールにしたり、貸しホールといいますか市民ホールにしたり、あと、お土産屋さんにしたり、そういう風なことで活用されていまして、観光客も結構来ています。ここは昨日もお話をしました西部地区にあたり、いろんな問題もありますけれども頑張っています。

また、市でもその横の通り、こっちはベイ函館の倉庫というのがあるんですが、その通りにですね、去年から彫刻を置きまして、ブロンズなんですけれども、それを置いて、観光客なり市民の方々に楽しんでもらおうとそういう取り組みをしています。

コーディネーター：続きまして、新潟市のほうから工藤さん、いかがでしょうか。

新潟市 工藤氏：昨日の喜多さんの講演では新潟市がなかったということで残念だったんですけども、新潟市も煉瓦造りの施設が何個かあると思うんですが、とくに市民、市役所をあげて煉瓦を守ろうとかという動きは今はまだないんですね。

それで、観光スポットとしての施設は実はありまして、昨日お配りしました資料の中に、新潟市の「水の都にいがた」というこういうパンフレットがあるんですが、その7ページに新津記念館という施設がありまして、外国人用の迎賓館なんですよ。これは入場料を払えば、見れるようになっているんですが、その他に、旧刑務所跡地についても煉瓦の壁が残っていて、それも市のですね、美術館が近くにあるんですけども、それと一緒に合わせた公園づくりをしています。ぜひ、新潟の方にも取材に来ていただいて、新潟の良さも発見して頂きたいと思います。

コーディネーター：続きまして、神戸市のほうから田中さん、いかがでしょうか。

神戸市 田中氏：私、全体会議で歴史の話を致しました。今日ずっと煉瓦造りの風景を見てきまして、やっぱり歴史を感じ、そこに最初に長崎の市長さんが心象風景とあってらっしゃいましたけれども、まさしくやはり歴史から感じ取るところの心象風景、これが現実の景色にダブってですね、感動を与えているんだと感じました。歴史の勉強というのは、心象風景を研究することによって通じているんだと思います。

神戸は、最初の話しでもしましたけれども、非常に史跡が多いんです。だけど、ある場所に立って歴史を感じると場所はないんですね。まあ、これから発掘・研究をしていこうと思っています。どうも、ありがとうございました。

神戸市 角本氏：私、南京町から来ている者なんですけれども、あそこに5年住んでおります。ですが、私は市民グループの「神戸港を考える会」というのをやっております、昭和63年には小樽・函館・新潟・横浜・大阪・神戸・長崎の皆さんで集まっていたいて、ウォーターフロント会議というのをやったんです。私がやったんですね。港町の人々が、港町の歴史性とかその文化などに関して、どう考えて今活躍しておられるかということを発表してもらったんです。

それで、煉瓦倉庫に関しましては、この前、阪神・淡路大震災で海岸通りに面しております建隆ビルなどの建物は全壊いたしました。旧居留地からハーバーランドにかけまして、明治・大正・昭和初期の建物が3棟ほどありまして、それが半減いたしました。それで、過去を振り返ってよかったと思うことは、昭和62年にですね、ハーバーランドにあります煉瓦倉庫、三菱倉庫の前身なんですけども、あれは一応、明治30年頃の築となっておりますが、あれ30年頃に決めたのは、

私が決めたんです。三菱倉庫がハーバーランドに進出したしたのは、明治35年でして、それ以前にあれがあったということで、明治30年にしようかと、いたっていい加減なものですけど。

あそこには約4,000m²、4棟がありましてですね、それが都市の再開発で、三菱倉庫の跡地というものをですね、あのようハーバーランドという副都心に生まれ変われるということで、あれを撤去して、あれに代わるものを作ろうという計画でですね、建築家とかいろんな方から聞きながらそこを調べまして、当時の宮崎市長に、私が保存要望書を書いたんです。それで、翌年の63年に、内々で話が来まして、4棟は無理と。海岸線に沿った2棟、1,920m²というものを残すのはどうだろうかということですね、私共グループで語りまして、それでよろしかろうということになりました。

海岸にあるものは非常に低いんです。それで、神戸港全域は、1,500ですね、1m50嵩上げていこうというなかで、あの建物が低いのでですね、難しい部分もあったんですが、半分をとって75センチ床を底上げするというので一応決めて、中に入る業者の方々もですね、オールドスパゲティカンパニーとかビアヒールとかステーキハウス、多目的ホールそういったものをこしらえて、新しくしたおかげで、大震災でわずかには亀裂が入りましたが、一応全壊は免れて、今も現存しているということですね。新しい町に、古いものが残って、その歴史を引き継いでいるということよかったですねと感じがいたします。ハーバーランドの煉瓦倉庫というのはそういう経緯がありまして、神戸の宝物になればと思っています。ありがとうございました。

コーディネーター：あと、横浜市の立花さん、いかがでしょうか。

横浜市 立花氏：今度は、波長をかえて横浜市職員としていきたいと思っています。横浜新港埠頭倉庫で、さきほど申し上げました150m×22mという大きな建物一つと、震災で半分になったものから長さ75mという、非常に大きな建物がございます。これはですね、2002年の春を目指して、商業施設と文化施設が一緒になったような、そういう施設を作りたいということで、現在事業主が決まったところです。それで事業計画を練って、事業展開をしようとしております。なんと麒麟ビールとサッポロビールが史上初めて協力をすると、それにビアホールの経営で有名なニュー東京という非常にいい方達が組んでいただいて、その事業主体の人も頑張っていておられます。是非ですね、2002年ワールドカップもございまして、横浜を訪れていただいてですね、おいしいビールとサッカーの雰囲気を楽しんでいただくというのがよろしいかなと思います。すいません、私、仕事でワールドカップの仕事もしておりますものですから、よろしく願います。

コーディネーター：それでは、最後に地元長崎市から中島さん、いかがでしょうか。

長崎市 中島氏：私、今、明日の報告のために精一杯です。おまけに今日、朝からずっと精神を消耗してしまっています。はっきり申し上げましてね、先進都市の4都市さんに比べると、長崎の市民団体の人の動きは非常にまだまだです。格段の差がある。はやくこのように追いついていかなければ、われわれ市民主体でなくして、長崎の場合は行政主導になっている。だから、発表したらですね、長崎の恥になるということで、あまり言いたくない訳です。残念ながら、私達の住む平和公園・博物館を中心とした平和公園地域まちづくり協議会は、景観形成地区にまだ指定されていないわけですね。都市景観のね。だから、それに向けて今、精一杯努力をしている。そのなかで、いろんな都市さんに若干でも近づいていこうというのが我々のまちづくり。今日、おそらく、あとのAコース・Bコースも我々と同じ様な状態でないかなと思います。

コーディネーター：どうもありがとうございました。皆さんからもっと詳しくお話お伺いしたいんですが、立花さん、先ほどお話にありました「まちづくり人づくり」ということについて、簡単にお話していただけますか。

横浜市 立花氏：それでは短めに。もう一つ、横浜の山手を中心とするまちづくり、中華街のまちづくりなどいろいろやっていますが、先ほど長崎市の方が謙遜された部分がありましたけれども、いえいえ、そんな地区指定をできたから、それが協議会としていいというわけではなくて、協議会として活動していいまちづくりに向けて皆さんが活動するというのがいいことであるという風に思います。ですから、ご謙遜なさることはなくてですね、こういう取り組みを始めた

ということが、大変立派なことだと私思いますし、これからも定着していただければありがたいと思います。横浜もそういうことで一緒になって、行政と話したり、市民同士で話したり、私も担当として山手地区のまちづくりに関わって長いんですけども、とにかくまちづくりって息の長い事業ですから、事業というか取り組みですよね、全然そういうことを気になさる必要はないんじゃないかというふうに思います。

それから、一つはですね、私達、市民団体として赤煉瓦ネットワークを作ったんですけど、その時の私達のノウハウというか、そういうことでいくつか考えていたのは、私名刺は常に100枚持って歩く。2枚、まあ芸名のほうと、両方で。とにかく会った人にできるだけ配って、そいでいろんな情報ももらうということをしたらいんじゃないかなと思います。それで、OBになった方で名刺を持たない方がいらっしやったりするんですけど、それは自分の名前だけでもいいし、勝手にですね、団体を作っちゃえばいいんですね。なににを考えるとかそういうものでもいいし、二人いたら一人が運営委員長で、一人が事務局長で肩書きつけちゃうんですよ。そしたら、すごい団体だなと思われるじゃないですか。そういうことで自分をPRしていくという方法だっていいし、舞鶴建築探偵団の時なんて、規約がユニークすぎてですね、私は聞いたときに卒倒したんですけど、会合をやるときの理由というのがですね、会長が飲みたくなったとき、副会長が歌いたくなったとき、飲食店が新規開店をしたとき、お店からの誘いを断れないとき、顧問が里帰りしたときなんていうこんなふざけた規約でも、楽しくやれるわけですね。だから自分達で活動が楽しくなる仕掛けをね、もっとたくさん皆さんノウハウお持ちだと思うんですけども、そういうことを具現化していくというんですかね、そういうのがまちづくりの知恵に繋がるんじゃないかなと思います。

コーディネーター：ありがとうございます。あと、今日はハルデス煉瓦のことがよく分かったんですが、今後、煉瓦を使った取り組みの切り口は見つかりましたか。

長谷崎氏：今、煉瓦の建物は倉庫しかありませんので、是非、何かの建物を復元するさいには、化粧材とかそういうポジションで市に貢献できることがあったらなあというふうに思っています。逆にいえば、このハルデス煉瓦は文化遺産だと思いますので、是非有効に使いたいと思います。今回このハルデスさんが偶然、オランダ人で、今年が日蘭交流400周年ということや、喜多さんが私と一緒に長崎東高校卒業だということは、何か縁があるんじゃないかなあと思いますので、それだけの会に終わるんじゃなくてですね、是非、ハルデス煉瓦を蘇らせたいたいと思います。是非協力お願いしたいなと思います。よろしくお願ひします。

まとめ

長崎市立博物館長 原田 博二氏

ここまで、いろいろとお話を伺いまして、各都市の熱心な保存はさらには活用を含め、各都市の市民団体の動きが良く分かりましたし、先ほどの長崎の話にありましたけれども、長崎はそういう面で、もう少し努力する必要があるのかと思ったわけでございます。ただ、長崎の場合、一応、午前中行っていただきましたように、旧浦上天主堂をはじめといたしまして、いわゆるその煉瓦がですね、平和を祈念する運動に繋がるという、熱心にそういった活動をしておられます。

これは、私の感想でございますけれども、さっきの旧浦上天主堂もそうですけれども、かつて市内にまだまだ煉瓦の建物があり、本当に子供心にすごいと思ったことが随分ございました。例えば、長崎の桜町、商工会議所。私は飽の浦公園というところに生まれます。子供の頃、5歳までいたんですけども、ここにあった三菱病院、今でもよく記憶に残っています。まだまだ他にも建物が市内にはあったんでございますけれども、そういったものが今残っていれば、いろんな面で活用できたのという風に思うわけでございます。そういう意味で、こういったものを活用し、さらには補助し、ということをや、やはり心掛けるべきだと思います。また、そういうことを考えたと思います。これがまとめになったかどうかは分かりませんが、一応私の感想ということでお許しいただければ幸いです。

各都市代表者会議

【日時】

平成12年10月7日(土)17:30~19:30

【場所】

花月(県指定史跡)

- 議題
- 開港5都市景観まちづくり会議規約
 - 開港5都市景観まちづくり会議長崎大会大会アピール
 - 次回開催都市について



【参加者名簿】

都 市 名	団 体 名	名 前
函 館 市	都市建設部都市デザイン課	斎 藤 庶 民
新 潟 市	にいがた花絵プロジェクト	小 柳 行 弘
	新潟市建築指導課都市景観室	阿 部 保 夫
横 浜 市	山手地区景観まちづくり協議会	天 川 勝 三 郎
	横浜市都市計画局都市デザイン室	足 立 原 敦
神 戸 市	美しい街岡本協議会	田 中 三 郎
	神戸市都市計画局アーバンデザイン室	倉 橋 正 己
長 崎 市	山手地区景観まちづくり協議会	橋 田 克 男
	山手地区景観まちづくり協議会	寺 坂 繁 春
	十善寺地区まちづくり協議会	廣 瀬 孝
	平和公園地域まちづくり協議会	中 島 昭 雄
	平和公園地域まちづくり協議会	内 田 伯
	大浦居留地商店街	今 村 茂 敏
	長崎市都市計画部長	松 本 紘 明
	長崎市都市計画部理事	下 釜 憲 一
長崎市都市計画部都市景観課長	村 元 俊 夫	
長崎市都市計画部都市景観課屋外広告物係長	大 塚 未 市	
長崎市都市計画部都市景観課景観係長	中 村 弘 昭	
長崎市都市計画部都市景観課景観係	原 田 宏 子	

議題1.開港5都市景観まちづくり会議規約について

特に問題がないため、変更なしで承認された。

議題2.開港5都市景観まちづくり会議長崎大会の大会アピールについて

長崎大会実行委員会より原案を提案し、全都市一致で採択された。

開港5都市景観まちづくり会議長崎大会
大会アピール(案)

20世紀最後の年である西暦2000年、秋、
開港都市としての歴史と文化を共有する5つの都市の市民が、ここ長崎に集い
“開港都市の遺伝子を伝える／長崎から21世紀に発信する都市文化の創造”
を基本テーマに、熱く語り合った。
これまで、海外との交流の中で培われた歴史や文化をあらためて振り返り、
希望に満ちた21世紀に生きていく次の世代に継承すべき文化を再認識し、
それぞれの都市の個性をまもり、そだてることへの思いを強くした。
5都市の市民がお互いを理解しあい、交流を深めることのできるこの会議は、
21世紀においても、重要な役割を果たすものと確信する。

20世紀最後の年に開かれた本大会も、
我々が21世紀になにをなすべきか、どう活動していくべきか、
大きな手がかりを与えてくれた。
まちづくりは、確たる将来展望のもと、我々市民が主体となり、
取り組むことで、はじめて実現するものである。
今日、ここに集まった我々は、以上の認識に立ち、
本大会において、見て、聞いて、そして学んだものを活かし、
後世に引き継がれるべき魅力ある、価値あるまちづくりを目指し、
努力していくことを互いに確認し、宣言する。
再び会することを約して。

2000年10月8日

開港5都市景観まちづくり会議長崎大会

議題3.来年度開催都市について

新潟市において開催することを決定。

全体会議 2

【日時】

平成12年10月8日(金) 10:00~12:00

【場所】

旧香港上海銀行長崎支店記念館

【参加人数】

100人

1. 地域分科会報告

地域分科会A 東山手・南山手地区一帯

山手地区景観まちづくり協議会 田中 美朗

地域分科会B 新地・館内地区一帯

十善寺地区まちづくり協議会 廣瀬 孝

地域分科会C 平和公園地区一帯

平和公園地域まちづくり協議会 中島 昭雄

2. 代表者会議報告 長崎市都市景観課長 村元 俊夫

3. 大会アピール 開港5都市景観まちづくり会議長崎大会
実行委員会 副会長 中島 昭雄

4. 会長謝辞 開港5都市景観まちづくり会議長崎大会
実行委員会 会長 橋田 克男

5. 次回開催地会長あいさつ 新潟市

6. 閉会のことば 開港5都市景観まちづくり会議長崎大会
実行委員会 副会長 廣瀬 孝



私たちは、「旧外国人居留地の秘話」と題しまして、長崎で活躍し、そして長崎の地に骨をうずめた人々の暮らしと、隠れた業績に焦点をあてながら、街の歴史や、文化を継承することをテーマに掲げました。

まず、長崎の誰よりも日本人らしい外国人であると言われております、ブライアン・パークガフニさんの案内で、東山手と南山手に残された洋館建築を見て歩き、居留地の生活がどうであったかを知る手がかりといたしました。

英国領事館を出発し、オランダ坂を登り東山手12番館や、外国人のために建てられたという賃貸住宅である洋館7棟を見学しながら、パークガフニさんから残された手紙や、そこに暮した人々の思い出をエピソードに、そこに営んでいたであろう人々の生活やユーモアを交えながら話されました。

次に長崎の国際墓地の一つでありながら、幻の墓地と言われ、あまり知られていない川上町の大浦国際墓地を訪ねました。そこに眠る人々が300人にもなること、そして、市内の国際墓地3箇所には、1,500人を超える人々が永遠の眠りについていらっしゃるという話をパークガフニさんが話され、興味深く聞くことができました。

午後からの講演では、まず、長崎の居留地が生まれた歴史的、政策的背景そして、明治20年ごろから、外国貿易の主体が、横浜や神戸に移っていった後、日清戦争の勝利によって外国船が再びたくさん入港するようになった事など一旦は息を吹き返しましたが、日露戦争の後は再び衰退していったことなどが興味深く説明されました。そして、国際墓地に眠る人々の多くは、無名の故人ですが、それぞれの人生にドラマがあったこと、そして隠れた業績や国の歴史を動かすきっかけを作った人々があることを、ある英国人の紳士の死を例にとってお話していただきました。さらに、英雄的存在であったトーマス・グラバー、また、同じように日本の近代化に努力したグラバー・Jr.である倉場富三郎氏の不適切な死や、ドラマチックな家族の生い立ちであったウォーカー一族の話など興味深い話があげられました。そして、歴史的な洋館を生かすには、保存するだけでなく、目には見えないけれども、そこで繰り広げられたであろう人々の歴史があったことを無視してはいけない事。見た目の美しさだけでは本当の感動を与えられない。そして、洋館が生活感の無い建造物となつては外に訴える物が無い事。つまり、そこにあった人々の暮らしの歴史、例えば愛や裏切りや生活のドラマを掘り起こす必要があるということをお話されました。

それを受けた話し合いでは、次のような意見が交わされました。

講師の講演でウォーカー邸の説明板に不足する点があり、市は未だ修正していない事実があることに對し、洋館のアバウトは、説明を修正することは、最初の人々の過ちを認めることになり、日本人の気質に合わないからではないかという意見が出されました。これは、もちろん日本人の悪いところです。しかし、資料が増えることで、新たに事情が判明する訳で、最初の説明もその時点では過ちではない事を分かって貰えばよいのではないかという意見がありました。

さらに、観光活性化の街なのか、それとも生活・環境・過疎化といった問題については、長崎の洋館は市が買い取り保存するが、神戸では個人が所有し活用している事などが大きく違うという点が述べられました。市が所有することで、物理的な維持・管理はいいが、生きた活用にはなっていないこと。長崎では、観光と生活が一体になっており、不便な点があれば、住民がよい方法を考えながらまちづくりをしなければならないことなどが挙げられました。

また、居留地の資料集めというのは非常に困難だと思うが、どんな方法で集めればいいのかという

質問に対して、パークガフニさんから、まず、居留地に対して興味を持つことが大事なんだと、その次には、海外に目を向ける必要があるんだと、つまり、居留地におられた方が海外から来られた時の場所、それがイギリスであればイギリスの資料館などを参考に研究したらどうかという回答がありました。

『観光産業』については、観光産業は、観光資源を頼りにしているので、観光産業とそのものあり方を変える必要があるとの意見がさだされました。『居留地』は、色々な条件がそろって出来た特殊な部分であり、そこは、日本でもない外国でもない、両方が調和した奇跡的なものであると説明を受けました。

まとめとして、洋館が重要な財産である事を皆が認め、国際交流の歴史にスポットを当てる必要があること。洋館だけではなくて、日本の家屋も大事にすべきではないかという話のなりました。以上で、報告を終わらせていただきます。

地域分科会Bコース

十善寺地域まちづくり協議会 廣瀬 孝 氏



Bコースは、新地町と館内町を中心に、中国と長崎の歴史が交差し、異国情緒があると言われる長崎の街の中でも、独特の雰囲気を持つ町を見ていただき、歴史を活かすまちづくりとは何かを考えていただくことをテーマに開催いたしました。

午前中は、地元長崎からの参加者も含めまして、約40名の参加で、新地湊公園を出発し、今まであまり知られていなかったもうひとつの長崎を見ていただきたいと新地町・館内町のタウンウォッチングを行いました。

新地中華街から館内町唐人屋敷跡まで、唐人屋敷ゆかりの歴史遺構や長崎の町並み、コミュニティ住宅を活用して地域の人たちに開放されたエレベーターなどを見ていただき、また、十善寺龍踊り会のメンバーと、日本で初めての龍踊りが行われた町で龍踊りの体験もしていただきました。

長崎は海に囲まれて、市街地の7割が斜面という斜面の町でもあります。初めて見られた唐人屋敷という歴史遺産に驚かれる以上に、斜面での生活の不便さや斜面に住む魅力に対する驚きも感じていただいたのではないのでしょうか。

私がただ1つ心配しておりますのは、長崎特有の階段の昇り降り、龍踊りの体験をしていただきまして、今日、皆様は筋肉痛に悩まされていらっしゃるのではないかとこの事でございます。長崎のお土産とともに、ぜひこの痛みをこのままお持ち帰りいただき、良い思い出としていただきますようお願いいたします。

午後は、唐人屋敷跡に建つ福建会館天后堂で、トークインを行いました。中国琵琶の演奏を楽しんだ後、中国と長崎の歴史の解説、歴史と共に生き、斜面に生活するためにライフスタイルの提案、住民のまちづくり活動の紹介が行われた後、参加された皆さんと意見交換を行いました。

にいがた花絵プロジェクト、神戸南京町、栄町、新長田駅北地区、魚崎郷、岡本地区、そして長崎市の伝習所の活動など、皆様のこれまでの素晴らしい活動のご報告も交えながら館内地区のまちづくりの貴重なご提言をいただきました。短い時間内ではありましたが、新地・館内地区のイメージベースである中国というものの本質的な部分の協議まで行っていただき、地元の者にとりましては、大きな財産を得たような思いがいたします。

ご参加の皆様の一言一言が、これからのまちづくりについて、大きな意味のあるもので、それを一言で言い表すことは困難でございますが、あえて私の方から私の立場で申し上げますと、ハード

についての基本的なコンセプトと地域コミュニティということに集約されるのではと感じております。

唐人屋敷は、鎖国時代に、中国の方の住まいがここだけに限られていたという出島と並ぶ貴重な歴史遺産であります。これを残し、かつ次の世代に引き継ぐことは、私たちの使命であるとも思っております。

わずかな時間ではありましたが、皆様からいただいたご意見をこれからのまちづくりに活かして行きたいと思っております。皆様におかれましても、この初めて体験されたもうひとつの長崎を今日の筋肉痛とともに、忘れないでいただき、新地・館内地区のまちづくりを今後とも見守っていただければ幸いです。

再びこの唐人屋敷でお会いできる日を楽しみにいたしまして、以上、簡単ではございますが、分科会のご報告とお礼に代えさせていただきます。

地域分科会Cコース

平和公園地域まちづくり協議会 中島 昭雄氏



C分科会では、「煉瓦で語る平和のまちづくり」というテーマで42名の参加をいただきました。長崎では、皆さんが全体会議をやりましたあの原爆資料館、後ろに平和会館、これを『学びのゾーン』と位置づけています。それから、原爆落下中心碑公園、浦上天主堂のゾーンを『祈りのゾーン』といい、小高い丘の上の平和祈念像がある公園を『願いのゾーン』としています。学び、祈りそして願う。こういう3つのゾーンを持っています。

昨日は定刻どおり、午前9時30分に原爆落下中心碑公園にご集合いただきました。あの中心碑の塔の上空約500mの所で、昭和20年8月9日11時2分に1発の原子爆弾が炸裂いたしました。そして、一瞬のうちに約207万4000人の人命を奪ってしまったんです。ここは、戦争を二度と起こしてはならない、そしてまた、長崎のいや、浦上の原子爆弾の惨状を二度と繰り返してはいけないということで、世界平和を願っているゾーンの中心地でございます。そこで、ご集合いただきまして、そういう概要を私の方から説明をし、タウンウォッチングに入りました。まず行った所は浦上天主堂です。これは、国宝級の建物で、赤レンガ風の建物です。長崎出身の喜田さんが、全体会議で講演なさったので省かせていただきますが、我々が浦上天主堂に立ち寄った時、タウンウォッチングを祝福するように、ちょうど結婚式がございまして、大いに感銘をうけました。そして、天主堂にまつわる煉瓦の遺構について、地元の宮崎自治会長から説明を受け、それから足を伸ばしまして、皆様ご承知のように永井博士ですね、必ず長崎では原爆の問題が出ると、当時の永井博士、如己堂、記念館が話しに出るわけですが、そこへ行きました。そこにまつわる話しをビデオで勉強し、そこから約10分ほど歩きますと、あの小高い丘の上に平和祈念像が座っている、祈念公園になるわけです。その祈念公園そのものは、旧長崎刑務所の支所の跡地でございます。そして、中国の方、朝鮮半島の方等々がかなりそこで亡くなっておられます。その遺構について、地元の内田自治会長から説明を受け、それから、丘を下りまして、浦上川という川が流れております。その川をわたりまして、九州電力ビルに行きました。このビルの10階の大きなラウンジからから眼下を見ると、ちょうど浦上川が見え、浦上の地域全体が展望出来ます。あの55年前の惨事が想像できないほど復興した町が展望できました。見渡しながら、当時の様子を私から説明しました。

昼食後、歩いて松山町の電停に行き、そこから、今度はレトロ電車で大波止へ行きました。ちょうど昨日は長崎のお宮日の初日で、あの混雑の中、Aコースの方ともお会いできたと思っておりますが、

あの波止場から船に乗って、長崎港を渡り、三菱重工へ行きました。重工の中を歩いて見学し、資料館へと行きました。これも赤煉瓦で出来ておりまして、喜田さんの講演の中に説明がございましたので、省かせていただきます。

この資料館というのは赤煉瓦の建物ですが、三菱重工の鋳物工場の木型を作っておった木型場、木型を作っておった作業場です。私事になりますが、私も喜田さんも同じ三菱重工の出身でございます。非常に懐かしく、感慨深いものがありました。約30分資料館を見学し、重工の歴史について勉強しました。その後、展示館で、パネルディスカッションにはいりました。コーディネーターは、長崎で非常に有名な方ですが、ちょうど、昨日、長崎くんちの『おくだり』の解説を午前中しておられたようですが、原田館長、長崎市立博物館の館長です。それからパネラーといたしまして、平和公園地域まちづくり協議会から内田会長、有限会社長崎テクノサービスの前田さん、三菱重工株式会社の長谷崎さん、鉄川工務店の鉄川さん、横浜市から赤レンガネットワークの立花さん、そしてオブザーバーとして喜田さん、このメンバーで行ないました。それぞれが、それぞれの立場で、例えば平和公園地域からは、浦上天主堂にまつわる歴史の問題、それから、それぞれの会社の方は、研究されたハルデス煉瓦の分析結果について、そして、鉄川さんは、五島列島の教会の話、立花さんは、赤レンガネットワークの立場から、全国を廻られた各都市の状況等の報告をいただきながら、無事にパネルディスカッションを終えました。これには、約50名の参加がありました。そして最後にまとめとして、コーディネーターの方から、それぞれの各地の様々な歴史の中で、赤煉瓦の建物についての色々な問題点が残っております。我々も長崎に居りながら、つつい赤煉瓦を見ごしていたという反省をいたします。今後とも、この赤煉瓦に視点をあてながら、平和へのまちづくり、或いは世界に向かって、長崎から、いや、この浦上から平和へのまちづくり、或いは、平和都市宣言をやるべきではないかという、我々一同も反省とそれから確信を得た次第でございます。

なお、最後になりましたが、私事になって大変恐縮でございますが、実は20世紀末、去る8月9日、これは長崎原爆の日です。記念像のある平和公園で毎年、祈念式典が行なわれます。私、実は被爆者なんです。平和への誓いの指名が私へかかってきました。NHKの全国放送がありました。私もあそこで世界に向けて平和への宣言、平和への願い、平和への誓いをさせていただきました。その節には色々な方々から激励をいただきましてありがとうございました。余分なこととここでお詫び申し上げながら、分科会Cコースの報告を終わります。



代表者会議報告

長崎市都市景観課長 村元 俊夫氏



代表者会議のご報告をさせていただきます。議題は、3点ございました。一つ目は、規約の承認について。二つ目が大会アピールの採択について。三つめは、来年の開催地の決定についてでございます。

まず、一つ目の規約についてですが、今回特に改正すべき点がございませんでしたので、本規約を承認いたしました。

二つ目の大会アピールにつきましては、採択されておりますので、後ほど、本大会副実行委員長より読み見上げていただきましてご報告に代えさせていただきます。

三つ目の来年の開催地につきましては、新潟市で開催される事が決定いたしました。新潟市の皆様におかれましては、来年はよろしくお願いたします。以上が決定事項であります。

その他に懸案事項といたしまして、開港5都市景観まちづくり会議の『旗』を作成して、各都市で持ち回ってはどうかというご意見がありました。来年の開催地であります新潟市に是非実現に向けてご検討していただければ幸いに存じますので、よろしくお願いたします。

以上で代表者会議のご報告を終わらせていただきます。



(名称)

第1条 本会議の名称は、「開港5都市景観まちづくり会議」（以下「景観まちづくり会議」という）と称する。

(目的)

第2条 景観まちづくり会議は、安政5年に開港港に指定された函館、新潟、横浜、神戸及び長崎の5都市（以下「開港5都市」という）の市民が、景観、歴史、文化、環境などを大切に守り、愛着をもってそだて、個性豊かで魅力のあるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、開港5都市のまちづくりの推進に資することを目的とする。

(活動)

第3条 景観まちづくり会議は、前条の目的を達成するために次の活動を行う。

(ア) 情報の交換

(イ) 共通の課題に対する調査研究

(ウ) その他、前条の目的達成に必要な活動

(組織)

第4条 景観まちづくり会議は、開港5都市のまちづくりを実践する市民団体等で構成する。

2 必要に応じ、関係諸機関、団体等の参加を求めることができる。

(会議)

第5条 景観まちづくり会議の会議は、定期大会及び代表者会議とする。

2 定期大会は、原則として年1回会長が召集し開催するものとし、代表者会議は、会長が必要に応じて召集することができる。

(役員)

第6条 景観まちづくり会議に会長を置く。

2 会長は、定期大会開催都市の実行委員会又はまちづくりを実践する市民団体等の代表者をもって充てる。

3 会長は、本会議を代表し、会務を総理する。

4 役員任期は、定期大会終了から次期定期大会終了までの間とする。

(事務局)

第7条 景観まちづくり会議の事務局を会長都市の実行委員会またはまちづくりを実践する市民団体等に置く。

(規約の改正)

第8条 本規約の改正は、景観まちづくり会議の代表者会議の議決によらなければならない。

付 則

本規約は、平成11年10月1日から施行する。

開港5都市景観まちづくり会議の開催経過

- ・ 1993年(平成 5年) 8月 第1回神戸大会 テーマ「市民主導のまちなみ・まちづくり」
- ・ 1994年(平成 6年) 10月 第2回長崎大会 テーマ「市民主導のまちなみ・まちづくり」
- ・ 1996年(平成 8年) 2月 第3回新潟大会 テーマ「港といっしょになった都市、一体となった都市って何だろう」
- ・ 1996年(平成 8年) 10月 第4回函館大会 テーマ「北の開港都市に民の系譜をさぐる」
- ・ 1997年(平成 9年) 10月 第5回横浜大会 テーマ「開港都市の伝統・文化を活かした街づくり」
- ・ 1998年(平成10年) 中 断
- ・ 1999年(平成11年) 10月 第6回神戸大会 テーマ「開港都市の未来(あした)を探る」
- ・ 2000年(平成12年) 10月 第7回長崎大会 テーマ「開港都市の遺伝子を伝える」

(名称)

第1条 本会の名称は、「開港5都市景観まちづくり会議長崎大会実行委員会」（以下「実行委員会」という）と称する。

(目的及び事業)

第2条 実行委員会は、安政5年に開港港に指定された函館、新潟、横浜、神戸及び長崎の5都市（以下「開港5都市」という）の市民が、景観、歴史、文化、環境などを大切に守り、愛着をもってそだて、個性豊かで魅力のあるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、開港5都市のまちづくりの推進に資するために、次に掲げる事業を行うものとする。

(ア) 開港5都市景観まちづくり会議長崎大会の企画、運営

(イ) その他目的達成に必要な事業

(組織)

第3条 実行委員会は、まちづくりを実践する市民団体等の代表者等で構成する。

2 必要に応じ、関係諸機関、団体等の参加を求めることができる。

(実行委員長及び副委員長)

第4条 実行委員会に実行委員長1名及び副委員長2名を置く。

2 実行委員長、副委員長は、実行委員の互選によって定める。

3 実行委員長は、会務を総理し、実行委員会を代表する。

4 副委員長は、実行委員長を補佐し、実行委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 実行委員会の会議は、実行委員長が召集する。

2 実行委員会は、委員の2分の1以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 実行委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、実行委員長の決するところによる。

(監事)

第6条 実行委員会の財務を監査するために監事を置く。

2 監事は、会長が委嘱する。

(事務局)

第7条 実行委員会の事務局を長崎市都市計画部都市景観課に置く。

(予算等)

第8条 実行委員会の予算は、負担金、協賛金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(委任)

第9条 この規約に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、実行委員長が実行委員会に諮って定める。

付 則

1 この規約は、平成12年5月25日から施行する。

2 この規約は、事業終了後4ヶ月をもって廃止する。

橋田克男／開港5都市景観まちづくり会議 長崎大会実行委員会 会長

開港5都市景観まちづくり会議長崎大会
大会アピール

20世紀最後の年である西暦2000年、秋、
開港都市としての歴史と文化を共有する5つの都市の市民が、ここ長崎に集い
“開港都市の遺伝子を伝える／長崎から21世紀に発信する都市文化の創造”
を基本テーマに、熱く語り合った。
これまで、海外との交流の中で培われた歴史や文化をあらためて振り返り、
希望に満ちた21世紀に生きていく次の世代に継承すべき文化を再認識し、
それぞれの都市の個性をまもり、そだてることへの思いを強くした。
5都市の市民がお互いを理解しあい、交流を深めることのできるこの会議は、
21世紀においても、重要な役割を果たすものと確信する。
20世紀最後の年に開かれた本大会も、
我々が21世紀になにをなすべきか、どう活動していくべきか、
大きな手がかりを与えてくれた。
まちづくりは、確たる将来展望のもと、我々市民が主体となり、
取り組むことで、はじめて実現するものである。
今日、ここに集まった我々は、以上の認識に立ち、
本大会において、見て、聞いて、そして学んだものを活かし、
後世に引き継がれるべき魅力ある、価値あるまちづくりを目指し、
努力していくことを互いに確認し、宣言する。
再び会することを約して。

2000年10月8日

開港5都市景観まちづくり会議長崎大会

会長謝辞

一昨日始まりました「開港都市景観まちづくり会議 長崎大会」も、皆様方のご協力のおかげ
をもちまして、3日間にわたるすべての日程を無事終えることとなりました。

大変ありがとうございました。

20世紀最後となる今大会におきまして、「開港都市の遺伝子を伝える」を基本テーマとして、
これまで取り組んできたまちづくりを振り返り、21世紀に引き継ぐべき文化、そしてまちなみについて、
皆様方とともに考え、ともに学ぶことができましたことは、これからの私どもの活動にとって、
大変有意義であったと存じます。

期間中、ご覧いただきました長崎のまちなみにつきましては、現状に満足することなく、皆様
方からいただきました貴重なご意見を参考にして、さらに魅力のあるまちづくりに取り組んでまい
りたいと考えております。

また、昨日の長崎くんち、あるいは夜景はお楽しみいただけましたでしょうか。

グラバー園をはじめとして、これらは、観光都市長崎の貴重な観光資源でありまして、お気づ
きの点がございましたら、後程お聞かせいただきますようお願い申し上げます。

さて、来年は、新潟で会議が開催されるわけですが、是非、また皆様方とお会いし、
まちづくりについて語り合うことができますことを楽しみにいたしております。

最後に、大会期間中、多々いたならぬ点があり、皆様方には大変ご迷惑をおかけしたことをお
詫び申し上げまして、簡単ではございますが、私の感謝のことばとさせていただきます。

本当にありがとうございました。

平成12年10月8日

開港5都市景観まちづくり会議長崎大会

実行委員会 会長 橋田 克男

次回 開催地会長あいさつ

来年は、新潟で開催ということで決定しました。今日は、筋肉痛ですが、明日からは、
頭痛がきそうです。長崎は、とても素晴らしいところでした。歴史・文化・景観など
いろいろなことが、この町の中に詰まっていた。皆さん、頑張っているなと感じま
した。昨日の代表者会議でも言ったのですが、分科会Bで町の散策をしていました。
そしたら小学生の女の子がこちらに来て、「こんにちは」と言いました。これがすご



く印象的で、「これが長崎の
心だな」と感じました。この
長崎の思いを長崎大会の思い
出に、新潟は、新潟らしい思
い入れで皆様を歓迎したいと
思います。是非、新潟に来年
来てください。お願いします。
待っています。

開港5都市景観まちづくり会議長崎大会

無事終了しました!!

10月6日(金)~10月8日(日)の3日間、
開港5都市景観まちづくり会議を開催しました。
概要だけご報告いたします(詳しくは、報告書を作成します)

【全体会議1】

6日(金) 14:00~17:00
於:原爆資料館ホール

【他都市参加者】

函館市:1名 横浜市:5名
新潟市:13名 神戸市:21名

【ウェルカムパーティ】

7日(土) 18:30~20:30
於:グラバー園オルト邸前庭

パワー全開!!

参加者:約100名
ライトアップの中、オペラをBGMに和やかな(?)ひと時を過ごしました。
※料理もお酒も大好評!

参加者:約220名

各都市のまちづくり団体から活動報告をしてもらいました。
喜田さんの講演は、解りやすく、楽しいものでした。

【Aコース 山手地区】

参加者:52名
船上の昼食がGood!

【地域分科会】

7日(土) 9:30~16:30
於:各会場

【Bコース 新地・館内地区】

参加者:42名
中国色豊かなまちを見て、学んだ。

【Cコース 平和公園地区】

参加者:50名
煉瓦をキーワードに歩いた、歩いた……

どれくらい歩いたかなー?

【代表者会議】

7日(土) 17:00~ 於:花月
次回開催地の決定
大会アピール(案)作成

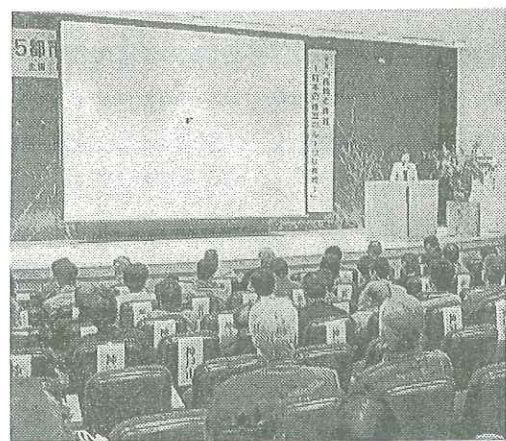
【全体会議2】

8日(土) 10:00~
於:旧香港上海銀行
参加者:約100名
各部分科会報告・大会アピール採択

【来年、新潟で再会することを約束して……END】

開港の歴史や景観生かした街を模索

5都市の代表 長崎で会議
幕末の安政年間、日米修好通商条約で開港した長崎、函館、新潟、横浜、神戸の市民らが意見交換する「開港5都市景観まちづくり」の長崎原爆資料館で開幕した。日本の近代化に大きな役割を果たした五港の各都市の代表らが、歴史や文化を生かした町づくりを模索しようと七年前から交流。二回目となる長崎大会は、長崎市内各地のまちづくりグループなどでつくる実行委が主催。約二百人が参加した。



幕末に開港した5都市の市民が意見交換した景観まちづくり会議長崎大会
—長崎市平野町、長崎原爆資料館

初日の全体会議で、実行委の橋田克男委員長は「海外交流で培われた個性豊かな歴史や文化を次代に伝えよう」とあいさつ。各都市の市民団体代表らが、高層ビルなどの建設と街並みの調和に苦心しながら町づくりを進めている現状を報告した。
二日からは同市の東山手・南山手、新地・館内、平和公園周辺の三地区で歴史遺産を学ぶ分科会などが開かれる。

平成12年10月7日 長崎新聞

パークガフニさん講演や洋館見学も

開港5都市会議閉幕
幕末の日米修好通商条約で開港した長崎、函館、新潟、横浜、神戸五都市の市民団体などが六日から、長崎市で開いていた「開港5都市景観まちづくり会議」長崎大会は八日、各分科会からの報告の後、大会宣言



ブライアン・パークガフニさんの話を聴く
参加者—長崎市松が枝町、旧香港上海銀行

の近代化に貢献したトーマス・グラバーら外国人について同市の国際コーディネーター、ブライアン・パークガフニさんの話を聞いた。

平成12年10月9日 長崎新聞

新潟の財産は
酒・食・緑・海
それから夕日！
皆さん！ぜひ見に来て！！

今回のテーマは
夏です！

ウェルカムパーティの時から
スタッフの努力、
心配りに注目！
来年の参考になります。

2001年、
新潟で
お会いしましょう……

山・海・酒
新潟美人！
ぜひ見に来てネ

緑いっぱいの
暑い新潟へ
どうぞ！

市民の方の優しさに感激！
新潟大会は
心のおもてなしをします。

長崎は素晴らしい所でした。
新潟大会も特徴ある分野で
頑張りまーす。

足が疲れたー！
6年ぶりの長崎は、景色はだいぶ
変わったけど、皆の気持ちは
変わってなかったのが嬉しい。
来年は、多くの地元の人々と
歓迎します。

長崎の町大好き！
人も親切！
新潟も若者のパワー全開で
熱気あふれる大会に！

新潟から参加された方のコメント

発行元

開港5都市景観まちづくり会議
長崎大会実行委員会